

RI第2660地区 2000—2001年度 地区大会記録



2001年 4月27日(金) リーガロイヤルホテル
4月28日(土) 大阪国際会議場
ホスト：大阪北ロータリークラブ

RI第2660地区 2000—2001年度 地区大会記録



**The 21st Century:
Japan's Identity**



大会第1日

4月27日

リーガロイヤルホテル

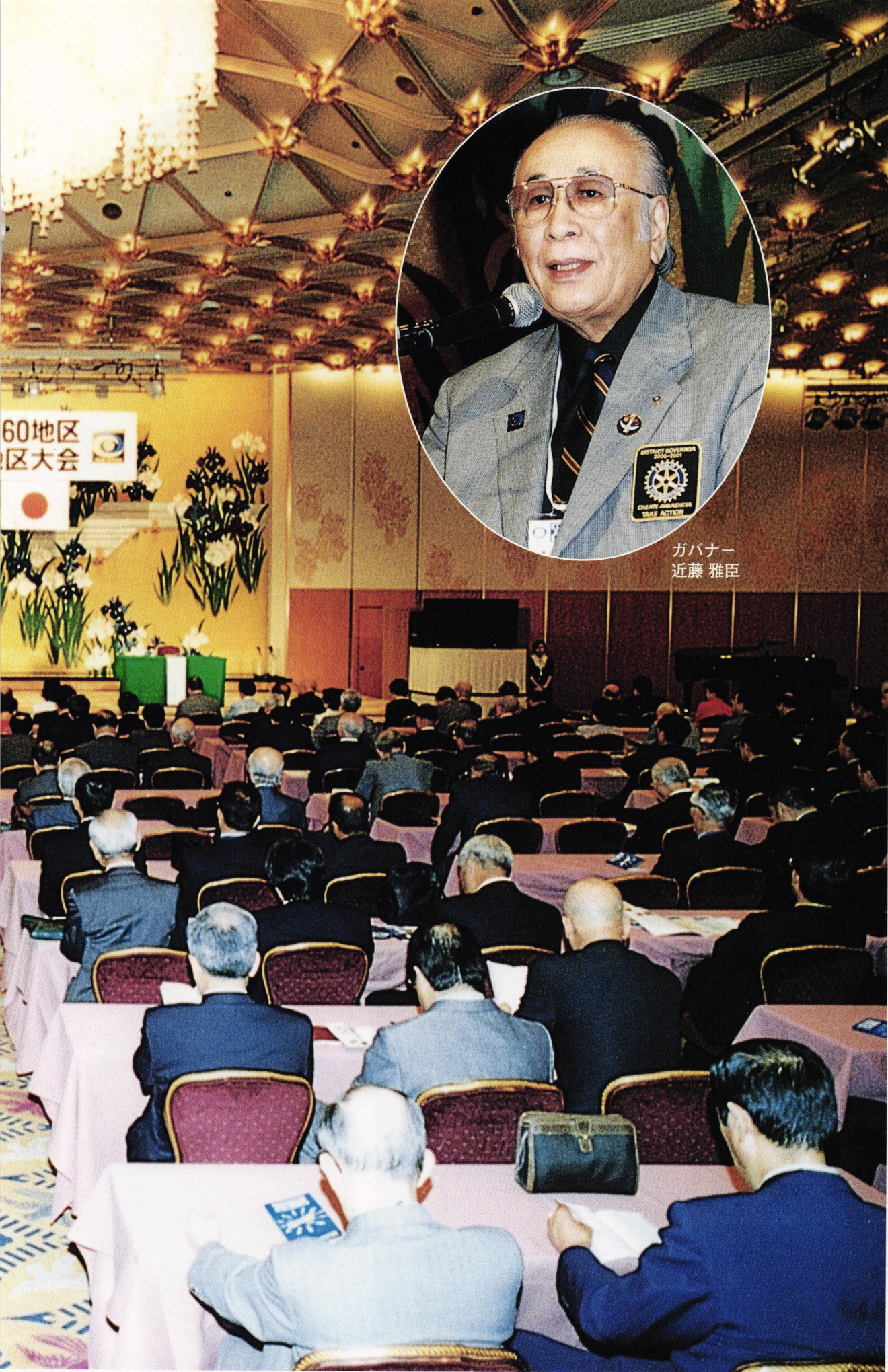


RI会長代理
蔡 熙秉 (チェ ヒー ビョン)



大会第1日会場全景





ガバナー
近藤 雅臣

大会第1日

4月27日

リーガロイヤルホテル

開会挨拶 古市 実大会委員長



韓日両国国歌斉唱



ロータリーソング斉唱



ロータリーソング斉唱
窪田 譲ソングリーダー



来賓紹介



来賓紹介



司会進行 木本 武雄大会SAA

シンポジウム
ロータリアンによる
討論

4月27日
リーガロイヤルホテル



コーディネーター
永野 啓之介地区アドバイザー



パネリスト 橋本 憲之(大阪南)



パネリスト 平岡 龍人(大阪)



問題提起 井上 暎夫ガバナー補佐



パネリスト 岩本 洋子(大阪そねざき)



パネリスト 若林 紀男(大阪東)



質疑応答



質疑応答



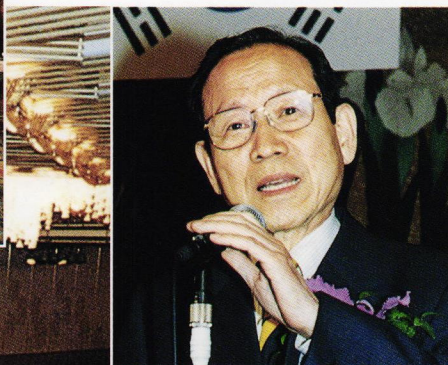
司会 山本 潤

RI会長代理 ご夫妻 歓迎晩餐会

4月27日
リーガロイヤルホテル



RI会長代理ご夫妻入場



蔡 RI会長代理挨拶



乾杯 元RI理事小谷 隆一

RI会長代理ご夫妻歓迎晩餐会



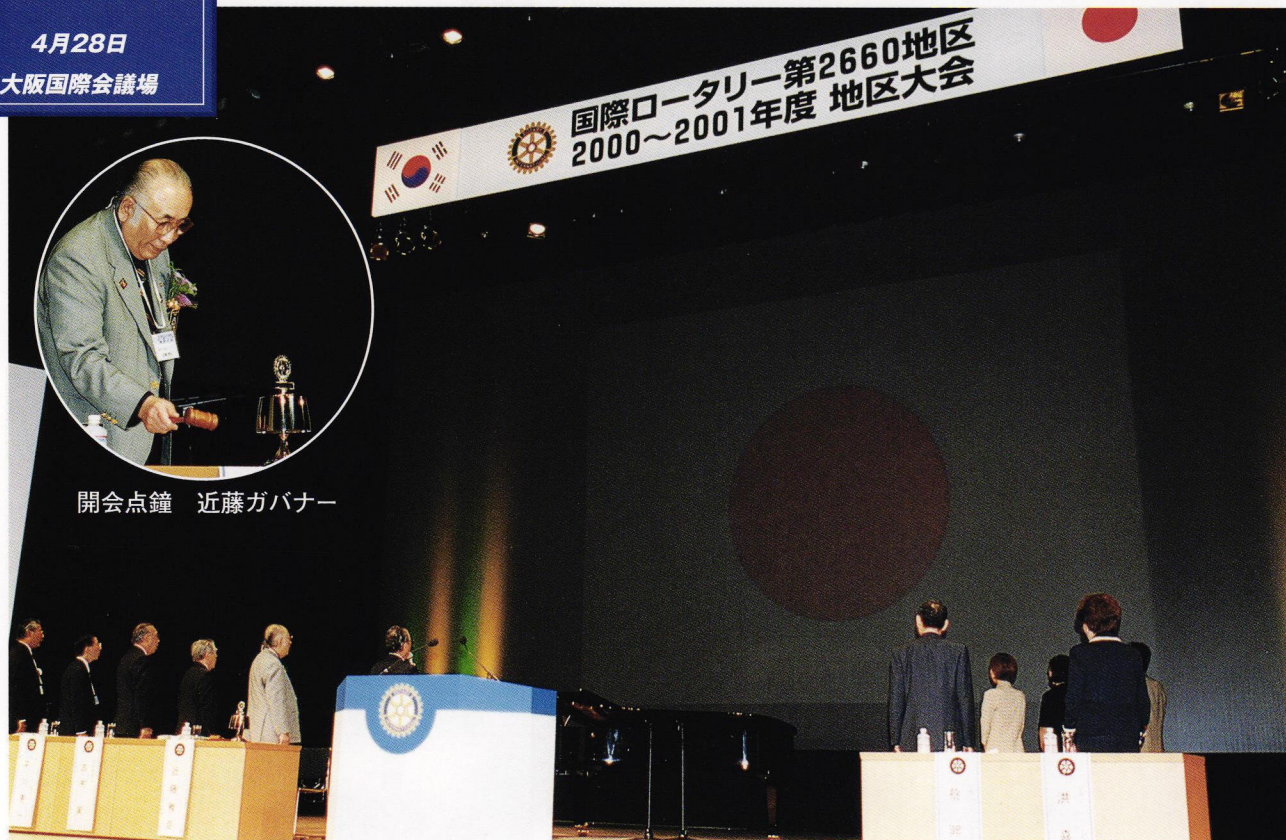
サウスサイドジャズバンド



閉会挨拶
平川 恵一ホストクラブ会長

本会議 大会第2日

4月28日
大阪国際会議場



開会点鐘 近藤ガバナー

国歌斉唱



司会進行 阪口 善雄、緒方 満、木本 武雄の3SAA

来賓紹介



参加クラブ紹介



本会議 大会第2日

4月28日
大阪国際会議場

GSE他特別参加者紹介



表彰



ロータリー財団功労表彰
柏木 尚直前ガバナー



1999～2000年度 意義ある業績賞（大阪天満橋）



1999～2000年度 RI会長賞4クラブ代表（大阪南）



1999～2000年度 会員増強と拡大賞（高槻）



ロータリー財団地区特別奉仕賞
池田 正（大阪本町）



ロータリー財団地区奉仕賞
マルチプル・ポール・ハリス・フェロー 岡倉 三郎(大阪城南)



米山特別功労賞 松浦 純男(大阪イブニング)



平和および紛争解決の分野における国際問題研究のための
ロータリー・センターへの支援に対し、第2660地区へ贈られ
た感謝のバナー

委員会報告・大会決議案採択



登録委員会報告
丸山 雅祥登録委員長



信任状委員会報告
中川 章三信任委員長



選挙委員会報告
戸田 孝選挙委員長



大会決議案を上程する
小西 豊和大会決議委員長代理



大会決議案を採決する近藤ガバナー



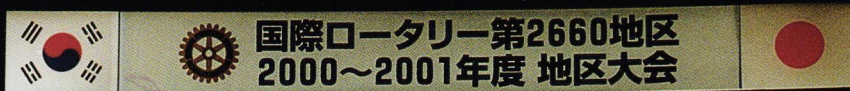
近藤ガバナーからRI会長代理ご夫妻に記念品目録を贈呈



蔡RI会長代理ご夫妻から近藤ガバナーに御礼の品を贈呈

記念 シンポジウム

大阪国際会議場



記念シンポジウム
21世紀 日本のアイデンティティー



コーディネーター 大宅 映子



パネリスト イーデス・ハンソン



呉 善花

パネリスト 呉 善花



パネリスト 金 美齡

大会第2日

大阪国際会議場



ナレーター 能崎まゆみ

記念演奏



記念演奏 関西二期会

フィナーレ



次年度地区大会ホストクラブ会長挨拶
川島 康生(大阪)



閉会挨拶 鴻池 一季大会副委員長



「手に手つないで」を全員で合唱



家族のつどい

ユニバーサル・
スタジオ・ジャパン



大会 スナップ



目次

(敬称略)

■口絵	2
■大会プログラム (大会第1日)	18
開会挨拶	〈大会委員長〉古市 実 20
ガバナー挨拶	〈ガバナー〉近藤 雅臣 21
RI会長代理挨拶	〈RI会長代理〉蔡 熙秉 22
シンポジウム「ロータリアンによる討論」	24
テーマ：「21世紀・ロータリー活動のあり方」	
閉会挨拶	〈大会副委員長〉鴻池 一季 38
部門別懇談会	
会長・幹事・クラブ奉仕部門	39
職業奉仕部門	40
社会奉仕部門	41
国際奉仕部門	42
ロータリー財団部門	43
■大会プログラム (大会第2日)	44
開会挨拶	〈大会委員長〉古市 実 46
ガバナー挨拶及び地区現況報告	〈ガバナー〉近藤 雅臣 47
RI会長代理挨拶及びRI現況報告	〈RI会長代理〉蔡 熙秉 56
大会決議案上程・採択	60
委員会報告	62
RI会長代理講評	〈RI会長代理〉蔡 熙秉 63
GSE他特別参加者紹介	64
次年度ホストクラブ会長挨拶	〈次年度ホストクラブ会長〉川島 康生 68
閉会挨拶	〈大会副委員長〉鴻池 一季 68
記念シンポジウム	
テーマ：「21世紀 日本のアイデンティティー」	69
来賓並びに招待者	86
表彰	89
物故会員	92
大会役員・大会委員会	93
大会実行委員会	94
地区大会登録並びに本会議出席人数	96
大会収支報告書	97
編集後記	98

4月27日(金)

大会第1日 (リーガロイヤルホテル)

開会式 (光琳の間)

12:30	登録・受付	
13:00	開会	司会 [大会SAA] 木本 武雄
	開会点鐘	[ガバナー] 近藤 雅臣
	大会役員紹介	[大会SAA] 木本 武雄
	RI会長代理紹介	
	日本国歌斉唱	
	大韓民国国歌演奏	[米山奨学生] 金 世姫 (茨 木 東)
		[米山奨学生] 文 鍾賢 (茨 木 西)
		[米山奨学生] 林 南均 (大阪大手前)
	ロータリーソング「奉仕の理想」斉唱	[ソングリーダー] 窪田 譲
		[ピアノ伴奏] 阪本 朋子
	開会挨拶	[大会委員長] 古市 実
	来賓紹介	[ガバナー] 近藤 雅臣
	ガバナー挨拶	[ガバナー] 近藤 雅臣
	RI会長代理挨拶	[RI会長代理] 蔡 熙秉

シンポジウム (光琳の間)

13:30	「ロータリアンによる討論」	
	問題提起	地区規定情報委員会委員長 [ガバナー補佐] 井上 暎夫 (千里)
	テーマ「21世紀・ロータリー活動のあり方」	
	コーディネーター	[地区アドバイザー] 永野啓之介 (豊中-大阪国際空港)
	パネリスト	橋本 憲之 (大 阪 南)
		 平岡 龍人 (大 阪)
		 岩本 洋子 (大 阪 そ ね ぎ き)
		 若林 紀男 (大 阪 東)
	閉会挨拶	[大会副委員長] 鴻池 一季
	閉会点鐘	[ガバナー] 近藤 雅臣
15:00	閉会	

部門別懇談会

15:00	登録・受付
15:30	【共通テーマ】「21世紀、われわれは如何にあるべきか」
	会長・幹事・クラブ奉仕部門（ロイヤルホール）大阪南
	職業奉仕部門（桂の間）吹田江坂
	社会奉仕部門（菊の間）守口
	国際奉仕部門（桐の間）大阪中央
17:00	ロータリー財団部門（ダイヤモンドルーム）大阪西北

RI会長代理ご夫妻歓迎晩餐会（光琳の間）

17:15	登録・受付
17:45	開場 ザ・ベリーグッドマンズ演奏
18:15	開宴司会 [大会副SAA] 緒方 満
	RI会長代理ご夫妻入場
	ガバナー挨拶[ガバナー] 近藤 雅臣
	RI会長代理挨拶[RI会長代理] 蔡 熙秉
	乾杯[元RI理事] 小谷 隆一
	歓談
	ジャズ演奏 サウスサイドジャズバンド
	閉会挨拶[ホストクラブ会長] 平川 恵一
21:10	閉宴

家族のつどい（ユニバーサル・スタジオ・ジャパン）

4/25・26	9：00～19：00
4/27	9：00～20：00

開会挨拶

大会委員長
古市 実



大会委員長を仰せつかっております古市でございます。2000～2001年度、第2660地区大会は、新世紀の架け橋という意義ある年度の大会であります。幸い、国際ロータリー会長フランク・J.デブリン様ご夫妻の代理として、大韓民国ソウル特別市よりRI元理事、蔡熙秉(チェ ヒー ビョン)様、洪喜子(ホン ヒー チャ)様ご夫妻をお迎えし、また86クラブ全員登録によりまして、盛大に開催することができましたことを厚く御礼申し上げます。

特に、本席に元RI理事小谷隆一様ご夫妻をはじめ、他地区ガバナー、ソウル南、台北北クラブを含む多数のパストガバナー、地区内外より多くのロータリアンならびにご家族にご参加いただきましたことに深く感謝をいたす次第でございます。

さて、今年度のRIテーマが「意識を喚起し、進んで行動を」ということはご承知の通りであります。本大会の準備にあたりまして近藤ガバナーは現在のロータリー活動の原点である「I serve」の精神が失われているのではないかと、21世紀のロータリーはいかにあるべきか、また日本および日本人として国際社会にどのように貢献しなければならないかなど、大いに語り合える大会にしようというご方針を示されました。

第1日目の本日は、ロータリアンによるシンポジウム、部門別懇談会など、従来の慣行にとらわれない大会運営を試みております。コーディネーター、パネリスト、リーダーの皆さん方にご協力をいただきまして、フロアからも大いに発言をいただき、活発な討論がなされるものと期待をいたしております。

また第2日目の明日は、公式諸行事に引き続き、新世代のロータリアンとなる若人の紹介や、女性国際人による記念シンポジウムを一般にも公開して、21世紀の女性パワーの認識を深めたいと存じます。なお、家族プログラムにつきましては、開業早々のユニバーサル・スタジオ・ジャパンにおきまして、大会開催前々日より3日間、会員家族とともにご参加できるようご案内をいたしましたところ、7,650名余という過去最多の登録で、大変、好評をいただいております。

本大会が21世紀のロータリー活動に新しい活路をもたらすことを祈念いたしまして、開会のご挨拶といたします。

ガバナー挨拶



ガバナー
近藤 雅臣

今回は土井ガバナーエレクトが急逝されましたために、急遽、私がガバナーをさせていただくことになり、この1年間務めさせていただくことになりました。急なことで大変でございましたけれども、ホストクラブの大阪北ロータリークラブの皆さんの絶大なるご支援によりまして、今日まで何とかやってまいりました。

そして、21世紀初頭を飾るわが地区の地区大会がこの2日間にわたりまして開催される運びになりました。皆様のご支援を感謝いたしますとともに、今回のこの大会につきましては、古市大会委員長をはじめ、委員の皆様へたいへんご尽力いただきました。実は古市大会委員長はご不幸がございまして、いま大変お嘆きの最中でございます。それを押してこの大会のためにご尽力いただいていることを皆様にお伝えし、心から感謝を申し上げる次第でございます。また、平川会長を初め大阪北ロータリークラブの皆さん方が、私がいわば雇われガバナーであるにもかかわらず、自分のところのメンバーと同じように一生懸命ご支援をいただいていることに感謝しておりますし、それでこそロータリーではないかと気を強くしている次第でございます。

私が第1回のガバナーのときにはキンロス会長のもとで、ちょうど蔡会長代理が理事をされておりましたころでございまして、そのころは「ロータリーの心を」ということで、いまだに覚えております。それと今回のデブリン会長の「意識を喚起し、進んで行動を」とを結びつけながら、公式訪問を過ごさせていただきました。

先ほど古市委員長がおっしゃいました「I serve」ということから始まって、皆さんの救いの手のニーズをしっかり把握することが「意識を喚起せよ」ということであり、そして意識を喚起してそれを行動につなぎましょうということだと思っています。詳しい話は、また明日のご挨拶で申し上げますけれども、今回の地区大会もそれを基本にしまして、特に最近の日本で問題になっております日本人のアイデンティティーということ、これを基本にして皆さん方に語り合ってください、この地区大会を有意義なものにしていただければと思っています。

この2日間、大阪北ロータリークラブの皆さんが万全の態勢を整えて進行していただいております。どうか皆さんも、大会の各役員の方の心をご理解いただきまして、2日間とも盛況に終わりますようご支援をお願い申し上げまして、私のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

RI会長代理挨拶

RI 会長代理
蔡 熙秉

皆さま、こんにちは。近藤雅臣ガバナー、会長、幹事、そして役員の皆さま、ただいまご紹介にあずかりました韓国ソウル3650地区、西ロータリークラブ所属の蔡熙秉でございます。この度はフランク・J.デブリン会長代理として、古い歴史と伝統を誇る貴地区大会に会長代理として参席させていただきましたことは、本当に大きな喜びでございます。

去る96年、国際ロータリーは年ごとにバラエティーあふれる、親密で豊かな、よりよき指導者によってよりよき奉仕の歴史づくりを成し得ました。国際ロータリーの運営は世界530地区が基礎だと思ふ人がたくさんいるかもしれませんが、ここに集まっている会長、幹事の皆さまがクラブのベースであり、原動力であります。

皆さまは、ロータリーでいちばん重要な指導者であり、責任者であります。また、皆さまはロータリーの力であり、そして何よりもクラブ会長、幹事の皆さまはより積極的な参加が必要であると思います。1968～1969年度国際ロータリー会長で、日本から初めて選ばれた東ヶ崎潔会長はテーマを「Participate 参加し敢行せよ」とおっしゃいました。

ロータリーは関心を持って奉仕活動に参加することです。われわれロータリアンには傍観、無関心は禁物です。無関心はロータリーの発展を妨げます。そのため、無関心に関心に変えなくてはならないのです。「Participate」は、歴代RI会長のテーマの中で私がいちばん好きなテーマでございます。

最近、ロータリーは急速に変わってきているのが現実でございます。ロータリーは親睦と奉仕の場ですが、さらに自己研鑽がなければならないと思います。自らを磨き、親睦を深め、そしてボランティア活動に努めるという3つの柱が必要だと思います。この3つの柱がいかによりバランスを取っていくかが今後のロータリーの失敗、成功につながると思います。

今年度2660地区のリーダーとして、近藤雅臣ガバナーは1997年10月、『ロータリーの友』のガバナーのページで「全力を尽くし、二度とない今日を燃え、すばらしい明日の到来を祈りながら過ごす努力をして、またその生活が自分だけでなく、他人に対しても全力を尽くさなければならない」とおっしゃいました。このような立派なロータリアン精神を持っておられ、今回2度目のガバナーとして超私の奉仕を継続しておられることに対し、私は本当に敬意を表する次第でございます。

私は去る1995年5月、京都で行われたアジア会長平和会議でパネリストとして参加する機会を得ましたが、そのときに私は次のように述べました。アジアにおけるロータリアンの会員数は、国際ロータリーの4分の1、また財団寄与度は3分の1になる立派な比率を見せています。このようにアジアは

国際ロータリーにおける重要な役割を果たしており、今後ますます他の地域に比べて増していくと思います。

しかし、不幸にもアジアは言葉の不便さと控え目な姿勢により、低い評価に甘んじております。今後、アジアロータリアンが国際ロータリーにおいて公平に参加できるように望んでおります。アジアから選ばれた国際ロータリー会長は、過去96年間でたった5名にすぎません。会長の権限とか影響力から見て、アジアはロータリー運動で恵まれた立場とは言えないと思います。その意味で、今後アジアのロータリアンが国際ロータリーにより積極的な参与をされるようお願いいたしました。

最後に、私はその平和会議で2つの提案をしました。1つは、ロータリー組織のない中国、ベトナム、ラオスなどにロータリーの拡大を積極的に推進することです。私は1994年から1997年まで、国際ロータリーのアジア拡大委員として務めておりましたが、主に中国大陆にロータリークラブを組織するための委員会でした。近い将来に中国大陆にロータリーが上陸するとすれば、アジアロータリーの数はおそらく国際ロータリーの半分以上、50%以上がアジアで占め、アジア委員が重要な役割を担うと私は確信しております。

もう1つの提案は、女性会員の門戸開放であります。アジアの国々は女性会員の入会にまだ消極的、保守的な態度を取っています。世界はものすごいスピードで変わっており、性別に対する差別やこだわりの考えをいち早く変えなければなりません。女性は新しい未来を迎え、ロータリー運動に大きな役割を果たすと思うと提案しました。

幸いに、昨年9月、10年ぶりに2002～2003年度の国際ロータリー会長にタイ国のピーチャイ・ナタクさんが選ばれました。私は去る12月下旬、ピーチャイさんの招待でバンコクでお会いしました。そしてアジアの立場、特に日本と韓国に関してたくさん参加する機会を得るよう十分に説明をした結果、まったく同意を得ました。

最後になりますが、ここにおられるクラブ会長、幹事の皆さまがクラブ会員の先頭に立ってリーダーシップを発揮し、残りの期間、皆さまのクラブが楽しく、ともにする1年でありますよう心から期待いたします。どうもありがとうございました。

ロータリアンによる討論

光琳の間

「21世紀・ロータリー活動のあり方」



明日からの活動のために、 本音のキャッチボールを…。

● 永野(地区アドバイザー・豊中-大阪国際空港) ご紹介いただきました、コーディネーターの永野でございます。本日のテーマは、「21世紀・ロータリー活動のあり方」でございますけれども、この21世紀、我々ロータリアンが何を守り、何を变えていくべきか。また何が正しく、何が正しくないかということ、フロアの方々と一緒に討議をいたしまして、正しい認識をしていただいて、その上で明日からの活動の一助にすることが目的でございます。

それでは、ガバナー補佐で地区規定情報委員長であります千里ロータリークラブの井上暎夫さんに、問題提起をしていただきます。その後、4人のパネリストに提言をしていただきまして、その中からフロアの皆さまと一緒に、言うならばキャッチボールをしていきたい。この様な心づもりでございます。

ガバナーにご相談いたしましたところ、「大いに本音で

出席者 (敬称略)

◎ 問題提起

〔ガバナー補佐〕
井上 暎夫(千里)

◎ コーディネーター

〔地区アドバイザー〕
永野啓之介(豊中-大阪国際空港)

◎ パネリスト

平岡 龍人(大阪) 岩本 洋子(大阪そねざき)
橋本 憲之(大阪南) 若林 紀男(大阪東)

やれ」との心強いご指示をいただき、「お前の骨は俺が拾ってやる」と言っていたいておりますので、思い切りやらせていただきたいと思います。

それでは井上ガバナー補佐、よろしくお願いいたします。

増強拡大に明け暮れて、われわれは 大事なことを失いつつあるのではないか。

井上(ガバナー補佐・千里) 皆さん、こんにちは。只今

ご紹介いただきました井上でございます。よろしくお願いいたします。

かつて外交官であられました岡崎久彦元大使は「日本という国は、日本を大事にしたいという人々をがっかりさせる名人である」と書いておられましたが、私はジョークといたしまして「RIはロータリーを大事にしている人々をがっかりさせる名人ではないか」と、実は思っております。

先日来、RI理事会は次年度の目標を、ロータリーが100周年を迎える2005年までに世界のロータリアンを150万人に増強したいと宣言をいたしました。会員組織の強化と必要性を強調いたしました。そしてクラブに対しましては、「少なくとも毎月1人の新入会員と年間5名の純増を期待している」とのメッセージを送りました。

現在、開催しております規定審議会におきましては、このロータリー100年祭、150万人の会員増強目標は採択されました。21世紀初頭にRI会長を務められますキング会長エレクトは、全世界的にロータリーの組織を拡大し、世界に貢献できるロータリークラブにしたいというメッセージを送り、これを最重点課題としたいと力説されました。

現在、開かれております規定審議会におきまして、RI理事会が提案いたしました区域限界の撤廃は採択されました。それから1人1業種の職業分類の原則も変更が決められました。増強と拡大をもくろむ各種の制定案とともに、RI理事会は人頭分担金の値上げも提案しております。それから3年に1度、私共が規定審議会に提出しております分担金、これは今後、毎年提出することがすでに採択されました。一連の制定案を見ておりますと、21世紀にRIがめざそうとする本音の姿が、おぼろげながら私共には感じられるわけでございます。

かつて、「We serve」を主張されました多くの人々と、決然と袂を分かって現在のロータリーの礎を築かれた先達たちのことをいま思い出しております。ロータリーは一つの人生哲学であると、1923年、34番目の決議案に秘められました価値観を共有することが、そういう人々の集まりがロータリークラブであると私は信じておりましたが、今回、規定審議会にオランダのあるクラブがRI理事会に対しまして、職業奉仕および専門職務の高い道徳的水準の重要性を一層強化するよう求める決議案を提出しております。



永野 啓之介地区アドバイザー(豊中-大阪国際空港)

綱領に書かれております、ロータリークラブにとって最も大切な職業奉仕について、なおこのような決議をRI理事会に求めている現状を私は大変憂えております。高度な倫理的、道徳的な価値観から生まれる信念や行動こそがロータリークラブを他の団体と区別する大きな特徴であると、20世紀最後の会長を務められましたカルロ・ラビッツァ会長は語っております。

そして、RIは2万9000の自主独立したロータリークラブから成る連合体であり、もう一度クラブを信頼し、クラブが独自で決定の機会を与えられるチャンスがいま来たと、メッセージを送りました。今回、規定審議会に望むアンケートを、私共は地区内のクラブで行いました。そして、この考えを多くのクラブが支持していることを私は確認いたしました。しかしながら、このメッセージに答えられないまま、私どもは20世紀を終えてしまいました。

一方、リーダーシッププランの導入やRIの会員増強の推奨に対して、これは命令だとお考えの人々もおられます。私どもが増強に明け暮れる日々に、もっと大事なことを失いつつあるのではないかと懸念いたしております。

今から30年ほど前の1970年、東京クラブのある会員は例会でこのように語られました。「日本のロータリークラブはRIの指示に従って、本当にたくさんの会員を拡大し、優秀な成績を修めた。東京で国際大会も無事終えた。東ヶ崎さんをRI会長にも出した。しかし、仮にいまここでロータリークラブがなくなったとき、ロータリアンは寂しがるでしょうが、日本の国民の皆さん方は本当に悲しんでくれるでしょうか。地域に根ざしたロータリークラブであるでしょうか」という懸念を語られました。

シカゴに最初のロータリークラブが設立されて以来、私共は自己の地域社会に奉仕することに深く携わってまいりましたが、21世紀を迎えようとする私共ロータリークラブ活動の最優先課題は、世界的規模の拡大強化でしょうか。それとも、地域に根ざしたクラブの自主独立を再確認することでしょうか。それとも、新しい世紀にふさわしいロータリーの精神を再構築することでしょうか。

120万人のロータリアンは、いま本当に大切な岐路に立っていることをいま一度認識する必要があると私は思っております。この認識を本日の私の問題提起といたします。

ご清聴、ありがとうございました。(拍手)

永野 井上さん、ありがとうございました。

それでは、引き続きましてパネリストから提言を行っていただきます。まず最初に、特にこだわらなくてもよろしいですが、できるならば職業奉仕の観点から、若林紀男さんからお願いいたします。よろしくお願いします。

むしろロータリーの魅力の低下が問題。

若林(大阪東) RIの報告では、2000年12月31日現在、世界のロータリアンは117万6169人、約118万人ということであります。いま問題提起されました井上さんのお話では、RIはいよいよ2005年のロータリー創立100周年に150万人ロータリアンをめざしており、95年かかって118万人を築いてきたわれわれのロータリーが、4年間で27%増加させて150万にするということです。この議論は別といたしまして、私はもっと問題点として考えなければいけないことがあるのではないかと思います。それはロータリーの発祥の国であるアメリカで、またアジアで大変多くの会員を擁し、財政的にも大きな役割を果たしている日本で、近年ロータリアンが減少していることをどう捉えるかということであります。

私の独断かもしれませんが、どうも昨今のRIのめざす方向は、数を増やし資金を多く得ることに目線が行っているのではないのでしょうか。私はそのような方向に行くロータリーは、先ほど問題提起をされている井上さんの憂いでもあると思います。日本のロータリアンの減少にはいろんな原因があるのかもしれませんが、いつも語られるのは、ここ10年来、日本の経済環境が大変悪かった……。



問題提起する井上 暎夫ガバナー補佐(千里)

確かにその通りだと思います。私達のロータリークラブでも、経営が破綻した、あるいは社業に専念しなければならない、そういうことが退会の理由の多くなっているわけであります。

特に我々の大阪東ロータリークラブは、大企業からご参加いただいているロータリアンもたくさんいらっしゃいます。大企業も経済的節減のために、ロータリーに入会される方の数を減らしているのも現状であります。そういう意味では、確かに日本は経済的な面で減少しているのだらうと思います。

一方、目を転じて、日本の経済悪化に対して、アメリカはここ10年来、大変好況を謳歌している時代であったわけです。そのアメリカでなぜ減るのか。これはいろいろ理由があるのでしょうけれども、アメリカの市民がいろいろな団体、ボランティアに参画することに対して、それを受け入れる選択肢も多種多様あるのではないかと思います。

とすると、アメリカの国の中でのロータリーというものに少々魅力が欠けてきているのではないのでしょうか。ロータリーの魅力が失われてくれば、当然、会員が増えるはずがありません。人々は「ロータリーは慈善団体なのか、寄付団体なのか、社交団体なのか、いったいロータリーとは何なのか」と言います。曖昧模糊としている今のロータリーそのものが、会員を増やすことに非常に大きな弊害になっていると思います。

それではロータリーとはどんな団体かといえば、それはシンプルなことだと思います。ロータリーは皆さんもご存じのように、経営者、専門技術者の個人の集まりであります。そしてその個人の集まりがロータリーの綱領を実

践することによって成り立っている。私はこの理解が正しいのではないかと思います。だから、究極的に、職業そのものが奉仕だという話もそこから来ているのではないのでしょうか。

ロータリーのもう一つの特徴は、近藤ガバナーが『ガバナー月信』、あるいはいろいろな機会を捉えて一貫しておっしゃっているのは、ロータリーは、一人ひとりのロータリアンが主体であり、そのロータリアンが集まったクラブが自主独立性を持つのが当然なのだ。この原則がなくなれば、ロータリーは命のないものと一緒なんだ。私はこれがもう一つのロータリーの特徴だと思っています。

それぞれのクラブの地域社会との関わり方、そのクラブの構成メンバーにはいろいろな方がいらっしゃるわけですから、当然クラブによってその運動の仕方、やり方はいろいろであっていいかと思います。少なくとも奉仕の理想によって結ばれたロータリアン達が、そのクラブに合った運動をすればいいわけであります。その運動の中身が大変個性あるものを生み、その個性が魅力につながっていく。私はそう思っております。魅力が増せば、人は集まる。現実にはいろいろな社会現象の中で、そうではありませんか。

20世紀は近代資本主義、工業化社会が大変、発達した時代でありました。物質的に大変、豊かになりましたが、反面、大きな歪みもたくさん残したわけです。物質面は豊かになったけれども、心は貧しくなったとおっしゃる方もいらっしゃいます。これも的を外れていないでしょう。人というものは自制することがなければ、少なくとも利己的というか、自らの利益を追求したいという欲望を持っているものなのです。この歯止めのない欲望が続くと、世の中にはさまざまなトラブルが起こるわけです。

そこでロータリーは考えたわけです。少なくともその欲望と、他人に対する奉仕、思いやりに責務感を持つことを調和させることが大事なんだ。これこそロータリーが日々の中で求めるものだ。これは我々一人ひとりの自己習練であり、自己研鑽だと私は思うのです。よくロータリーで使われる言葉で、「自利他利の調和」がありますが、「利益と奉仕の調和」というのは、その意味から出てきたのではないのでしょうか。

21世紀に目を転じますと、21世紀は高度情報化社会、あるいは金融経済の肥大化といったグローバリズム、あ

るいはポスト工業化社会の出現を生んできております。またそういう社会になっていくでしょう。そうすると、これは市場原理主義であるわけですから、少なくともきわめて高い効率を求めるわけです。効率を求めた場合には、ご存じのように、社会的安定とか厚生と相反することになって行くわけです。

弱者の救済や環境保全は、明らかに効率とは相反する価値規範になるわけです。弱肉強食、不平等の拡大、エコロジー問題、すべてを含めた倫理感というのが21世紀には必要となるのではないのでしょうか。だからこそ、ロータリーの奉仕の理想がますますこの世紀には重要になってくると思います。

20世紀が自利他利の調和であるならば、それに加えて、21世紀は競争と共に生きる共生の調和であるのではないかと。これは私の考えであります。そう思っております。そして、申し上げました競争と共生の調和が職業奉仕の根幹となり得ると思っております。

最後に、私が聞いたエピソードをご披露して発言を終わります。60歳にして経営の神様と言われた松下幸之助さんが大阪ロータリークラブに入会してこられました。そして96歳でお亡くなりになるまで、大阪ロータリーのメンバーで在籍されたわけです。その松下幸之助さんの身の周りを終生見ておられた高橋誠之助さんという方のお話なんです。「松下幸之助はロータリーに対してこういう貢献をした、こういう奉仕をしたというものはなかった。でも、松下幸之助はロータリーから、あるいはロータリアンから大変多くのことを学んだ」と身近におられた方がおっしゃっているわけです。

松下幸之助さんが晩年にお考えになったのは、社会が良くなること。社会を良くするためには国を良くしなければいけない。国を良くするためには、その国を引っ張っていくリーダー、政治家の資質が良くならなければならない。きっと資質が悪かったのではないのでしょうか。86歳にして松下政経塾をおつくりになったわけです。その松下幸之助さんは礼服を着ている以外は、背広の襟元に松下の社章とロータリーバッジを終生離さなかったとお聞きしております。

どうも、ありがとうございました。(拍手)

永野 ありがとうございました。最初から非常に熱が入ったようでございます。続いて、平岡さん、お願いします。

職業奉仕を原点とした、 ホームクラブの自主的な活動が大切。

平岡 (大阪) 平岡です。よろしくお願いします。いまの若林君の話と重複するんですけども、井上さんからの問題提起もそうなんですが、「まず増員ありき」という形のロータリー活動には基本的に疑問を感じています。ロータリー活動は、たとえば改革するにしても、新しい事業をするにしても、常に綱領を見てロータリーの精神を生かしているものかどうかをチェックしてこそ、初めてロータリー活動は意味があるだろうと思います。

綱領を読んでいますと、こういうことが書いてあります。「奉仕の機会として知り合いを増やす」。これは非常に大事なことだと思います。「事業および専門職務の道徳的水準を高めること」。つまり自分の所属している企業をどんどん評価の高いものにしなさいと。「ロータリアンは業務を通じて社会に奉仕しなさい」。会社が社会に評価されるようにしなさいと。「事業生活、社会生活を通じて奉仕の理想を追求するものだ」と。

ここに、基本的なロータリー活動の原点があるわけですから、われわれは人数を増やすとか減らさないということではなくて、常にこの理想を追求すること。その追求している延長上で、ロータリー活動はどうでないといけないか。さらにそれに賛同する人が増えてくるかどうかということを考えないといけないと思うんです。

わが大阪ロータリークラブに昔、塚本さんというロータリー活動の神様みたいな方がおられました。この方は、Vocational Service、職業サービスこそロータリー活動の特色であると指摘されていますが、我々はこのことを常に原点として、いろいろなことを考えたいと思います。

特にロータリー・インターナショナル (RI) からいろいろな要望が出ていますが、これを調べてみますと、『ロータリー手続要覧』の第3章に国際ロータリーのことが書いてあります。「国際ロータリーの管理の基本原則は、加盟ロータリークラブの大幅な自治で、管理に関する制約は必要最小限にとどめられている。また、その範囲内で地域でのRIの方針を解釈し、実施するにあたっては最大限柔軟性が認められている」と。さすがにアメリカで生まれたクラブだけありまして、各ホームクラブの自治が非常に認められている。対応は柔軟にできるということですから。それに対して、RIが非常にきつい約束ごとをすると



平岡 龍人(大阪)

いうのは、本来のロータリーの精神から外れていると私は思います。

そういう意味で、地区活動が非常に大事にされていて、いろんな地区の委員会があるんですが、私は青少年に関係してまして、インターアクトとかローターアクトをやりましたが、これは非常に優れたロータリー活動の一つだと思います。でも、私は全体的にロータリー活動の地区の委員会数が多すぎるように思います。もっと特化してロータリーの特色を出すようにしてはどうか。むしろホームクラブの活動を重視して、それが魅力がある、おもしろい、そして効果のあるものということになれば、自ずからメンバーが集まってくるだろうと思います。基本的には、ホームクラブの自治を非常に重視しているわけですから、ホームクラブを大事にするような活動を地区が応援するという形になるのが本来ではないかなと思います。

我々は、基本的に自分の職業を通じてロータリー活動を発展させていくことが職務ですから、そのことを常に考えて、そして魅力ある人物をたくさん生む。それに賛同して人が集まってくるという方向をめざすべきではないかと思います。(拍手)

永野 ありがとうございます。それでは岩本さん、お願いいたします。

クラブの自主性重視か、 RIの指示が正しいのか、混乱している。

岩本 (大阪そねぎ) ロータリアンになりまして7年目の岩本でございます。何でこんな席に座っているのか、

自分でも大変困っていて、すごく難しい話になっているようなんですが、「何で私がここに座っているんですか」と大会委員長に聞きましたら、「お前はかろうじて40代に引っかかっているし、女性やから混ぜておいた。弁護士やから何か言うやろ」と。こういうことらしいです。

皆さん、先に話をされた方は、RIの批判をかなりシャープに言われまして、へえーっと思って聞いていたわけですが、私たち女性メンバーが、7年前にロータリークラブに入れてもらったときには、ロータリーというのは世界組織で、日本全国組織である。女性ロータリアンを入れてやったんだからグローバルスタンダードを守れ。このように教え込まれて、ああそうかと思っていたら、今日いきなりRI批判が出たので、そんなものか、そういう考え方もあるのかと思っております。

ロータリーに入りまして、「ポリオ・プラス」とか「RI」とかいって、テクニカルタームも一生懸命、勉強いたしました。女性ロータリアンというのは新しい人間なものですから、開発途上といえますか勉強中ですので、21世紀のロータリーというのはどちらが正しいのか。平岡さんが言われたように、各クラブの自主性を重んじよと考えるのが正しいのか、リチャード・D.キング次期RI会長が言われるように、150万人増強というのが正しいのか、まだ頭の中で混乱しております。

社会奉仕について話すように言われたんですけども、社会奉仕は難しく、ロータリアンは皆さん時給が高くて、時間のない人ばかりですから、どうしてもお金を集めて地域社会や施設に寄付をするというのが私の頭にある社会奉仕なんです。先日打ち合わせ会に行きましたら、「それではあかんのや」と。「お金を出す奉仕はいかん、汗を流せ」とか言われまして、これもどっちなのか、この場で教えていただきたいぐらいだと思っております。以上でございます。

永野 どうもありがとうございました。引き続き橋本さん、お願いいたします。

会員増強は各クラブレベルで 取り組むべき課題。

橋本 (大阪南) 私自身がロータリーをどの様に理解しているかということから始めたいと思います。ロータリーは奉仕の理想に結ばれた専門職業人の集まりで、個々

人がときには友だちと一緒にあって、職業で、地域社会で、あるいは世界社会において奉仕の生活をする任意の契約集団の一つであると思います。

従って、それに参加する人々には、喜びと秘められた誇りを与えてくれるものです。ところがこの組織は、だんだん複雑化してきて、拡張、拡大化してきますと、たくさん規則ができてきます。そして、そこに権威が生じます。また一部の人によって動かされていくような大きな組織になってくるのが、一般的な組織のあり方です。

国際ロータリーはどういう組織なのかというと、先程から言われておりますように、連合体と言われております。これは1910年の全米ロータリー連合会、National association of Rotary Club of America、これから出発をしまして、その次に国際連合会という名前になりまして、1922年にRIという名前になったわけですが、終始一貫しておりますのは、私どものこの組織はアソシエーションである。連合体であるということが、今もちゃんと書いてあります。

連合体といえますのは、クラブの集合体ですし、クラブを奨励し、助長し、またクラブの拡大を励ますような働きをすること、またクラブを代表することは当然ですが、決して本部機能ではありません。本部の役割を果たすべきものではないと思います。

ところが、かつて国際ロータリーは中央事務局、セントラル・オフィスと言っておりましたが、最近はワールド・ヘッドクォーターという名前を使っております。これなども組織の理解を非常に複雑にする一つの事柄ではないかと思うのです。同時に、組織が複雑になってきますと、先程のようなものができてきますので、少なくとも21世紀に至りましては、ここでもう一度、我々の組織を簡略化する必要があります。簡略化することでいろいろな処置に柔軟に対応できます。

簡略化することで、組織の維持経費が節約できます。たとえば、国際ロータリーは今フルタイムの人間が586人勤めております。これは1999年6月の数字ですが、前年度より40数名増えております。私は2000年度の報告書を手にしてありますが、2000年から年次報告書の形態が変わりまして、この様な数字が出てませんのでわかりませんが、組織が大きくなるに従って、たとえば組織を維持する職員数がどんどん増えているというのが現実の問題であります。



橋本憲之(大阪南)

また、もう一つ申し上げますが、世界大会。私共もやがて大阪で世界大会を開くわけですが、ロータリアンは世界大会にどれだけの金とどれだけのエネルギーを使っているのか。このお金をもっと有効に使う方法はないのかということの一部の方から私も耳にしております。何故そんなに大きな金を使ってやるのか。私どもはホストをするわけですから、これもこの機会に提言すべき事柄ではなからうかと思うのです。

会員の増強については、必然的に取り組むべき課題です。しかしこれは、各クラブが取り組むべき課題です。新しい血を加えることによって、クラブの活動は活力を持ち、また活発化するわけです。しかし、世界を同一の基準で、同一のパーセンテージでこれを提唱することは間違っているのではないかと思います。

たとえば、日本の国は現在のところ、先ほどの話にも出しましたが、平均して1ロータリー52.5名です。そして日本だけを除いた国々は平均して39.1人です。しかもロータリーは163カ国にありますから、162カ国全部を集めて39.1人です。従って、いかに一生懸命やっているかということがわかります。しかし、入れてもらった会員はだんだん少なくなってくるわけです。「私は入りたいんです」という会員より、入ってもらう会員が増えてきた。これはどういうことを意味するか、お考えいただきたいと思います。

それから、もう一つだけ申します。職業分類と出席の問題ですが、これも提案の通りに決まったということですから、職業分類は少なくとも、社会に有用な職業によって、代表するに値する人を会員として考えることが伝統であります。もしそう考えるならば、人数は自ずと

決まってきます。ある限界があります。

また出席の問題は、友情を深め、互いに学び合い、奉仕の機会を多く持つということから必要であるとなれば、週1回、1時間の例会時間の配分を自分でできない人、自己の責任においてそれができない人は、ロータリアンの資格がない、と言わざるを得ないと私は思うのです。

『ロータリーモザイク』という本があることは、ご存じの通りですが、最後の1970年のところに「多くの我々が憂慮に耐えないものは、ロータリーの上に設立されている基本的な特質の2つが次第に希薄化し、あるいは希薄化しようという傾向が窺える。この2つとは、会員制度における職業分類の原則と、もう一つは例会への規則的出席である。この基本的な特質と会員制度の原則を言えば、ロータリーの哲学がはっきりわかってくる。これが先人が創ったこのロータリーの哲学、フィロソフィを理解するための一歩である。従って、卑しくともこの原則を討議する場合に、この性格そのものを決定する重大な価値があることを忘れてはならない」と書いてあるんです。

これはどれだけの討議をしたのか知りませんが、これが変わってしまったということです。誠に残念なことだと思わざるを得ないのです。終わります。

永野 どうもありがとうございました。

指導的立場の人までがよくRIに対する貢献度を言われますが、我々ロータリアン一人ひとりはRIに貢献するのではなく、ロータリーの理想に貢献しているのですよと申しております。

今のお話の中での話題は、主に会員増強です。2005年までに一気に150万人に持っていく。こんなことが現実としてできるのかどうか。RIがこれをノルマのように言ってくるのはどういうことだと。会員増強はそれぞれのクラブの自主性で、増やすかどうかということを考えることが基本である。ですから、RIがどの様に言いましても、RIそのものが基本に外れたことをノルマとして与えてくることについては、批判が出て当然です。

それなら、我々は日本として、またクラブとしてどの様にやっていけるかということ、会場からも、ご意見を賜りたいと思いますので、お手を挙げていただきたいと思っています。そして、ご意見は1分以内でお願いしたいと思います。

組織と運営方法の改革を検討して欲しい。

● ●
吉本(大阪) 1分と言われましたが、1分ではすみません。5分くらいお許しいただきたいと思うんですが、私は大阪ロータリークラブに所属している大阪マルビルの吉本晴彦でございます。ロータリー歴は35年でございます。

身近な意見を申しあげます。問題について、1つ目は地区協議会の運営の方法、そして目的なりその実践方法。地区協議会のあり方について。2つ目は地区の委員会のあり方について。3つ目は、クラブの例会と親睦のあり方について。この3つを実例を申し上げながらお話ししたいと思います。

1つは、地区協議会のあり方ですが、私は35年前にロータリーに弱輩の身で入れていただきました。それから以後35年間、地区協議会のやり方があまり進歩いたしていません。言うならば、十年一日のごとくいままでの行事を繰り返して、積み重ねていく。そして地区の担当者は一生懸命やらなければいかんということで、だんだんと仕事の量が増えていっております。

今度、新総理になられた方は変人と言われておりますが、あれは変革人でございます。「改善」「改革」とこの数日言っておりますが、ロータリーもひとつ地区協議会を通じて変革をやっていただきたいとガバナーに是非お願いをいたしたいと思っております。

このセミナーのパネリストの方々のご意見とあまり変わりませんが、地区協議会は、その任にありますとどうしても何かをやらうとする。そのために非常に労力を使い、時間を割き、その中には無駄な時間も含まれてまいります。地区協議会は、全会員が一堂に会していろんな討議をする熱意のある変革を推進する協議会にしていきたい。1つ目はそういうことでございます。

2つ目の委員会ですけれども、これも委員長になりますと、何かをやらないと自分の委員長としての責任が果たせないというので、何かをやらうとする。そうしますと、各クラブから出ている会員の時間を取り、あるいは労力を取り、ときには金銭的な負担にもなります。私は協議会の存在の重要性、必要性につきましては十分、認識をいたしております。この協議会は非常に重要なロータリーの運営機関でございます。

先程もパネリストの方がおっしゃっていましたが、委員会も、委員会はクラブとの連絡、調整、あるいはいろいろな意

見の積み重ねの場合、そういうことではないかと。委員会のあり方について十分ご検討をいただいて、なるべく簡略に、簡単にやっていただきたいと思っております。

その簡略でございますが、最近、地区でのお茶の会の案内がクラブに来ております。私はいままでこういうことは記憶がございませんが、どういうわけかお茶の会を地区で、しかも元ガバナーが世話人になっております。果たしてそういうことは地区でやることなのか、私は非常に疑問に思っております。それぞれのクラブでお茶の会がございまして、そのクラブの原点の趣味の会でやればよいこととございます。地区で屋上屋でやることは私は良くないと思っておりますので、一度ご検討いただきたいという私見を申し上げます。

それから、各クラブのテーブルの親睦でございますけれども、これはポール・ハリス先生がおっしゃっているように、7、8人の小さいテーブルの中でそれぞれいろんな話をする。そういうことが一番大事なことでございます。ところが、大阪ロータリークラブは300人もおります。したがって、非常にコミュニケーションが悪いです。テーブルの中でもお互いに挨拶をしない。ロータリーはどういうわけで挨拶をしないのか。

私が入れていただきましたときに、名刺を持ってご挨拶にあがりましたら、ある貿易の大会社の社長が「吉本さん、ロータリークラブでは挨拶はいらんのや」と言うんです。不思議な会だなと、未だにその人のことを覚えておりますが、お互いに親睦を旨としてロータリー活動を行う。そういうことが非常に大事なことであって、いちばんの原点はテーブルミーティングだと思っております。その出席率があまりよくございませんけれども、私はクラブのテーブルは原点であると思っております。

最後に、地区協議会で、これから地区がどうあるべきなのか、委員会がどうあるべきなのか、クラブのあり方はどうなのか、そういうことをクラブの方々とお話をさせていただくことをお願いして、私の個人的な意見でございますが、ご提言を申し上げたいと思っております。ありがとうございました。

永野 長時間にわたり、いろいろご意見をいただきました。地区協議会についても問題提起されましたが、地区協議会というのは毎年4月に開催されるもので、次年度の方針といったものを協議するものです。したがって、2001年から2002年度のホストクラブは大阪クラブですか



若林 紀男(大阪東)

ら、大阪クラブの方で次年度は吉本さんのご意見も踏まえて実りあるものにしていただきたいと思います。

それでは、先ほどお手を挙げられた方、どうぞ。

● 組織の肥大化、地区活動のあり方が問題。 ●

大森(大阪東) 大阪東ロータリークラブの大森でございます。入会15年になります。ちょうど私が入会した1986年、入会当時の地区の組織は7部門18委員会、委員会のメンバーが110名という組織でありました。ところが2000～2001年の組織を見ますと、9部門27委員会、委員の数は220名を超えているという状態でありまして、パーキンソンの法則ではないんですけども、まさに地区の組織はこの15年で大変、肥大化していると思います。

1億円に達する地区の予算に関して伺いたいんですけども、時間がないので、今日は地区の組織ということでお伺いしたいと思います。本来、ロータリークラブは綱領に基づき、それぞれのクラブで個人が自己研鑽に励む。そして、あくまでクラブの自主性が尊重されなければならないと、先程平岡先生もお話しになりましたけれども、こういうことをクラブにおいて私は諸先輩方より教わってまいりました。

この地区の組織の肥大化、そして先程吉本先輩もおっしゃいましたけれども、それに伴う地区の活動のあり方が、各クラブの自主性を大変損なっているのではないかと思います。21世紀は改革、革新の世紀であります。今日のテーマは、ロータリーの活動のあり方でございますので、21世紀の地区の組織、活動のあり方をもう一度ここで真剣に考え直すときに来ているんじゃないかと

思います。この点をご質問いたしたいと思います。ありがとうございます。

永野 どうもありがとうございました。前半の部分がもう終了時間になりましたけれども、今のご意見ご質問は、地区の組織をもっとスリム化したらどうかということでした。

あくまでも地区はクラブを助長し、奨励をし、いわゆるクラブの手助けをするべきであり、地区が主導するのではない、ということ。

● まずクラブの自主性ありきで活性化を…。 ●

中島(2640地区パストガバナー) 2640地区、隣の地区のパストガバナーの中島と申します。

橋本さんから、RIの職員の生産性が低いような印象を受けるお話がございました。職員の数は世界のサービスセンター全体を含んでおりまして、サービスセンターの生産性も含めまして、常にチェックをいたしております。私はそのチェックをする委員会におります。監査運営審査委員会と言いますが、現在アメリカにあります、ああいった団体の中では、会員数に対しましての職員数が一番少ない効率のいい団体であると言われております。ひとつそういうふうにご理解いただきたいと思います。

それから世界大会のことについて述べられました。これは1回の世界大会で5～6億円使っておりますが、参加人員は全体のロータリアンの1～3%ぐらいしか参加しない。それだけしか参加しない世界大会にそれだけのお金を使ってやる意義があるのかという討議を、かなり真剣に行っております。やがていい答えが出てまいると思います。

それから岩本さんがおっしゃいましたRIか、クラブの自主性か。これは若林さんや平岡さんがおっしゃいましたように、まずクラブの自主性ありきでございます。RIからいろいろ出ますのは命令ではございません。全部、recommendationでございます。

私は1985年のエドワード・カドマンという会長以後、すべてのRI会長さんにRIのイメージ図を伺ってまいりました。「どういうイメージを持っておられますか」と。全部、逆三角形をおっしゃいます。ロータリークラブが上にあって、地区にしろ、RIにしろ、全部それを支えているイメー

ジをおっしゃいます。私はその通りだと思います。彼らはそれを信じてやっておられると思います。上のロータリアンやロータリークラブが活性化しないで、何のための私達でございましょう。はっきり答えは出ていると思います。

岩本(大阪そねぎ) 「150万人の話もスローガンとしてはおもしろい。上に立つ人間は一種のスローガンとか目標を言うべきだからいいんじゃないか」とこの打ち合わせ会で言いましたら、袋叩きに合いまして、「パネリストをやめさせてくれ」と、言ったこともあるんですけども。新参者だから言うわけじゃないんですが、上に立つ人間のスローガンとしてはおもしろい。しかも、そういうスローガンがあったから、今日、こうやって議論ができるんじゃないかとみんなに言ったんです。理論的かどうかちょっとわからないんですけども。

中島 私はそういうことでいいと思います。そういうふうにターゲットを掲げられて、皆さん方に是非ひとつ頑張っていたきたいということをおっしゃるのは、RI会長として当たり前のことだと思います。

橋本(大阪南) 私は21世紀を迎えた機会に、自らを変えることが必要だと言っているんです。だから、いままでの路線は全部すばらしい、だからこれからどんどんその路線で進むんだということではなく、21世紀のロータリーということを言い出した以上は、もう一度組織なりすべてのものを見直すべきだと。そして続けていくものは続けていく、変えるべきものは変えるという作業をすべきだと思うのです。

● 長期計画をたてて、女性会員の増強をめざしている。 ●

大森(茨木西) 茨木西ロータリークラブの大森と申します。私が女性ロータリアンとして入りましたのは、ちょうど日本で門戸を開かれたときでございます。その当時でも、「ロータリーに入る女性は程度が悪い。程度のいいのはソロプチミストとかそういうところに入りなさい」というような説明を受けまして、非常に傷をつけられた印象がございます。現在はそういうことはございせんけれども。また、私はただいま社会奉仕委員長をしております、先だってクラブの行事として「さくらフェスティバル」というものを催しました。

そのとき肢体不自由の子供たち、養護施設の子供たち、それからJICAの外国の青年男女をお迎えいたしました、そこでお茶を実際に自分でたてる体験をしていただきまして、非常に喜んでいただきました。ですからクラブにおいて、茶道とはどういうものか。あるいは日本文化とはどういうものであるべきか。しかもそれはお金を使わずに、なるべく低経費で予算も少なくして実行しました。

5月に向かって、地区の茶道同好会というものをいただきますが、これも全流派を取っばらったもので、そしてそれを含めたものでどういうものができるかということを私の宿題として、主人と頑張るつもりであります。

次年度は、増強のほうに回っております。増強につきましては、私は長期計画を立てました。ご婦人を導こうと。ご婦人はやはり子育てがありますので時間の余裕はありませんが、あと4年、5年先には多分自立できるだろう。そのときにロータリークラブに入っていただく。それをめざして私は来年度、ちょうど増強委員に入っておりますときにご婦人を導く計画を立てております。そういうふうな長期計画も大事であるかと思います。

永野 どうもありがとうございました。現ガバナーはクラブの自主性、ロータリーは個人個人である、「I serve」であると、常に申しております。それを地でいっているようなガバナーでございます。そういう意味で、いろいろと誤解もあるかも知れませんが、その基本だけは曲げていないと思います。私はアドバイザーとして、そういうこともよく見ております。そういうことで、悪しからずご了承くださいたいと思います。

近藤(ガバナー) 先程大阪クラブの方からご意見をいただきました。まことにごもっともでございます。この様なご意見は多くの方々からいただきますが、そのほとんどはご批判だけであって、それではどうすれば良いかという建設的なご意見が必要かと思ひます。私は2度のガバナー就任年度においてできるだけの改革をやってまいりまして、わずかではあります但し現在の様な状態にまでこぎつけました。ただ、4月に開催されました地区協議会は大坂クラブが主催されましたことをお知らせしたいと思ひますし、来年度はガバナーが大坂クラブから出られ、大坂クラブがホストクラブとして活躍されますので、どうか模範的な運営をしていただければ有難いと思ひております。よろしくお願ひいたします。

会員の増強は必要、 そのためにもクラブを魅力あるものに…。

戸田 (2660地区パストガバナー) 2660地区の戸田でございます。会員増強はぜひ必要なことであります。というのは、持続するだけでは組織は発展しない。上をめざすためには必ず増強していかなければならない。こういう宿命を持っているわけです。ところが現実には、増強できない。これは不況のせいではない。ロータリーに魅力がないんじゃないかと若林さんは言われたわけですね。

このところをしっかりと我々が見つめて、各ロータリークラブに伝えていかなければ、地区でもなければガバナーでもない。各ロータリークラブを魅力あるものにするためには、ロータリアン一人一人にロータリーの本質を知ってもらう。それを伝える人が必要なんですね。実はそれが現在、少ないんです。

たとえば職業奉仕を言われましたが、職業に倫理感を高める、道徳感を高めるというよりも、アーサー・フレッド・シェルドンが言われた、もっとわかりやすい提言ですね。「職業を成功に導く一つの大きな鍵は、相手の身になってものを考え、相手のために尽くすというサービスの道をそれに加えることによって、相手から信頼を受けて、その信頼関係で企業が永続性を持って発展するんだ。相手にサービスをすることが、実は自分の企業の発展にもつながるのである」と。こういう実際の提言あるいはインフォメーションをしていないんですね。職業奉仕と言えば、「職業の道徳的水準を高める」、それで終わっているからわからないんです。一つ一つをそういうふうに噛み砕いて各ロータリアンに伝えていくことが必要なんですね。

今後、パネルディスカッションをしても、その点をぜひ綿密におやりいただきたいと考えております。これが一番大事なことです。ロータリーの増強をするにもこれが大事であると申し上げたいと思います。

永野 戸田さん、ありがとうございます。まことにおっしゃる通りでございます。

楽しくて社会に役立つロータリー活動を…。

平岡 (大阪) 何か深刻な話になってきていますので、もっと楽しい話題に変えたいと思います。

ロータリーは基本的に楽しくなかったらいけないと思うんです。奉仕活動でもそうなんですけれども、楽しかったら人が集まってきますし、いろいろなことが続けられると思うんです。確かにいろいろな問題を抱えていますし、これから21世紀の新しいロータリー活動を模索していかなければいけないと思うんですけれども、基本的に楽しくて、それが社会の役に立つことをできるだけめざしてやっていきたいと思うんです。

きょうは準備していたこととまったく違うんですけれども、岩本さんといろいろ話をされていて、私は女性参加に反対していると言いましたか？

岩本 (大阪そねぎ) 大阪クラブが、東ロータリーが、南ロータリーが女性を入れない。けしからんというふうに言いました。その答えをどうぞ。

平岡 (大阪) そのことについて、私の意見をちょっと言いたいと思います。国家とか、そういう絶対的な権力を持っているところが、結社の自由とか、信仰の自由を保証することは非常に重要なことなんですけれども、ロータリーは基本的に私的な団体です。私的な団体は、当然入る人間と共通の認識を持って参加できるわけです。

ですから、女性だけのクラブがあっても反対しませんし、男女一緒に入っているクラブも反対ではないんです。しかし、男子だけのクラブもあってもいいんじゃないかと思うんですが、だいたい男の人は女性のクラブをちょっと覗いてみたいと思いますが、入りたいとは思わないわけです。

ところが、女性の方は、だいたい男子のクラブに入りがるわけです。これがあまりよくわからない。たとえば、大峰山は女人禁制になっていますが、必ず女の人がこっそり登るわけです。別にそれはかまわないんですけれども、私的な団体はどこまでも契約の問題だから、各クラブの自主性を持って対応したらいいので、必ず入れなければいけないとか、入れないとかいうのは、おこがましい発想ではないかというのが私の考え方なんです。岩本さん、どうですか。

岩本 (大阪そねぎ) そういうふうに言われたんです。だから、大阪ロータリーが女性を入れないのはけしからんと言いましたら「岩本さん、そねぎが立派なクラブになればいいですよ。そねぎロータリーにはすごい女の人がたくさんいるぞというふうになったら、すごいことじゃないですか」と平岡さんに言われて「そうです

ね」と、思わず言ったんですけれども、そうじゃないと。それは論理のすり替えだと。「うちのロータリーの話をしているのと違うんですわ。大阪ロータリーや東ロータリーや南ロータリーの話をしているんであって、論理をすり替えないでください」と平岡さんに言ったわけです。

平岡 (大阪) 私、大学受験を長いことやっていたんです。これは実におかしなところでして、女性を入れない大学はないんです。防衛大学であろうが、商船大学であろうが女性を入れる。

ところがおかしなことに、お茶の水大学や奈良女子大学、大阪府立大学に男は入れないんです。だいたい女性だけしか入れない大学はたくさんあるんですけれども、もともと男女オープンになっているので、男だけというのがあっても全然かまわないではないかというのはどうですか。それはだめなんですか。先生は弁護士ですから。

岩本 (大阪そねぎ) 先程、「アジテーター結構、上に立つ人間はスローガンを言え」と言いましたので、言うんですけれども、一歩でも時代の先をいこうと思ったら、伝統的ロータリークラブに女性を入れよ。相撲の土俵に女性文部大臣が乗ってもいいじゃないかというふうに言うことがとても大事なことだと思って、あえて申し上げるわけです。

感情的にというか、アジテーターで言うんですけれども、平岡さんは論理的に「奈良女子大学は男性を入れませんよ」と、こういうふうに言われるので、すぐに、なるほどなあと感じてしまうわけなんです。

女性会員増強問題はなかなか複雑…。

永野 ありがとうございます。女性問題をやっていると、これもまた尽きないと思いますので。

橋本 (大阪南) 私は南ロータリークラブですが、南は入れないという話ですけれども、別に入れられないわけではございません。

ただ、私はいままで地区協議会やその他の会合に出て聞いておきますと、「女性が入ってくれたらにぎやかになった。なごやかになった。だから女性を入れないといかん」と。こういう論理があったわけです。私はそれは女性に対して大変、失礼だと思うんです。何かつまみみた



岩本 洋子(大阪そねぎ)

いな感じで、女性が入ってくれたらなごやかになって、例会の出席も増えて、ということでありまして、その範囲で終わっているようでは、入って下さった方にも申し訳ない。

そういう意味においては、クラブに本当に対等な資格において女性の入会については、もっと充分にディスカッションするべきだと思います。簡単に誘って入れることが決まっていることではないと思っております。

永野 よくわかりました。要するに、これはクラブが決めることでありまして、「入れよう」とか、「入れない」とかいいうのは、仕方のない現況ではないかと思えます。

活動面とか、実行面のことは全然おっしゃらなかったのですが、いかに活動すべきかということにもっと時間を使いたいと思っていたのですが、岩本さんが社会奉仕は苦手だということで、ちょっと私から申し上げます。

阪南ロータリークラブさんでございますけれども、もう14～15年前になりますが、私がボランティアビューロー(ボランティアの受給者と供給者のパイプ役)ということに対して演説いたしました。

それはどういうことかと言いますと、アメリカはボランティアが非常に盛んであるが、日本はもうひとつだめだと。このボランティア労力を日本円に換算しますと、20数兆円が国家予算ではなくて個人の民間のボランティアで賄われている。そのぐらいの差があると。しかし日本はだめなことではない。ボランティアをしたい、ボランティアをしようという若者がたくさんいますよ。ただし、それをどうしたらいいのか、またやり方がわからない、教えてほしい。そのためにボランティアビューローが必要であるということから、ロータリーでは無理かなと思いました

が、一応がんばって話をしました。

それを見事に受けてくれまして、当時、岡田さんというお医者さんがクラブへ持って帰って、こういうすばらしいことがある。ボランティアビューローをつくらうじやないかと。私は半信半疑で、本当にできるかなと思っていたのが、2年半ぐらいかかって苦労されてつくっていただいたわけです。ご存じのように、行政は確かに腰が重くてなかなか神輿が上がらないんですが、見事、行政を巻き込んでいただいた。ロータリー初、日本初です。

そして、会員全員がこれに賛同して、つくった以上はやめられないということを充分承知の上で、継続事業としてこれに取り組んでいかれた。14～15年たちますが、いまだにずっと続けておられます。そして、さらに実績として、これは東住吉区から始めたわけですが、今や大阪市内のほとんどの区の行政が第一号の相乗効果で、ロータリーが啓発行為されたためにできていっております。大阪府下はまだそこまで行ってないようでございますけれども、そういうすばらしい実績を上げておられます。

皆さん、あまりご存じではないと思いますが、本当に目立たない、縁の下の力持ちを黙々とやっておられることに対して私は非常に感動しました。これをつくっていただいたときには、本当に涙が出ました。嬉しかったです。阪南ロータリークラブの会員の一人一人に後光がさして見えました。これがロータリーの魅力です。松本パストガバナーがそのときのガバナーでございましたけれども、私にもっと吹聴しろとえらくはっぱをかけられました。松本さん、ちょっと一言、お願いします。

大阪阪南RCの ボランティアビューロー活動が すばらしい実績をあげている。

● 松本 (2660地区パストガバナー) もうあまり時間がありませんが、2660地区パストガバナーの松本です。

ボランティアという言葉が日本人には非常にわかりにくい。今1890年ごろの話をしておられるんですが、日本では1995年の阪神大震災のときがボランティア元年だと言われたぐらいでありまして、大変ボランティアというのがわかりにくい。ロータリーでも、ロータリーのやっていることは全部ボランティアだということから始まって、もう少し進めるとロータリー財団にボランティアがあるんで

す。

ところがいま言われるのは、それとはまた違った、ロータリアンが社会奉仕に出るとか国際奉仕に出るのもいいけれども、古い言葉で言えば、クラブの会員が脚下を照顧するという意味で、その中で自分たちが得手とする、また奉仕のいろんな動機づけとか、そういうことを勉強したものを感激をもって、ボランティアのほうからいうニーズの対象、たとえば家族や友人のいない孤独な老人であるとか、迷える青少年であるとか、就職ができない身体障害者であるとかいう人たちに手をさしのべるということをクラブの単位で、クラブの中で、「I serve」でやろうというのが、いま永野さんがおっしゃったロータリーボランティアだと思って、私はこれをうんと推進しました。

先程平岡さんが、もっと楽しいことをしようと言われましたが、1989年のRI会長のアーチャーさんは「エンジョイ・ロータリー」というテーマを掲げられた方ですが、この方が阪南クラブがボランティアビューローを創った3年後の1989年にRIの理事会で提案をされました。クラブの中に組織的なロータリーボランティアの拠点をつくろうではないかという呼びかけをされて、そのことを日本のガバナーが集まったロータリー研究会で提案があったわけですが、わが2660地区では3年前からそれを始めて、すでにできておりますと言ったら、皆さん、「えっ、もうやっているのか」とびっくりされました。

ということで、永野さんと手を取り合って、これはいいことをしたな、これが将来、どんどん大きくなっていったらいいなと言ったわけでありまして。当時のガバナーはすでに故人になっておりますので、代わって私にそういうことを言えと言われたんだと思いますので、一言申し上げました。どうも失礼しました。

大阪御堂筋RCのRAC活動も日本一…。

● 永野 どうも、本当にありがとうございました。

それからもう一つご披露したいのですが、近藤ガバナーが非常に力を入れておられます、RAC (ローターアクトクラブ) でございます。次のロータリーの世代、若者はロータリアンの背中を見て活動をしていくわけでございますけれども、この中で日本一のRACを持っているクラブがでございます。

皆さん、ご存じでしょうか。御堂筋ロータリークラブさん、おられますか。ご自分のところの会員数よりもRACのほうが多いとお聞きしているんですが、これは日本一でございませう。わが地区には24のRACを持っているクラブがございませうけれども、10～20名のレベルでやっているところを、70数名のRACというのはすごいことです。それと中身も非常に活動的であるということでございます。それもちよつとご披露したいのですが残念なことに、時間がございませう。このあと部門別の協議会がございませうので、できるだけこのシンポジウムの討議の結果を部門別に持ち込めるように討議をしてほしいとのことでございませう。

大森 (2660地区パストガバナー) 永野さん、ちよつと発言。先程吉本さんから、お茶を地区の活動としてどうかという話がございませうけれども、私はこれは親睦活動としてやっていると思うんです。私どものパストガバナーが中心になってやっているという話がございませうから申し上げるんですが、そういうことになりますと、地区でWCSも、世界社会奉仕も、青少年交換も、青少年活動も、委員会の活動もできにくくなるということになるんですね。

同じように親睦活動も、ゴルフをやっても、囲碁の会をやっても、お花の会をやっても、それぞれ親睦を図って勉強していくことに変わりはないと思うのであります。これも奉仕の一つだと思うんですが、そうなりますと世界社会奉仕も、青少年活動も、地区としてできなくなると思うんですが、この点はいかがですか。

永野 もう時間がないので、手短かにお願いします。

吉本 (大阪) わかりました。趣味の会と協議会のやっていることは違ふと思うんです。趣味の会はそれぞれの好みでやっているのだから、それを地区でまとめてやるのであれば、囲碁の会も麻雀の会も全部、地区でやったらいいじゃないかということになりますので、こういう趣味の会と地区協議会のすべきこととは別だと思ひます。

永野 意見が伯仲しておりますが、とうとう本当にきつちりと時間が来てしまいました。

最後に、RIの会長代理に一言、ご意見、お言葉を頂戴できましたらありがたいと思ひます。

会員増強は、ひとつの目標として考えて…。

蔡 (RI会長代理) パネリストとフロアからいろいろな意

見が出ました。RIは1905年に、ポール・ハリス氏をはじめ4名が1週間に1回の例会のもとで、職業分類制度とともに始めました。最近、1996～97年、突然会員が1%減少したため、いろいろな問題が起きました。そして、いろいろと話があつた通り、理事会でニューモデル・パイロット・プロジェクトを発表して、世界的に会員増強の問題が起つたわけだ。

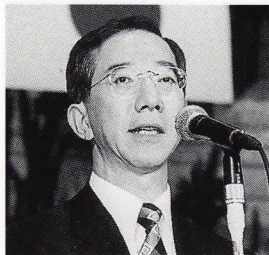
私の個人的な考えとしては、話の中に出ましたが、過去10万名を増やすのに10年以上かかつたと思ひます。だから2005年までの4年間に40万名以上増やすのは到底、不可能だと思ひます。1つの目標を設定して、それを達成せよと励まし奨励する、そういう目的でやつたことではないかと考えます。

フランク・デブリン会長もそうですし、次期のリチャード・キング会長もそれを積極的に押しているわけだ。そこまではいかないと思ひますが、皆さん一生懸命、頑張ってください。以上です。

永野 ありがとうございます。

大変情熱を持ってご意見をいただきまして、本当にありがとうございます。それでは、これで閉会させていただきます。(拍手)

閉会挨拶



大会副委員長
鴻池 一季

大会第1日目、本会議の閉会にあたりまして、一言ご挨拶を述べさせていただきます。

本日は国際ロータリー会長代理・蔡熙秉様をお迎えし、また地区内外のご来賓を多数お迎えいたしまして、大会が盛会裏に行われました。冒頭、近藤ガバナーより、手づくりで有意義な大会にしたいというお言葉がありました。また、この大会のホストクラブであります大阪北クラブの準備の状況についてご評価をいただきまして、本当にありがたく感謝をしているところでございます。

また蔡会長代理からは、アジアが非常に大きなロータリーの勢力になった。ただ十分、評価がされていない。今後大きな評価を得るような活動をしていくべきだということ。それから、女性の参加についての奨励がありました。参加をする、participateという言葉がいちばん好きな言葉だというお話でございました。

引き続きましてのロータリアンによるシンポジウムは、「21世紀・ロータリー活動のあり方」ということで、大変熱心な討議をいただきました。コーディネーターの永野様、そして各パネリストの皆さま方、そして問題提起をしていただきました井上様、本当にありがとうございました。事前の準備では、本当にフロアからご意見が出るのか、熱心な討議ができるのかと、いろいろご心配もありました。

しかし、大変、和やかなうちに、RIの方針の問題、会員増強、そして組織の肥大化等、また女性の問題、地区協議会の問題、奉仕と親睦との兼ね合いの問題等々、さまざまな議論がされました。

この本会議ののち、しばらくのご休憩のあと、13時半より部門別懇談会がございますが、5つのそれぞれの部

門におきまして、ただいまのシンポジウムの討議を踏まえまして、それぞれの部門のご議論を深めていただくようお願いをいたしまして、第1日目の本会議の閉会の辞に代えさせていただきます。どうもありがとうございます。

部門別懇談会

会長・幹事・クラブ奉仕部門

(担当：大阪南)



リーダー	酒井 宏(大阪南)クラブ会長
サブリーダー	小谷 公穂(大阪南)クラブ副会長
サブリーダー	山本 博史(大阪南)クラブ幹事
担 当	熊澤 忠躬(守口)パストガバナー
担 当	柏木 尚(豊中)パストガバナー
担 当	井上 暎夫(千里)ガバナー補佐
S A A	原 眞一(大阪北)
副SAA	中西 憲治(大阪北)
副SAA	丸山 雅祥(大阪北)
記 録	杉森 恒武(大阪北)

地区組織とその運営の向上をめざし、 地区リーダーシッププログラムを採択

■酒井リーダー

21世紀我々は如何にあるべきか、というテーマで広く皆様からご意見を頂きたい。

■熊澤パストガバナー

1. 今の日本の低迷は、モラルハザードが原因であり、その日本を建て直すのはロータリーアンの使命である。
2. 1990RI理事会が提案したリーダーシッププランに当地区として如何に対応すべきか。
3. 2005年150万人の目標に対してクラブ拡大を2~3、そして、女性会員増強を中心に会員増強したい。

■井上ガバナー補佐

規定審議委員会の報告

これより後、フロアから自由に発言を頂いた。

- 現在の状況下での会員増強は大変厳しい。又、地区の様々な情報が各クラブへ迅速に伝わっていないのではないか。
- 会員増強が厳しい現在、おおいに女性会員の増強をすべきである。
- 女性会員のいないクラブに女性会員を入れない理由を聞きたい。門戸開放すべきである。
- 会員増強を何が何でも第一とする事はいかなものか。RIはリコメンデーションであり、受ける受けないは各クラブの自由である。やみくもな拡大を100年続けると組織崩壊する。
- 地区の諸会合は、必要な事ばかりか。無駄は無いのか疑問である。寄付、募金の依頼にしても一人あたり

いくらという依頼もいかなものか。地区の事業を引き受けたクラブは苦勞している。

- 地区の会合の日時がなぜ金、土曜なのか。仕事の事を考えれば土、日曜の方が良いのではないか。又、地区大会にマンネリを感じる。
- ロータリーアクトの活動資金の配分再考を願いたい。
- 当クラブは組織をスリム化した。21世紀に向かってロータリーの不変であるべきものと可変であるべきものとがある。まず自ら変化してみる事が必要だ。
- 女性会員の考え方にしても、基本的にはロータリーを難しく考えずに仲良く、楽しくする事が一番である。
- 他のクラブでも女性会員がもっと増えるようがんばってほしい。

等々のご意見が各クラブの皆様よりありました。

又、来賓の他地区パストガバナーよりも以下の様なご意見を頂きました。

- ・地区リーダーシッププログラムが採択され、ガバナー補佐がおかれる事によって、各クラブの情報の流れもスムーズになり、又、地区の組織が簡素化される事になる。
- ・会員増強の意義をもう一度考え、女性会員を増強しなければならない。

(要約 大阪南)

■発言された方

大阪なにわ	澤 貞雄会 長	豊中南	鳥居 則成副会長
茨木東	若林 三雄会 長	大阪御堂筋	影田 清晴副会長
大阪そねざき	首藤 忠正会 長	大阪東	岩橋 貞雄会 長
大阪	川島 康生会 長	大阪西南	村石 全会 長
大阪御堂筋	前田 陽義幹 事	大阪八尾フレンド	稲山 京子会 長

部門別懇談会

職業奉仕部門

(担当：吹田江坂)



リーダー	赤尾 進(吹田江坂)クラブ職業奉仕委員長
サブリーダー	北山 陽一(吹田江坂)クラブ会長エレクト
サブリーダー	木元 良三(吹田江坂)クラブ職業奉仕副委員長
担当	坂東 宏(吹田)パストガバナー
担当	松本 良諄(大阪東)パストガバナー
担当	近藤 浩司(大阪南)地区職業奉仕委員長
担当	松岡晃一郎(大阪うつぽ)地区ボランティア委員長
SAA	川口 順弘(大阪北)
副SAA	島田誠次郎(大阪北)
副SAA	橋口文四郎(大阪北)
記録	増井 公一(大阪北)

厳しい経済状況こそ職業奉仕の出番！ 「四つのテスト」の再確認と実践を推進しよう

川口順弘SAA(大阪北)の司会により、坂東宏・松本良諄両パストガバナーご臨席の許、近藤浩司地区職業奉仕委員長より、1年間の活動報告とアンケートの説明がありました。

続いて、松岡晃一郎地区ボランティア委員長より、活動報告と、更なる奉仕を各クラブに要望がありました。そして、吹田江坂にパトタッチされ、懇談会がスタートしました。

討論テーマを

第一部《不況下での職業奉仕とは》

第二部《次世代のロータリアンに対する職業奉仕》とし、IM組別(8組)に分かれて、討論され、自由闊達な意見が発表されました。

一例を、報告すると

○確かに不況で、厳しい経済状況です。当クラブでは、委員長が退会しましたので、副委員長の私が出席させていただきました。職業奉仕の理念、大変勉強になりました。

○厳しいときこそ、職業奉仕の出番です。【四つのテスト】や、基本理念を理解し、各々の職業において、全うし、地域社会に奉仕するよう励むべきである。

最後に、松本パストガバナーより、職業奉仕の理念および、如何に活動すべきか、力強い講評を賜り、1時間30分の懇談会を終了いたしました。ご協力いただきました各位に心より感謝申し上げます。

(要約 吹田江坂)



部門別懇談会

社会奉仕部門

(担当：守口)



リーダー	岡村 晃明(守口)クラブ社会奉仕委員長
サブリーダー	正木 一光(守口)クラブローターアクト委員長
サブリーダー	江端 将哲(守口)クラブ青少年奉仕委員長
担当	廣瀬勘一郎(大阪西南)パストガバナー
担当	中川 章三(大阪城南)パストガバナー
S A A	後藤 二郎(大阪北)
副SAA	池田喜八郎(大阪北)
副SAA	高原 進(大阪北)
記録	後藤 凌司(大阪北)

21世紀、ロータリークラブとして、ロータリアンとして いかにあるべきか、今一度立ち止まって考えてみよう！

まず最初に、今回の地区大会の社会奉仕部門懇談会は、今までにない活発な議論の場として頂きたいとの古市大会委員長のお話もあり、IMごとにグループ分けをしてテーブルごとに各テーマに沿い、テーブルバズセッション方法で活発な議論が行われた。

〈発表結果〉

■第1組「交通問題について」

- ・「事故を未然に防ぐ」為に「安全コンテスト」に参加必要。

■第2組「老人・福祉問題について」

- ・実体験の場(知的障害者に対する)
- ・学びの場(パソコンスクール等)
- ・交流の場(幼稚園児と老人ホームとの交流)

■第3組「環境問題について」

- ・禁煙例会
- ・車を利用しない
- ・買物の際、簡易包装に

■第4組「青少年・教育問題について」

- ・「ダメ・ゼッタイ。薬物乱用防止」運動に参加
- ・新世代会議の継続
- ・野外活動体験プログラムの取組み

■第5組「青少年・教育問題について」

- ・教育フォーラムの開催
- ・ローターアクトメンバーとの協同社会奉仕

■第6組「環境問題について」

- ・淀川が汚い
- ・緑が少ない
- ・空気が悪い

各地域で取組み方を考え、子供たちに関心を持たせ、

啓蒙していくべき。

■第7組「老人・福祉問題について」

- ・海遊館の見学の手伝い
- ・老人ホーム訪問
- ・知的障害児との交流
- ・自殺防止センターへの寄付
- ・盲導犬養成への寄付

■第8組「交通問題について」

- ・交通マナーの勉強会の実施
- ・交通安全運動のチラシの配布
- ・各企業に対しての啓蒙活動
- ・ロータリアンが先ず範を示すこと

以上、各テーブルリーダーより発表されたが、ロータリアンとして21世紀にいかにあるべきかを考えるとき、まず何事においてもロータリアンとして自らが範を示し、地域の子供たちにもかかわりをもって今後の活動を積極的にするべきだと感じました。

最後になりましたが、廣瀬パストガバナー、中川パストガバナーにもテーブルバズセッションにもご参加頂き、大変有意義な部門別懇談会となりましたことに感謝し、ご報告いたします。

(要約 守口)

部門別懇談会

国際奉仕部門

(担当：大阪中央)



リーダー
サブリーダー
サブリーダー
担当
担当
担当
担当
担当
SAA
副SAA
副SAA
記録

田中 久雄(大阪中央)クラブ国際奉仕委員長
横山 守雄(大阪中央)地区WCS委員
足立 陽一(大阪中央)クラブ国際奉仕副委員長
戸田 孝(八尾)パストガバナー
古田 敬三(大阪)パストガバナー
瀧田 浩彦(大阪中央)地区WCS委員長
三宅 一嘉(大阪中央)地区青少年交換委員長
笹井 敏之(大阪中央)地区国際交流平和委員長
森 禎良(大阪北)
金辻 信弘(大阪北)
大西 宏史(大阪北)
高月 璋介(大阪北)

世界交流を通じて 助け合いのこころを育み、世界平和の実現に邁進しよう

■戸田 孝 パストガバナー

WCS活動は相手の見える奉仕活動で、世界交流につながる。2004年の大阪世界大会の成功を願っております。皆様の討論をお願いします。

■瀧田浩彦 世界社会奉仕委員長(大阪中央)

当地区のWCS活動は年々クラブ独自のプログラムが増えてきている。資金対策として、シェアシステムを利用して効果をあげる。

■横山守雄 地区WCS委員(大阪中央)

この活動はクラブ主体の活動であるべきで、会員が参加することが大切である。資金はDDF、同額補助などを利用して効果をあげる。

■北村 隆 国際奉仕委員長(枚方くずは)

インドとの活動報告、資金的に不足しがちに。

■橋本泰明 国際奉仕委員長(守口)

フィリピンとの事業で医療派遣や奨学資金援助の報告。

■尾川雅清 国際奉仕委員長(大阪平野)

5年前よりベトナムでの学校施設や診療所の増設等の活動を始めた。又本年より、現地のYMCAと共同で小学校の修学支援をしている。

■三宅一嘉 地区青少年交換委員長(大阪中央)

青少年交換の歴史、現在は当地区で年間15名の交換学生がいる。資金としては、青少年ファンドを年間3,000円会員にお願いしている。ローテックス活動について報告。

■足立陽一 国際奉仕副委員長(大阪中央)

ニュージーランドより交換学生のホームステイ受け入れの報告。

■武市智寿 国際奉仕委員長(大阪鶴見)

10年ほどの交換実績がある。問題点としては学校の選択と日本語の習熟度ぐらい。

■手塚政一 国際奉仕委員長(大阪梅田東)

今年初めて、カナダとの交換をしたが有意義な活動であった。

■笹井敏之 地区国際交流平和委員長(大阪中央)

究極の目的は世界平和である。この精神を次世代の青少年に伝え、育成してゆくかの討論をお願いします。又、世界大会に参加して友好を深めていただきたい。

■古田敬三 パストガバナー

インドでのWCS活動の体験から、感銘を受けたマザーテレサの言葉の紹介と助け合いのこころを持つことが大切と締めくくられた。

(要約 大阪中央)



部門別懇談会

ロータリー財団部門

(担当：大阪西北)



リーダー	美馬 大道(大阪西北)
	クラブロータリー財団委員長
サブリーダー	白崎 龍男(大阪西北)
	クラブロータリー財団副委員長
サブリーダー	岡本 行善(大阪西北)
	クラブ米山奨学会委員
担 当	菅生 浩三(大阪北)パストガバナー
担 当	大森 慈祥(茨木)パストガバナー
担 当	執行 経世(大阪西北)地区財団増進委員長
S A A	仙田 恒夫(大阪北)
副SAA	西村 脩(大阪北)
副SAA	益田 哲生(大阪北)
記 録	北村修一郎(大阪北)

社会の変革に合わせ、 ロータリーの原点に戻って考え行動しよう

まず、岩井2750地区PGから、昨年2月の“ロータリー財団の使命”の改定について報告があり、CAP(地域社会援助プログラム)の導入、ロータリーセンターとしてわが国の国際基督教大学をはじめ、世界の7大学が選定された経過と活用について説明と協力要請があった。

続いて、菅生PGが「資金を出すことも大切だが、これらのシステムを理解して活用しなければ意味がない。また増強の問題については、ロータリーのサービスが実行されることが基本である」と力説された。

また、簡学友委員長から、地区委員会が多すぎるとの意見に対して、目的と内容を見直して再編、統合もふくめて動いているとの報告があった。

〈一般発言〉

- ロータリーセンター学生の推薦について協力依頼。
- 使う方も大切だが集める方も大切。今年の目標一人当たり145ドルの達成をぜひお願いしたい。
- 寄付の削減、委員会活動の簡素化、ロータリー財団のことももう少しわかりやすくということをお願いしたい。
- いろいろなプロジェクトを活用することで、ロータリーへの理解も深まり、早くわかっていただけたらと思う。
- 現在もっとも大切なのは、教育問題だと思う。ロータリーとしても積極的にとりくんで欲しい。
- 学友会の活動について。

(要約 記録委員会)



4月28日(土)

大会第2日 (大阪国際会議場)

地区大会本会議

12:00	登録・受付	
13:00	開会点鐘	[ガバナー] 近藤 雅臣
	大会役員紹介	司会 [大会SAA] 木本 武雄
	RI会長代理ご夫妻紹介	
	日本国歌斉唱	
	大韓民国国歌演奏	[米山奨学生] 金 世姫 (茨木東)
		[米山奨学生] 文 鍾賢 (茨木西)
		[米山奨学生] 朴 雄蓮 (大 阪)
	ロータリーソング「奉仕の理想」斉唱	[ソングリーダー] 窪田 譲
		[ピアノ伴奏] 小梶由美子
	物故会員に黙祷	[ガバナー] 近藤 雅臣
	関西二期会によるハミングコーラス	
	開会挨拶	[大会委員長] 古市 実
	来賓紹介	[ガバナー] 近藤 雅臣
	祝電披露	[大会SAA] 木本 武雄
	新参加クラブ紹介並びに参加クラブ紹介	[大会副SAA] 緒方 満
		[大会副SAA] 阪口 善雄
	GSE他特別参加者紹介	[ガバナー] 近藤 雅臣
	ガバナー挨拶及び地区現況報告	[ガバナー] 近藤 雅臣
	RI会長代理挨拶及びRI現況報告	[RI会長代理] 蔡 熙秉
	表彰	
	登録委員会報告	[委員長] 丸山 雅祥
	信任状委員会報告	[委員長] 中川 章三
	選挙委員会報告	[委員長] 戸田 孝
	大会決議案上程	[委員長代理] 小西 豊和
	大会決議案採択	[ガバナー] 近藤 雅臣
	ガバナーエレクト紹介	[ガバナー] 近藤 雅臣
	ガバナーエレクト挨拶	[ガバナーエレクト] 寺田 和之 (大阪)

次年度地区大会ホストクラブ発表[ガバナー] 近藤 雅臣
 次年度地区大会ホストクラブ会長挨拶.....[次年度ホストクラブ会長] 川島 康生 (大阪)
 RI会長代理講評[RI会長代理] 蔡 熙秉
 記念品贈呈
 RI会長代理ご夫妻に[ガバナー] 近藤 雅臣
 直前ガバナーに[ガバナー] 近藤 雅臣

15:40

〈休 憩〉一般来場者入場

シンポジウム

15:50

記念シンポジウム テーマ 「21世紀 日本のアイデンティティー」

コーディネーター

大宅 映子

パネリスト

イーデス・ハンソン

呉 善花

金 美齡

記念演奏

17:30

記念演奏「日本・日本人のアイデンティティー」

女声合唱 関西二期会30名[指揮] 富岡 健

[ピアノ伴奏] 小椋由美子

[ナレーター] 能崎まゆみ

閉会挨拶[大会副委員長] 鴻池 一季

ロータリーソング 「手に手つないで」 斉唱.....[ソングリーダー] 窪田 譲

[ピアノ伴奏] 小椋由美子

閉会点鐘[ガバナー] 近藤 雅臣

18:00

閉会

開会挨拶

大会委員長
古市 実



2001年度、第2660地区大会は、新世紀の架け橋というたいへん意義のある年度の大会であります。幸い、国際ロータリー会長、フランク・J.デブリンご夫妻の代理として、大韓民国ソウル特別市よりRI元理事、蔡熙秉(チェ ヒー ビョン)様、洪喜子(ホン ヒー チャ)様ご夫妻をお迎えいたし、盛大に開催することができましたことを厚く御礼申し上げます。地区内86クラブ全員の登録をいただきまして、また菅野RI元理事はじめ多くの地区外のガバナーの皆さん、パストガバナーの皆さん、さらにソウル南、台北北からもパストガバナーご夫妻においでいただきました。こうして地区内外より多くのロータリアンの皆さんにご参加をいただきまして、ご家族ともども盛大に開催できましたことを重ねて深く感謝を申し上げる次第でございます。

さて、ご承知のように、本年度のRIテーマは「意識を喚起し、進んで行動を」ということであります。本大会の準備にあたりまして、近藤ガバナーは「現在のロータリー活動は、原点である『I serve』の精神が失われているのではないか、21世紀はいかにあるべきか、日本および日本人として、国際社会にどのように貢献せねばならないかなど大いに語り合える大会にしよう」という方針を示されました。昨日も、開会式に続きまして、ロータリアンによるシンポジウム、また部門別懇談会など、従来の慣行にとらわれない大会運営を試みました。たいへん活発な全員参加の討論が行われました。コーディネーター、各クラブから出ていただきましたパネリスト、リーダーの皆さんのご協力により、フロアからも大いに発言をいただき活発な討議がなされまして、昨日はたいへん盛り上がったわけでございます。

また、本日は公式諸行事をはじめ、オランダから1560地区GSEの皆さんが来ておられますが、新世代のロータリアンとなる若人の方々をたくさんご紹介できます。また、女性国際人による記念シンポジウムを一般の方にも公開いたしまして、21世紀の女性パワーの認識を深めたいと存じます。

また、既に皆さん方にご参加いただいたと思いますが、昨日までの3日間、家族プログラムを先般オープンしましたユニバーサル・スタジオ・ジャパンにおきまして開催しました。RI会長代理ご夫妻もご参加いただいたわけですが、7,650という、いままでに例を見ない多数のご登録をいただきまして、たいへん有意義な懇親の場を持たせていただきました。

このようにロータリーに対して関心を深めていただきまして、本大会が21世紀のロータリー活動に新しい活路をもたらすものと確信をいたしております。皆さん方、このようにたくさんご参加いただきまして、昨日、討議したことを踏まえて、ロータリー活動の新しい幕開けになりますことを祈念いたしまして大会の挨拶とさせていただきます。

ガバナー挨拶及び地区現況報告

ガバナー
近藤 雅臣



皆さん、こんにちは。地区大会がもうすぐ終わりますと、私もようやく自由を取り戻せる時期になってまいりました。本大会は、21世紀初頭を飾る本地区の地区大会ということで、国際ロータリー会長代理、元国際ロータリー理事の蔡熙秉さま、そして令夫人の洪喜子様をお迎えしまして、私どもの地区大会に花を添えていただくことになりました。

既に皆さん方ご承知のように、会長代理のロータリー歴は、別冊になっておりますけれども、素晴らしい履歴をおもちでございまして、ロータリーに関してたいへん深い経歴、その素晴らしい経歴からくる卓越した識見をおもちでございます。2、3日前から会長代理のお供をしてまいる間にいろいろお話を伺い、特に日本に対してのご理解の深いことに感動させていただきました。

RIにおける日本の立場は、いままででも理事の人数が少ないこともあり、またいろいろな支障もあって十分に通らない部分もあるという話も聞いておりましたけれども、この蔡熙秉会長代理が理事に就任されて以来、大韓民国はもとより日本に対してもたいへん深いご理解をいただいて、RIにいろいろな進言あるいは指示を与えていただいたことをお聞きし、感謝している次第でございます。

その1つとして、この間、お聞きしたところによりますと、国際大会が大阪を中心とした関西にという決定に対してもたいへん強いご支持をいただいて、その方向に迅速に進展したと聞いております。ただただ感謝あるのみでございます。このような素晴らしい会長代理が、今

回、私どもの地区大会においでになっていろいろご指導をお受けすることになったことに関しまして、私、本当に嬉しく、ガバナーとして感謝を申し上げる次第でございます。厚く御礼を申し上げます。(拍手)

さて、私は特殊な立場でございまして、1997～98年のガバナーを務めまして、また今年度のガバナーを務めさせていただきましたときに、このように申し上げたと思います。「私は土井ガバナーエレクトの急逝によって、その代わりにガバナーにさせていただきました。しかし、私はピンチヒッターとしてガバナーに就任したわけでは毛頭ございません。私が就任させていただく上は、私なりのフィロソフィーで今年度は過ごさせていただきますのでよろしくお願いいたします」と申し上げました。

といいますのは、私は1997年、ちょうど蔡会長代理が理事をお務めのころのキンロス会長のときのガバナーでございまして、「ロータリーの心を」というテーマのもとに皆さん方と接したわけでございます。そのときの気持ち、そのときのロータリーへの思いは、そう簡単には変わるものではございませんし、変わったらおかしいと思います。私はそのときのロータリーへの思いを終生、続けてまいりたいと思ったわけでございますので、今回もそれを基本としたフィロソフィーを貫かせていただきたいと思います。考えたわけでございます。

私は当時、「ロータリー精神の原点にたち戻ってロータリー活動を見直そう」と皆さん方に呼びかけました。そして、そのように実行していく努力をさせていただきます。

た。「じゃあ、そのロータリー精神の原点とは何か。それは愛である。ロータリーというのは、愛に始まって愛に終わるんです」と申し上げたと思います。

「じゃあ、愛は一体どうして貫いたらいいんでしょうか。それは、『I serve』というロータリーの本来の目的といえますか、本来のありうる姿を自分で体験しながら、身近なところから救いの手を差し延べていきましょう。幸福な、あるいは素晴らしい人生というのはどういうものでしょうか。素晴らしい両親の愛によって生まれ、両親あるいは身近にいる人たちの愛に育まれて育ち、その次は自らがその愛の手を差し延べ、そして愛に囲まれて終わる。これがいちばん素晴らしい人生ではないか。われわれロータリアンの年代は、愛の手を差し延べる期間であります」と申し上げた次第でございます。愛というのは見返りを求めないものでございます。それが奉仕、サービスであると申し上げたつもりでございます。

さて、そのようなサービスを行うときに、一体、何が必要なんだろう。それは救いの手を待つ人のニーズ、その人たちが何を欲しているのだろうかということ。これを的確に把握することがいちばん大事なことでないでしょうか。それがcreate awarenessということではないかと思えます。そして、それが見つかったら直ちにそれを行動に移すということ。これが今年度のテーマと、1997年のテーマとがうまく結びついた私のフィロソフィーではないかとご披露申し上げた次第でございます。

行うは難しですが、原点である「I serve」をしつかりと身に付けておればそれは可能であります。ロータリーの分身である私たちロータリアンが、何人集まっても、それは「I serve」であると。分身であるから、それを集めたってそれは一つのものでしかありません。たくさん集まったときに、それは「We」になるのではないかというお話が時々あろうかと思いますが、私はそうじゃないと思えます。分身が集まったら一つのものであります。したがって、「I serve」の「I」が大きな「I」の「I serve」になるだけであって、あくまでロータリーは「I serve」に徹するべきであると申し上げた次第でございます。

そういうお話から、土井さんが常々おっしゃっておられました会員増強、退会防止、広報の問題について皆さん方をお願い申し上げました。会員増強につきましては、「いたずらな増強は必要ございません。あくまで質の高い増強しか必要はございません。近年のRIは

一体どういうふうに考えているんでしょうか」とも申し上げました。「垣根を低くして人数だけ集めて『人数×ドル』という考え方で果たしてRIはやっていけるんでしょうか。私たちは果たしてそれに賛同できるんでしょうか」と申し上げました。

そんなことよりも、むしろ貴重な、素晴らしい、質の高い、いまのロータリアンが一人でもおやめにならないように頑張ることも大事ではないかと申し上げた次第でございます。いま規定審議会が開かれておりまして、そろそろいろいろな結果が出てきておりますけれども、RIの最近の兆候としまして、この21世紀に入って、もう一度ロータリーというものをわれわれが考えて、本来もってきた素晴らしいものは絶対に残し、伝統を守り、そこからまた素晴らしい新しい改革の芽が出てくるかもしれません。革命というのは一挙に起こりますが、改革というのはそんなに短兵急に起こるものではございません。

なんだったら日本独自の素晴らしいロータリーのフィロソフィーを貫いてもいいんじゃないかということまで考えますと、“頑固な保守派”と言われるかもしれませんが、私は私なりのフィロソフィーは通していきたいと思っている次第でございます。

今年度、私がいちばん皆さん方をお願いしたいことは、先ほどもこの壇上に上がっていただきました素晴らしい若人たちに対して、私たちはどれだけ関心をもっているかということで、それを皆さん方に考えていただきたいと思ったからであります。先ほども申し上げたように、若人たちの集まりに対するバックアップは、提唱クラブとか単なる1クラブで一生懸命やっていたいんですが、その他のクラブ、あるいはその中のクラブにおいても無関心な会員は多々おられる。これはいたし方のないことだと思いますけれども、できるだけたくさんの方々に、私たちが接しているロータリーに関係している若人たちに関心を持っていただきたいなと思っているわけでございます。そういう意味で、本日は壇上に上がっていただいて皆さん方の関心を深めていただきたいと思ったわけでございます。

あれだけの素晴らしい若い人たちを、私たちは放っておいていいんでしょうか。21世紀はだんだん人口が減ってくると言われますけれども、ロータリーの会員増強を目指すのであるならば、この若い人たちを立派に育てあげてロータリアンにするほうが、単なる会員増強よ

り必要じゃないでしょうか。私たちが日ごろ接してきている若人たちは、改めて教育することなくロータリーの精神を鼓吹されている人たちばかりです。そのまま入っていただいてもロータリアンとしてしっかりやっていただけるんじゃないでしょうか。あの若人たちを絶対に逃がしてはなりません。そのためには、先ほど申し上げたように、私たち自身が素晴らしいロータリアンになるうではありませんか。

そして、昨今、青少年に対する教育問題が大きく社会問題として取り上げられております。最近の教科書は、はっきり申し上げて日本の子供たちを“ダメ”にするとあります。あんなことで、これからの日本は一体どうなるのでしょうか。特に、心の教育が叫ばれております。もちろん、これは大切なことでございます。しかし、たとえばああいう教科書を使って知識の貧しい子供たちが出てきたらどうするのでしょうか。

特に、「IT革命」と言われておりますが、ITというのは単にコンピュータを上手に操るテクニシャンをつくる、それがITのための革命ではございません。あの中身、ハード、ソフト、そしてそれをつくり上げていく化学物質をもとにしたいろいろな素材に対する研究が進展しなければ、ITそのものが発展するわけがございません。そのためには、いわゆる理科というサイエンス教育の基本がなくては、これからの日本は進展していくはずがございません。

私たちロータリアンは、いままでお金と労力を一生懸命、お願いしておりましたけれども、肝心の皆さん方の専門的な知識、それぞれの分野における最高の知恵、知識をもった皆さん方の英知をお借りすることを忘れていたんじゃないでしょうか。私は、これを教育のためにぜひ活かしていただきたいと思います。

そして、教科書に載っていない空白になっている部分を、われわれロータリアンが埋めていく気概がなくては、将来の日本はなりたていかないように思います。ロータリアン全員がそういうことを目的にして、何かそれに対する奉仕を考えていく必要があるのではないかと。そして、青少年関係の新しい委員会をつくり、また今度は職業奉仕委員会の中で皆さん方の職業を通じて若い子供たちにどれだけ研修、その他で貢献できるのだろうかと。いうところまで進展させていければと考えている次第でございます。

このあと地区現況報告ですが、ここに全部、書いてございます。たとえばの話でございますが、会員増強に關しましては、純増53名となっております。これは量ではなくて質ということで、53名あれば結構ですと申し上げたいと思いますし、84クラブから86クラブになろうとしています。それだけの拡大も進めていただいております。こういうことは、土井エレクトがご生存中に北クラブが土井さんのために地区委員会を通じて一生懸命、努力をされた結果であろうと思っております。

ご承知のように、土井正裕ガバナーエレクトはロータリーに対する大変な思いをもちながら本当に残念であったろうと思いますが急逝されてしまいました。しかし、その基本的な精神は北クラブがつがれましてホストクラブとしてきょうまで立派にやってこられたわけでございます。古市大会委員長をトップとして、素晴らしい地区大会を計画し実行していただいたわけでございます。私は、この素晴らしいご努力に関して深く感謝を申し上げたいと思います。

最後に、このような素晴らしい地区大会が皆さんと共に迎えられたこと、そして北クラブがそれをしっかりやりになったことを天国の土井さんに報告するとともに、ご冥福をお祈りして、私のご挨拶並びに報告とさせていただきます。ありがとうございました。

地区現況報告

2001年3月作成

1. クラブ奉仕部門

(1) 会員増強委員会

○ クラブ数(2001年3月末現在)

85クラブ(大阪市内:44 大阪市域外:41)

○ 会員数(2001年2月末現在)

5,032名(期首4,979名 純増53名)

(2) 広報・雑誌委員会

○ 「共に歩む」下巻発行

昨年度に続き、全国紙産経新聞に連載された各RC紹介及び奉仕活動の集大成として小冊子を3月末に発行。全会員に配布。

○ 第1回 クラブ広報・雑誌委員長会議

2000年10月2日(月)(大阪YMCA会館)

第2回 クラブ広報・雑誌委員長会議

2001年2月20日(火)(葉業年金会館)

広報事項の他、両会とも、本年は新世代に重点を置き、財団国際親善奨学生、PSC(財団学友)、GSE(研究グループ交換)、米山奨学生、米山学友、青少年交換学生、ROTEXの方々に報告してもらい、ご出席の方々に感銘を与えた。

○マスコミとガバナーとの懇談会

2000年8月11日(金)

(リーガロイヤルホテル アゼリア)

出席マスコミ在阪11社中10社

本年は新世代に重点を置き、財団国際親善奨学生、PSC(財団学友)、GSE(研究グループ交換)、米山奨学生、米山学友、青少年交換学生、ROTEXの方々に報告してもらい、マスコミの方々に感銘を与え、予定時間が30分以上も延長された。

○第4回 文化講演会

2001年5月7日(予定)

(大阪国際会議場・特別会議室)

地区広報・雑誌委員会主催、産経新聞社共催

・題 「ブッシュ政権発足から4か月

―何が変わったのか、変わらなかったのか」

・講師 駐大阪・神戸アメリカ総領事

ロバート・ルーダン氏

○「高齢者の声作文」表彰発表会

2000年9月12日(火)

大阪市教育委員会・大阪市内44ロータリークラブ共催

(3)規定・情報委員会

本年4月に開催される規定審議会で審議される立法案の主要なものについて説明及びアンケートの実施を依頼するため、2001年2月10日(土)に「クラブ規定情報委員長会議」を開催。その後、クラブよりの回答を集計し、地区内の意見を取りまとめ、中野代表議員に報告。

(4)親睦活動委員会

当委員会は「ロータリーは先ず親睦と奉仕から」を忠実に実行しています。

①地区ダンスパーティー

2000年9月24日(日) 於:オ・セイリュウ

参加者:101名(男性:49名、女性:52名)

寄付金:¥83,200-(ガバナー月信11月号参照)

②第2回チャリティ・美術オークション

2001年2月25日(日) 於:オ・セイリュウ

参加者:84名

寄付金:¥228,200-

合計金額 ¥311,400-

オリンピック招致委員会へ ¥150,000-

ロボフェスタへ ¥161,000-

各々寄付致しました。

会場を盛り上げる為に、ロータリアンによるバンド「ザ・ベリー・グッドマンズ楽団」が活躍しました。

③その他、カラオケ大会や茶の湯同好会などが開催されました。

2. 職業奉仕部門

(1)職業奉仕委員会

①前年度に引き続き、ロータリーの基本理念を研究し、職業人として社会の模範となるべく、「奉仕の精神」を深く追求した。また、前年度作成した小冊子「職業奉仕の小史」を地区内84クラブ及び他地区23クラブに配布し、「奉仕の精神」を宣伝した。

②ロータリーの基本理念である「綱領」「モットー」「四つのテスト」「職業奉仕の新方針」「職業宣言」について地区会員の意識を参考にするためアンケートを作成し、配布・回収して集計した。

(2)ボランティア委員会

第46回世界卓球選手権大会

(活動期間:2001年4月20日~5月6日)

語学ボランティア:第一次募集

(募集締切:2000年7月28日)

以上の要請がありましたが、各クラブより申込みはありませんでした。

3. 社会奉仕部門

(1)社会奉仕委員会

○「第9回 高齢者海遊館ご招待」

実施日:2000年10月26日(木)

会場:港区天保山 海遊館

参加者:合計 439名

〈内訳〉招待者 249名

付添者 61名

ロータリアン 129名

○「ダメ・ゼッタイ」ヤングフェスティバル協力

地区84クラブ中78クラブの協力

実施日：2000年10月22日(日)

(2) 環境保全委員会

①環境研修見学会

実施日：2000年10月12日(木)

会 場：大阪港見学船「夢咲号」船内及び大阪
市住之江区アジア太平洋トレードセンタ
ー内「ATC・グリーンエコプラザ」

参加者：地区内各クラブ委員長 65名

②グリーン購入セミナー

実施日：2001年3月8日(木)

会 場：大阪国際会議場

参加者：地区環境保全委員会委員

③大阪府・豊かな環境づくり大阪府民会議

実施日：2001年1月30日(火)

会 場：森之宮KKRホテル

参加者：地区環境保全委員会委員長

4. 青少年奉仕部門

ロータリーの支援する全ての新世代グループの合同協議会を発足させる準備をし、それに対応する地区委員会を結成した。

(1) 青少年活動委員会

○少年少女ニコニコキャンプ

実施日：2000年8月4日(金)～6日(日)

会 場：大阪府立総合青少年野外活動センター

参加者：児 童 105名
(男子：56名、女子：49名)

リーダー 35名
(ローターアクト、上級ライラ終了生)
ロータリアン

登 録 290名(61クラブ)

参加者 90名(21クラブ)

ホスト：高槻ロータリークラブ

○ロータリー青少年指導者養成プログラム(RYLA)

①初級 秋のライラ

実施日：2000年10月7日(土)～9日(月)

会 場：大阪府立総合青少年野外活動センター

参加者：青年102名
(男子：48名、女子：54名)

リーダー 22名

(ローターアクト、上級ライラ終了生)

ロータリアン

登 録 389名(83クラブ)

参加者 76名

ホスト：大阪北淀ロータリークラブ

②上級ライラ

A. プレキャンプ

実施日：2000年9月23日(土)

会 場：大阪府立青少年会館

参加者：青年 9名、ロータリアン 10名

ホスト：大阪北淀ロータリークラブ

B. 本キャンプ

実施日：2000年10月7日(土)～9日(月)

会 場：大阪府立総合青少年野外活動センター

参加者：青年 9名、ロータリアン 10名
大阪府青少年活動財団 12名

ホスト：大阪北淀ロータリークラブ

③初級 春のライラ

実施日：2001年5月3日(木)～5日(土)(予定)

会 場：大阪府立青少年海洋センター

参加者：青少年、リーダー、ロータリアン(予定)

ホスト：大阪東南ロータリークラブ

(2) ローターアクト委員会

クラブ数：24クラブ(提唱RC：27クラブ)

会 員 数：412名(2001年2月末現在)

〈海外研修〉 研 修 先：台湾 台北第3480地区
研修期間：2000年11月23日(木)～

26日(日)

〈年次大会〉 2001年5月20日(日)(予定)

於：三井アーバンホテル大阪ベイタ
ワー

(3) インターアクト委員会

クラブ数：8クラブ(提唱RC：8クラブ)

〈海外研修〉 研 修 先：マレーシア

ペナン第3300地区

研修期間：2000年8月17日(木)～
21日(月)

参加人数：50名

ホスト校：明浄学院高等学校IAC

(提唱：大阪城南)

〈年次大会〉 2000年8月5日(土)

於：住吉大社記念館

RI第3480地区台北扶輪少年服務團合同

ホスト校：金光八尾中学・

高等学校IAC

(提唱：八尾)

参加人数：200名

5. 国際奉仕部門

(1) 青少年交換委員会

長期派遣：

2000年1月出発 1名(ニュージーランド)

2000年8月出発 14名

(アメリカ3名、カナダ2名、ドイツ2名、スペイン・ノルウェー・フィンランド・ベルギー・フランス・ブラジル・ハンガリー各1名)

2001年8月出発予定 15名

(アメリカ5名、カナダ2名、ハンガリー・ベルギー・ニュージーランド・ドイツ・フランス・スペイン・チェコ・フィンランド各1名)

短期派遣：

2000年8月出発 2名(アメリカ2名)

2001年8月出発予定 3名

(アメリカ・イギリス・インド各1名)

長期受入：

2000年1月受入 1名(ニュージーランド)

2000年8月受入 10名

(アメリカ・カナダ各2名、ドイツ・ハンガリー・ベルギー・ノルウェー・フィンランド・インド各1名)

2001年8月受入予定 15名

(アメリカ6名、カナダ・フランス各2名、ベルギー・フィンランド・ノルウェー・メキシコ・インド各1名)

2002年1月受入予定 1名(ニュージーランド)

短期受入：

2000年8月受入 2名(アメリカ2名)

2001年8月受入予定 3名

(アメリカ・イギリス・インド各1名)

(3) 世界社会奉仕委員会

世界社会奉仕は地区内85クラブがそれぞれ独自のプロジェクトを行うように数年来指導をしてきた。1クラブ会員数×5千円以上でプロジェクトを実施することを目標にし、年々実施するクラブが増えてきている。

本年度は61クラブがそれぞれ単独で、あるいは2～3クラブが共同でプロジェクトを実施している。要約すれば、

ク ラ ブ 数 : 61クラブ(3,807名)

プロジェクト数 : 79

実 施 国 : 27ヵ国

クラブ拠出金額 : ￥29,817,896 (US\$257,050)

DDF使用金額 : ￥1,933,750 (US\$16,670)

合 計 : ￥31,751,646 (US\$273,721)

(\$=116円)

次にクラブ単独で行わず、地区委員会のプロジェクトに参加するクラブはWCS特別基金に会員数×5千円を拠出してもらう。

ク ラ ブ 数 : 24クラブ(1,216名)

拠 出 金 額 : ￥5,905,000 (US\$50,905)

プロジェクト数 : 2(完了)

実 施 国 : 2ヵ国(ベトナム、フィリピン)

使 用 金 額 : ￥5,421,260 (US\$46,735)

その他、財団法人道的援助委員会のシェアシステムにより、同額補助(DDF)、ヘルピング・グラントとWCS特別基金とクラブと共同のプロジェクトの実施も軌道に乗って来ている。

プロジェクト数 : 20

実 施 国 : 11ヵ国

DDF使用金額 : US\$86,837.25

(昨年度からの継続分も含む)

WCS使用金額 : US\$37,971.00

クラブ拠出金額 : US\$16,677.00

海外クラブ拠出金額 : US\$18,275.00

海外DDF使用金額 : US\$6,531.25

その他拠出金額 : US\$2,000.00

W. F 金 額 : US\$111,207.50

総 合 計 : US\$279,499.00

上述の様に世界社会奉仕(WCS)もクラブ独自のプロジェクトを奨励するのは勿論、同額補助の利用によ

るプロジェクトの実施効果を大きくすることを勧めながら、逐年変化をして参りました。この2～3年はシェアシステムの導入で、より大きな変革がなされつつあります。このシェアシステムによる人道的援助委員会の資金で世界社会奉仕に利用できる金額は本年度で

同額補助(DDF): US\$50,000

世界社会奉仕助成金: US\$30,000

(1件上限US\$5,000)(Discovery Grant)

が配分されています。これらは次年度に繰越される上に、更にヘルピング・グラントが増えると思われるので、財団人道的援助委員会と密接な連携を保ちながら、地区委員会は勿論各クラブもその利用に取組み、有意義な世界社会奉仕の実を挙げるべく、当委員会が総力を挙げて、啓蒙と実践応援に努める所存であります。

6. ローター財団部門

(1) 財団国際親善奨学生委員会

○ 2001～2002年度奨学生より初めてマルチ学生の採用をしました。19名の合格者の内、マルチ学生は6名です。目下、今年の3月3日の第2回オリエンテーションを受け、留学希望校及びRIコーディネーターとの折衝最中であり、8月には逐次出発していくでしょう。

○ 本年度採用制(2002～2003年度生)より、応募生の紹介制度を始めました。過去の統計では、大学所在地に近い一部のクラブに応募者が多く、片寄がちだったのを、全く応募者のないクラブへ一部紹介して、地区全域にわたる財団活動に近づこうとするものです。アンケートの結果、20クラブ程に受入の希望が見られます。

〈2000～2001年度留学生〉

派遣: 19名(派遣国: イギリス7名、フランス4名、アメリカ3名、スウェーデン・スペイン・トルコ・スイス・タイ各1名)

受入: 4名(出身国: 韓国・アメリカ・台湾・ハンガリー各1名)

〈2001～2002年度留学生〉

派遣: 17名(派遣国: アメリカ7名、イギリス5名、イタリア・フランス・カナダ・コスタリカ・タイ各1名)

○ 日本で初めてと言われる「大学教員のためのロータリー補助金」制度をこの地区で本年度よりスタートできました。東大阪東推薦の小山田英治氏がフィリピンのマニラ郊外(第3820地区)にあるフィリピン大学ロスバニョス校で教鞭を執っておられます。

(2) 研究グループ交換(GSE)委員会

当地区よりオランダ第1560地区への派遣

2001年4月21日(土)～5月27日(日)

オランダ第1560地区よりGSEチームの受入

2001年3月23日(金)～4月30日(月)

○ 本年度についてはオランダよりの希望でチームメンバー6名(団長を含む)、期間は5週間。

○ 2001～2002年度GSEについては、アメリカ・ウィスコンシン州・ミルウォーキー(第6270地区)との交換予定で、現在進行中。

(3) ポリオ・プラス委員会

ポリオ・プラス・パートナー・プログラムへの寄付

(2000年10月～2001年1月)

地区DDF: US\$35,000(¥3,710,000)

地区内26RC: US\$ 8,431(¥897,611)

合計: US\$43,431(¥4,607,611)

(4) 財団情報委員会

ロータリー財団の活動及び方針を各クラブの財団委員会を通じ、各クラブまで深めるべく活動を行った。

① 2000年4月15日(土)

地区協議会の部門別協議会に於いて各クラブ財団委員長に対し、地区8委員会より本年度の活動方針についてわかりやすく説明があった。

② 2000年9月30日(土)

財団セミナー開催。各クラブより3名(会長・理事・財団委員長)が出席され、財団の歴史からはじまり7委員長よりそれぞれ活動状況、また財団の新しい動き・問題点に至る詳しい説明があった。

③ 2000年11月

財団月間。地区財団委員長の卓話希望されたクラブで行われ、また財団学友による国際親善奨学生の体験談が数クラブで行われた。

④ 2000年12月16日(土)

クラブ財団委員長会議開催。地区財団委員会の活動の現況と報告があり、また2002～2003年度ロ

ロータリー財団奨学生募集についても報告があった。

(5) 財団増進委員会

ロータリー財団への寄付(2000年7月～12月末)

	前年同期比
一般寄付: 388,391.40ドル	115.3%
基金への寄付: 26,000.00ドル	100.0%
同額補助金: 7,716.00ドル	8.5%
合計: 422,107.40ドル	93.2%

ベネファクター: 470人(前年より79人増加)

(6) 財団法人道的援助委員会

人道的分野へのDDF配分額: US\$145,000

(2000～2001年度)

使用現況(2001年3月10日現在)

・ポリオプラス	US\$ 35,000
・緊急災害援助:	
インド第3050地区へ	US\$ 4,000
インド第3060地区へ	US\$ 4,000
エルサルバドルへ	US\$ 2,000
・新人道的援助金: フィリピン歯科診療 (大阪船場) US\$ 10,000	
・世界社会奉仕助成金(Discovery Grant)	
5クラブ(大阪平野・大阪中之島・大阪住吉・ 東大阪中央・地区WCS)	
各US\$3,000×5=US\$ 15,000	
・同額・半額補助プロジェクト支援	
20件(世界社会奉仕の項参照)に対し合計	
US\$ 63,960	
・RIより要請の「盲人に光」への協力金	
US\$ 5,000	
合計	US\$ 138,960
前年度よりの繰越金	US\$ 27,568.50
本年度の残金	US\$ 6,040
合計残高	US\$ 33,608.50

7. 米山奨学部門・米山奨学委員会

○米山奨学会への寄付(2000年7月～12月) 前年同期比

普通寄付額: 13,911,250円	97.79%
特別寄付: 56,135,605円	93.91%
合計: 70,046,855円	94.68%

○米山奨学生

〈2000年度支給学生〉

Y奨学生 43名(大学院博士課程23名、修士課程8名、学部1名、医博9名、
 歯博2名)

CY奨学生 3名(大学院博士課程3名)

合計 46名

(出身国: 韓国22名、中国17名、台湾5名、トンガ・バングラディシュ各1名)

8. 拡大部門・拡大委員会

○拡大委員会結成の打合せ 2000年1月25日(火)

於: オ・セイリュウ

2000～2001年度拡大委員会の選任について打合せを行った。

○第1回拡大委員会 2000年5月9日(火)

於: オ・セイリュウ

第1回拡大委員会を開催し、委員の顔合わせを行い、予算と事業について協議した。

○守口ロータリークラブ例会 2000年6月14日(水)

於: 守口プリンスホテル

守口ロータリークラブ例会に出席し、新クラブ拡大についての卓話をした。

○大阪八尾フレンドロータリークラブ認証状伝達式

2000年6月21日(水) 於: オ・セイリュウ

大阪八尾フレンドロータリークラブ認証状伝達式に出席した。

○新クラブ拡大の打合せ 2000年6月27日(火)

於: 大阪大学工業会

大阪西北ロータリークラブと新クラブ拡大について、打合せを行った。

○1999～2000年度拡大委員会 2000年7月6日(木)

於: ザ・リッツカールトン大阪

1999～2000年度第5回拡大委員会に出席し、引継ぎ事項の説明を受けた。

○第2回拡大委員会 2000年9月26日(火)

於: オ・セイリュウ

第2回拡大委員会を開催し、拡大活動についての経過報告を行い、守口イブニングロータリークラブの創立総会への出席を要請した。

○守口イブニングロータリークラブ創立総会

2000年11月2日(木) 於: 守口プリンスホテル

守口イブニングロータリークラブの創立総会に出席した。

○守口イブニングロータリークラブ認証状伝達式

2001年3月13日(火) 於:守口プリンスホテル
守口イブニングロータリークラブ認証状伝達式に出席した。

○第3回拡大委員会 2001年3月16日(金)

於:オ・セイリュウ

第3回拡大委員会を開催し、拡大活動の経過報告、次年度の事業についての協議、そして大阪ユニバーサル・シティーロータリークラブ創立総会への出席を要請した。

○大阪ユニバーサル・シティーロータリークラブ
創立総会

2001年3月27日(火) 於:ヒルトン大阪
大阪ユニバーサル・シティーロータリークラブの創立総会に出席した。

9. 特別奉仕部門

(1) 国際大会特別委員会

- ・2000年ブエノスアイレス国際大会の報告を分析、2004年国際大会の参考とする。
- ・2000年8月 国際大会打合せ会。
- ・2000年9月 財務部会長寺田ガバナー・エレクトに副部会長の選任依頼。大阪より2名推薦いただく。
- ・2001年1月 RI理事会提出事項検討、打合せ会。
- ・2001年3月 RI理事会の条件を受け、打合せ会。
- ・2001年3月 リーガロイヤルホテル、国際会議場で国内委員会開催。

〈参考〉

2004年国際大会計画の経緯

- ・1996年2月 国際協議会において2004年日本開催案が起る。
11月 RI理事会にて関西開催の内定。
- ・1997年2月 2004年国際大会推進準備委員会、組織。
- ・1998年6月 日本全ロータリアンからの募金開始。
- ・1999年1月 RIスタッフ2名、インテックス大阪など視察。
2月 RI理事会で開催地、大阪がほぼ決定。
- ・2001年2月 RI理事会、正式決定。(条件付)

(2) 交通問題特別委員会

日 時	行 事	場 所 等
2000・7・5	第1回委員会	オーク200
7・8	地区合同委員会	新阪急ホテル
7・15	第1回担当者会議	葉業年金会館
9・6	第2回委員会	オーク200
9・23	おおさか交通安全 ファミリーフェスティバル	万博お祭り広場 *雨天の為中止
9月以降	無事故・無違反 チャレンジコンテスト	大阪府下の各警察
11・8	第3回委員会	オーク200
10・14~2・24	各LMにて地区報告	
2001・2・7	第4回委員会	オーク200
3・17	第2回担当者会議	葉業年金会館
4・6	春の交通安全運動 初日キャンペーン	大阪城公園広場

* 2001・6・13 第5回委員会新旧委員による引継、開催予定

(3) 教育問題特別委員会

わが国の教育が、現在抱えている問題点が何であるかを明らかにし、それをいかに解決するかを探究するとともに、その解決のために必要で効果的な提言を行うべく活動している。今年度は、全体委員会を4回と提言編集のための編集委員会を8回開催している。6月に公刊予定の提言は『21世紀教育改革への提言―豊かな社会における人間教育の探求―』と題し、その内容(案)は次の通りである。

I 『21世紀教育改革への提言

―豊かな社会における人間教育の探求―』

- ① 人間教育の重視
- ② 豊かな社会における教育のあり方を問う
- ③ 学校教育改革への提言
- ④ ロータリアンの立場から

II 委員会発足の経緯・趣旨

III 委員会の活動報告

IV 各委員からの意見

V 座談会『21世紀の教育を考える』

VI アンケート調査の報告と分析

VII 資 料

RI会長代理挨拶及び RI現況報告

RI 会長代理
蔡 熙秉



皆さま、こんにちは。近藤雅臣ガバナー、大会委員長、敬愛するロータリアン、ご家族、ご来賓の皆さま、このたびは家内と共にフランク・J.デブリン会長ご夫妻の代理として貴地区大会に参席させていただき、身に余る光栄とともに、温かいご歓迎に心から感謝申し上げます。

日本と韓国とは、お互いに姉妹クラブ、友好クラブ結成、青少年交換、新世代会議などいろいろな奉仕活動を通じて親善と理解を増進しております。たび重なる日韓親善会議を通して、1979年のアジア大会、1989年のソウル国際大会に各々5,000名、6,000名を超える日本からの参席をいただき成功裡に終わりましたことに対し、遅れましたが、さらに深く感謝する次第でございます。

2000～2001年のロータリー世界指導者であるフランク・J.デブリン会長は、メキシコ北部最大の都市、フアレスで生まれました。誠実で独創的な人柄で、優れた最高経営者でもあります。なおかつ、奉仕者としても30年間、ロータリーのために大きな貢献を尽くされた方であります。私は、さる1998～1999年、国際ロータリー理事会でフランク会長と一緒に理事会に参席しましたが、博識なロータリー知識、経験のある熱意と力強い指導力あふれる人物であります。

毎年、RI会長のテーマが発表され、その表現は異なりますが、そのたびごとに世界のロータリアンに、時代に適した奉仕の理想を要求されています。「意識を喚起し、進んで行動を」という今年度のテーマは簡潔で力強いテーマとして、私たちに使命と新鮮な刺激を与えてくれるものです。したがって、私たちが行うすべての活動を

導くことになると思います。

フランク会長はRI国際協議会で次のように言われました。「ロータリアンが私たちのクラブ、地域社会、そして世界が直面している問題の意識を喚起することは重要であり、意識を喚起しない限り行動は起こらず、ロータリーは意識と行動を結びつけなければならない」と。また意識しても行動しなければならず、はっきり意識しなければ行動することもできません。私たちはクラブ、地域社会、そして私たちの世界が直面しているいろいろな問題に、認識とニーズに必要な奉仕の手を差し延べなければならないと思います。

われわれロータリーは、国際的ボランティア奉仕運動として96年の長い歴史をもっています。私たちは常に奉仕、ボランティア、友情、国際性という言葉を中心に銘記すべきです。この奉仕とは、他者に対する思いやりです。人のためにする奉仕は、いつまでも私たちの組織の基本的目標であり、成果であります。奉仕は生活様式でありロータリアンとしての生活様式でもあります。ロータリアンが楽しくわちあうときに希望をもたらす力を合わせ、効果的に働く。心を許すためにも友情は不可欠なものです。

ロータリーの目的を果たすための唯一の方法は、参加することとボランティアの精神です。ボランティアの精神は、ロータリーの特徴です。ボランティアの精神とは、ご承知のとおり、人間生活に苦しむ人、悲しみや苦痛の中で助けを求める人、人間の尊厳のために自分の重要な時間とエネルギーを捧げて尽くすことがボランティアの精神であります。これこそ「意識を喚起し、進んで行動」

することになります。

ロータリーは、創立以来、会員は一貫して伸びてきましたが、1997年に入って初めて減少しました。これはアメリカ経済大恐慌および第二次戦争期間を除いては初めてのものでした。減少は1%にすぎないのですが、われわれロータリアンの将来を考える時期でもあると思います。ロータリーでなく他の奉仕団体であるライオンズクラブも、1983年以来、12%が減少し、JCという団体も1979年以来、40%減少していると聞いています。地域社会のリーダーや社会研究家は、コミュニティ精神の欠如とボランティアの不足を心配しています。

またライオンズの事務総長は、「なぜライオンズクラブが多数の会員を失っているか」という質問に対して、「多くの高齢の男性が社交を理由に集まるだけで実際の奉仕活動は少ない」ということでした。また、入会後2年以内に退会した元会員を対象に調査した結果、回答者の80%が運営、たとえばリーダーシップのお粗末さや、少な過ぎる奉仕プロジェクトに対して話をしているんです。仕事上の制約や時間不足をあげた人々は僅かだと聞いています。

われわれが参加しているロータリーが、いままで会員数を比較的、維持してきた理由は、私たちが新会員を選別して推薦のうえ、分類制度や出席要件、そして最も大切なことは多様な奉仕プロジェクトを有することであると思います。特に、ロータリーの奉仕は国際奉仕が特徴であると考えています。フランク会長は、テーマに意義と息吹を与え、支援するため、20の実行グループをつくりました。その中でも会員増強はいちばん重要な課題となっています。そのため国際ロータリー理事会は、ロータリー創立100周年期の終了にあたる2005年6月30日までに会員数を150万人に達するよう目標を設定する決意をいたしました。

ロータリーは最近、職業奉仕、社会奉仕から国際奉仕をより一層重視されています。ロータリーはどの奉仕団体よりも多様な誇りあるプログラムをもっており、国際理解を増進しながら平和を追求する国際性の強い特徴ある団体と言えます。

このようなロータリーが、いま一つやるべきことがあるとすれば、私は人材を養成することだと考えています。各々のクラブのロータリアン、地域社会、そして将来の世界の指導者になる若い人たちに立派な人材を養成する

ことが国際ロータリーのすべき当面課題ではないかと思っています。私たちは家庭において、職場または地域社会において、ロータリアン自身の真実、正義、そして友情という理想を持ち、生活するならば、それは大きな力となり得るはずで、そのために私たちはすべてこのロータリーに参加しているのではないかと思います。

私は、さる1999年10月11日から15日まで、カルロ・ラビツァ会長の要請で、1999年度ソウルで開催されたソウルエンジオ世界大会にラビツァ会長の代理として参席したことがありました。世界107国、1,410援助団体、8,000名が参加しましたが、そのソウル大会は新しい21世紀に直面しているいろいろな問題に対していと言われました。すなわち平和と安保、人権、保健、環境、倫理と価値、青少年と児童、老人、以上のトピックのなか、保健、平和、環境、倫理と価値、青少年と児童、老人など、大部分のトピックがわれらロータリアンでも最近もっとも力を入れている問題だと思います。今後は一つの国家、あるいは政府よりも世界一つの社会、「人類は一つ」の観念として援助団体の役割、われわれロータリーの役割がますます必要な時代になりました。

1982～83年、日本から選ばれた向笠広次元RI会長は、「人類はひとつ Mankind is one、世界中に友情の橋をかけよう」と言って、大切なことをわれわれに提起されました。世界は一つであり、地球は一つのコミュニティです。友情は橋を通して、われわれロータリアンはお互いに理解と世界の平和を築かなければならないと思います。世界のどこかに不幸が残っている限り、その世の中は決して幸福ではあり得ない。ロータリーは私たちに特権を与えてくださったものであります。私たちは信義と友情をもって、地域社会をよりよき住みよいところとしたことを高く評価されました。

私はロータリーに参加することによって、私たちがいままで分けてもらう喜びを、分けてあげる喜びにかえました。愛されるよりは愛することによって、より一層の喜びを私どもは得るのです。

最後になりますが、本大会で得られた友愛をもとにして、近藤ガバナーのご指導のもとに限りない発展が確実に実現されることを願ってやみません。したがって、本大会が日本ロータリーの模範となるような正義と友情に満ちあふれる素晴らしい地区例会になったとフランク・J. デブリンに報告できるものと確信しております。

RI現況報告

RI会長代理の役目と致しまして国際ロータリーの現況についてですが、簡単に最近の新しい統計の数字をご報告申し上げたいと思います。

国際ロータリーは現在165ヵ国35地域になりました。地区数に関しては530地区、29,968クラブ、1,176,169名の会員を持っております。

1962年に始められたインターアクトクラブは世界に106ヵ国7,426クラブ170,800名であり1968年以来始められたローターアクトクラブは146ヵ国6,903クラブ151,900名となっております。

1989年7月より女性のロータリークラブ入会が認められて以来、全世界ロータリーの約7.7%にあたる92,860名が女性会員であります。一方、米国は43万名の中約13%近い55,000名が女性です。日本の女性会員は2,400名程度で全体の会員に対する割合は、まだ2%程度だと聞いています。一方、韓国の女性会員は、女性だけのクラブが117クラブ2,900名、全体の女性会員は、3,621名で全体会員の約9%に達しております。女性だけのクラブは男性は加入がすんなりと出来ない雰囲気ではないかと思われま

す。次にRIの運営の現況についてご説明申し上げたいと思います。皆様も良くご存じの様にRIの目的は全世界に亘ってロータリーを奨励し助長と拡大、そして管理すること、またロータリー活動を調整し、包括的指導を行うことであります。

RIの最高機関は理事会で、只今19名の理事に依って構成されロータリー活動、計画、財政及び運営に関するいろいろな案件を処理するため、年5回通常エバンストン世界本部で開く方針を決めています。

最近の理事会で決定された最も重要な決議を要約すると次の通りです。

- 1) 国際ロータリー理事会はクラブが守るべき最小限の要件として
 - A) 会費を納付すること。
 - B) 定期的な会合を開催すること。
 - C) The Rotarian誌 或いは地域公式雑誌を購読すること。
 - D) 国内外の奉仕プロジェクトを実施すること。
- 上記の要件に至らないクラブは指導部の支援を受け

クラブを強化するか、クラブ同士が結びつくかまたはクラブを自ら解散することを決めました。

- 2) クラブに関して最小限の基準を検討した結果、理事会は少くとも20名のクラブ会員を維持することを義務づけている規定を削除致しました。

20名未満のクラブも地域社会に於いて有意義な奉仕活動をしているからです。

- 3) 会員増強が将来国際ロータリーとしては極めて重要な課題であるため、ロータリー創立100周年記念終了にあたる2005年6月30日までに会員数150万名を達成する目標設定を決議致しました。

- 4) 21世紀の変化に対して適応した国際ロータリーのNEW MODEL PILOT Projectが発表されました。

クラブ定款上主要要件であるクラブ例会の回数、会員の種類、区域限界等融通性を持って専門職或いは若い人を加入させることです。

世界的に200クラブを選定し2003年迄クラブに依ってRI定款細則に拘束されず自由にクラブを運営の結果、来る2004年規定審議会で検討した結果、その採択如何は2005年ロータリー100周年国際大会で発表することに決定致しました。

国際ロータリーの事務局は米国イリノイ州エバンストンの世界本部と世界中の8つのサービスセンターを含みます。

本部には約450名、海外8サービスセンターに100名合計550名以上の従業員がロータリー管理、計画、会計、会議、通信等いろいろな仕事をしております。

事務局のチーム、メンバーは皆さんを支援し、皆さんの地区活動を容易にし、ロータリー全体が世界の人道的ニーズに効果的に対処出来るようにサポートしております。

また、事務局は米貨6,400万ドル以上の予算で、毎年(165ヵ国)35の地理的地域に繁栄している国際企業と比べられる程です。20ヵ国語以上で通信とコミュニケーションを行い1日に事務局は何千通もの手紙とFAXを受け取り又郵送しております。人口3万人の町の郵便に相当する量です。

ロータリーはシカゴ地域で最も多くの海外への郵便を発送している組織の一つです。

国際ロータリー財団は1917年創設以来、いろいろな段階を経て素晴らしい発展を遂げてきました。この財団の

最も意義ある特徴は常に変化を遂げていたということでしょう。

ロータリーは1947年、ポール・ハリスを追悼し敬意を表したことを契機としてその規模を広げ、より強力により活動的になり今日にいたっています。

ロータリー財団創設以来、寄付額の累計は約11億ドルでその中80%は最近10年間で、その60%は最近5年間で集められた寄付額であります。

世界全体のP.H.F.数は686,260名でありベネファクターは44,181名であります。日本のP.H.F.の数は国際ロータリー全体の約2割を占めております。

日本は、さすがにロータリー支援大国の貫禄を見せておいででございます。

特にRI財団の国際親善奨学生は1947年以来100ヵ国から32,000人3億5千600万ドル、GSEは、1965年以来100ヵ国以上から7,600チーム37,000人6,800万ドル、3Hプログラムは、1978年以来70ヵ国216件5,800万ドルを支払いました。

Matching Grantは1965年以来11,300件165ヵ国、113万ドル、昨年度は2,000万ドルを支払いました。

25年以上を私達はロータリー大学の夢を抱きつづけて来ましたが、実際には財政的に不可能でした。

そして、現在世界に著名な大学7校に国際問題研究の為にロータリーセンターが設立されつつあります。

各ロータリーセンターで学ぶ毎年70名の奨学生は国際理解と平和という財団の究極の目的に対して新しい力を提供しています。

2000年から始まる奨学金は2年分で、平和と紛争の解決に修士号が与えられます。

各奨学生は2年間で合計5万ドルが必要で地区は地区財団活動資金から寄付するよう要請されています。

最後になりますが来6月24日～27日迄サンアントニオにて行われる国際大会にはどうぞ皆様大勢揃ってご参加頂けますことをRI会長代理として大きく期待致します。

皆様がご参加することにより、ロータリーの輪が広がることはもとより友愛の精神と地域奉仕、国際奉仕がそれぞれの方を通じて実りあるものと思います。

以上をもちまして私のRI現況報告を終了させていただきます。

ご清聴有難うございました。

大会決議案上程

委員長代理
小西 豊和



決議第1号

国際ロータリー会長代理
蔡熙秉氏に対する感謝の件

国際ロータリー直前理事蔡熙秉氏は、国際ロータリー会長フランク・J.デブリン氏の代理として、公私にご多忙の中、令夫人とともに遠路本大会にご臨席を賜り、国際ロータリーのテーマ「意識を喚起し、進んで行動を」を推進するために、極めて格調の高いメッセージと直前理事としての豊かな情報により、参加者全員に深い感銘を与えて下さいました。

よって本大会は、国際ロータリー会長代理蔡熙秉氏に対し、深甚なる謝意を表すことを決議します。

決議第2号

国際ロータリー第2660地区直前ガバナー
柏木 尚氏に対する感謝の件

直前ガバナー柏木 尚氏は、「一人は万人のために万人は一人のために」をモットーに持ち前の行動力と責任感により見事ガバナーとしての大任を果たされました。

そして、1999年～2000年度のテーマ、ロータリー2000：活動は「堅実・信望・持続」を身をもって垂範されました。

特に21世紀直前の地区内のロータリークラブに「和の再発見」を説かれ、もう一度文化、伝統を確認して21世紀を迎えようと提言され、ロータリーの新しい切り口を示されたことは、幾多の業績とともに、地区内ロータリアン一同深く感銘致すところであります。

よって本大会は、直前ガバナー柏木 尚氏に対して、その功績を称えとともに深甚なる感謝の念を捧げること

決議第3号

研究グループ交換実施の件

本大会は、国際ロータリー第6270地区〔アメリカ合衆国ウィスコンシン州〕と当地区との間に合意されている2001年～2002年度の研究グループ交換プログラムに賛同し、地区内全クラブがその実施に積極的に協力して国際理解増進の成果を上げることを決議します。

決議第4号

新世代合同協議会発足の件

ロータリーは健全なる新世代の育成に努力をしてきましたが、当地区においてロータリーが支援するすべての新世代グループの連携を促進するため各グループ代表による新世代合同委員会を設立し、別に第2660地区青少年奉仕部門に設置する新世代合同委員会とを併せてRI第2660地区新世代合同協議会を発足させ、ロータリー精神の共有とロータリー活動の協力推進に相携えて邁進することを決議します。

決議第5号

職場での実地研修を通じて青少年教育に貢献する件

ロータリーの職業奉仕の場として実地研修のための職場開放など青少年の教育への貢献を具体的に検討し、実現に努力することを決議します。

決議第6号

1999～2000年度の収支決算書（監査報告つき）を承認する件

本大会は、国際ロータリー第2660地区の1999～2000年度収支決算書（監査報告つき）を承認することを決議します。

決議第7号

次年度地区大会開催に関する件

本大会は、国際ロータリー第2660地区2001～2002年度の地区大会を大阪ロータリークラブをホストとして、

2001年5月17日～18日大阪市において開催することを決議します。

決議第8号

2008年のオリンピック大阪開催に協力の件

本大会は、2008年にオリンピックが大阪で開催されることを願い、その実現のため地区および地区内クラブが尚一層の協力をすることを決議します。

決議第9号

アメリカ合衆国サンアントニオで開催される国際ロータリーの2000～2001年度国際大会への参加を推進する件

2001年6月24日から27日までの4日間、アメリカ合衆国サンアントニオで開催される国際大会に、多数の当地区のロータリアンおよび家族の参加を推進することを決議します。

決議第10号

2004年に大阪で開催される国際大会の準備に万全を期する件

2004年の国際大会が関西で開催され、第2640地区、第2650地区、第2660地区、および第2680地区がホストを務めるため現在、千 宗室元RI理事のもと準備が進められております。

大阪を主たる開催地とする本大会において、当地区がその中心的役割を果たすため、地区内全クラブが総力をあげて任務を遂行し、準備に万全を期することを決議します。

決議第11号

本大会のホストクラブおよび協力諸団体に対する感謝の件

今回開催された2000～2001年度国際ロータリー第2660地区の地区大会が多数の地区内ロータリアンと家族が参加して、輝かしい成果の内に終了することが出来ますことは、ひとえにホストクラブであります大阪北ロータリークラブ古市実行委員長のもとクラブの会員、ご家族および関係者の皆様の心を一にした長期間にわたる

周到な準備と献身的な奉仕ならびに関係諸団体のご協力のたまものであります。

よって本大会は、ホストクラブである大阪北ロータリークラブの会員、ご家族および関係者の皆様ならびに関係諸団体の各位に対し、深甚なる謝意を表すことを決議します。

大会決議案採択

ガバナー 近藤 雅臣

ただいま小西豊和委員長代理から大会決議案が上程されました。

ただいまの大会決議案について裁決をお願いしたいと思います。ご承認いただきましたならば拍手をお願いいたします。

(拍手)

それでは、大会決議案を採択することにいたします。ありがとうございました。

登録委員会報告



登録委員長
丸山 雅祥

登録委員会からご報告いたします。本大会の登録数は、ご来賓23名、そのご家族12名、第2660地区会員は本年度86ロータリークラブのご協力により全員登録をいただき、4,797名、その家族70名、その他青少年交換、財団受入奨学生、ローテックス、ロータリー財団国際親善奨学生、財団学友、米山奨学生、ローターアクト、インターアクト、ライラ、GSEを含めまして105名、それに地区外からも6名のご登録をいただき、総勢5,013名でございます。また、家族プログラムのユニバーサル・スタジオ・ジャパンのチケット販売枚数は3日間で7,651枚でございます。

このような多数の方々のご登録、ご参加をいただきましてまことにありがとうございました。心よりお礼を申し上げまして、ご報告とさせていただきます。どうもありがとうございました。

信任状委員会報告



信任状委員長
中川 章三

信任状委員会の中川でございます。当委員会は、大阪城南ロータリークラブの光信昌明さん、大阪阪南ロータリークラブの小山隆三さん、豊中ロータリークラブの森山貞信さんと、大阪南ロータリークラブの海堀寅一さん、それに委員長の私の5名で構成されております。

昨日、27日に、地区内86ロータリークラブから提出されました201名の選挙人の信任状証明書を審査いたしました。その結果、選挙人全員が国際ロータリーの細則第15条第5節に照らして、いずれも適格であることを確認いたしました。なお、この選挙人名簿は戸田孝選挙委員長に既にお渡ししてあります。以上でございます。

選挙委員会報告



選挙委員長
戸田 孝

選挙委員会の戸田でございます。ただいま信任状委員会の報告を受けまして、選挙委員会からの報告を申し上げます。国際ロータリー第2660地区、2002～2003年度ガバナーノミニー候補者につきまして、『ガバナー月信』の7・8合併号によりまして、ガバナーノミニー推薦の依頼を掲載いたしました。しかし、その期限であります9月末までに、いずれのクラブからも推薦を得られなかったでございます。これを受けまして、国際ロータリー細則第13号、13の020の1にガバナー指名委員会という項がありますが、その規定に基づきまして、昨年の10月から何回も指名委員会を開催してまいりましたが、現在のところ、選出するに至っていないのであります。

今後とも適任者を選出することに努めまして、その結果を各ロータリークラブの会長宛に通知したいと存じております。このガバナー選出にあたりまして、各ロータリークラブからの積極的なガバナー候補の選出をお願い申し上げたいわけでございます。ガバナーを出すということはクラブの活性化につながるわけですから、皆様のご協力もお願いいたしまして、選挙委員会からの報告といたします。どうもありがとうございました。

RI会長代理講評



RI会長代理 蔡 熙秉

皆さま、2日にわたるロータリアンの祭典、地区大会がいよいよ大成功裏に幕を閉じようとしています。素晴らしい、心に残る大会でした。近藤ガバナーの卓越した指導力のもとに、古市大会委員長、ホストクラブの皆さんのご協力によって立派に遂行されたことを皆さんとともに喜び申し上げます。

地区大会は、一年中で最も重要な集まりであり、ロータリアンが一堂に集まって親睦と友情を深める絶好の機会であります。また、国際ロータリークラブとの全般的事項に関するいろいろなプログラムを通して奉仕する動機を与えるフェスティバルでもあります。本当に充実した楽しい大会でした。皆さまの疲れがすっかりなくなるような面白いものもありました。また、会長、幹事、地区委員会においての報告の内容は本当に充実したものでありました。きょう現在としてどれぐらいの登録人数があるか、あるいは準備関係、場内秩序はいかになっているか、プログラムの内容はどうなっているか、いろいろ考えることができますが、この大会の登録数は5,121名という最高の登録の数でした。私はいままで何回も日本に会長代理として来ましたが、いちばんたくさんの登録の地区と考えています。

第1日、第2日と、近年にない充実した楽しい大会だと思います。プログラム編成も絶妙であるという感じが

受けました。また、きめ細かくいろいろと気を配られ、まさに水の流れるごとくスムーズに進行され、バランスのよく取れた大会でありました。わが国のロータリアンたちにも見せてやりたい模範的な大会でございました。私のRI会長代理の任務としての報告としては、この大会はどの部分につきましても、エクセレントという点を付ける以外は他に申し上げようもございません。

私はこの地区大会を通して、皆さまと一緒に貴重な経験とロータリーの知識を分かちあうことができ、本当に嬉しく存じております。有能な、そして立派なロータリアンは、正確な知識と情報が糧です。一人のロータリアンの知識は、必ずしも正確ではありません。よいロータリアン、最高のロータリアンは博識の人です。正確な知識と情報は会員脱退を防止し、新しい会員を入会させる機会になるとともに、高度な奉仕の夢を実現することだと確信しています。

私が一つ提案したいことは、この地区大会が楽しい実りある大会になるために、奥さんたちがもっと仲良く、多数、参席される地区大会であることを期待いたします。恐れ入りますが、参席された奥さんの皆さま方、起立していただきましょうか。何名おられますでしょうか。どうぞ皆さん、熱い拍手をお願いします。(拍手)

私は2日前、大阪にさる3月29日にオープンされましたユニバーサル・スタジオ・ジャパンに行って、非常に華やかで立派なハリウッドの姿を見ました。そのスリル、スペクタクルなものを初めて感じました。私の4名の孫にもたくさんのおみやげを買ってきました。一生、忘れることのできないUSJの見学でありました。したがって、来る2004年の大阪国際大会は、立派に素晴らしい大会で盛大に行えることと確信しております。2004年の国際大会には、韓国からも大勢連れてくることを皆さんに約束するつもりです。

最後になりますが、私たち2人にあまりにも親切にしてくださいました近藤ガバナーご夫妻、吉川エイドご夫妻、ご苦勞なされました古市大会委員長にはいろいろとお世話になりました。また、地区幹事、昨日、今日の両日にわたっての司会者も相当ご苦勞なさいました。その他、多数のロータリアンの皆さま、そしてご家族の皆さま、私にとっては生涯、忘れることのできない実に立派な大会でございました。この感激を抱いて帰ります。どうもありがとうございました。(拍手)

G S E 他特別参加者紹介

近藤（ガバナー） 今年度の決議文の中にも書かせていただきましたけれども、私どもロータリアンはこのような素晴らしい若人と共にあります。この若人たちとの横の連携を新しくつくり上げ、私たちロータリーと直接、手を組んで、次世代の皆さん方を私たちがどれだけ応援できるかということを本年度以後やっていただければありがたいと思っております。これだけの若人が集まっているのを見ていただきましたら、若い人たちへの関心をもっていただけるだろうと思います。と言いますのは、ローターアクトその他、いろいろな若人の集まりがございすけれども、単に提唱クラブとか、あるいはその他の提唱クラブの中のいろいろな奉仕の委員会とか、そういうものだけに任せているのではないのでしょうか。そういうことで、皆さん方にわざわざ集まっていたきまして、アピールしようと思った次第でございます。

最初に申し上げておきますが、これだけの素晴らしい、21世紀を担う若人、私たちロータリアンの後継者として何とか彼らにロータリーに対しての気持ちをもっていただきたいものと思います。そのためには、私たちロータリアンみずからが素晴らしいロータリアンとなって、彼らに尊敬されるべき人物になる努力をしなくてはならないのではないのでしょうか。そしてもう1つ、彼らにとって魅力のあるロータリーのクラブづくりをやっていかななくてはならないのではないかという思いでいっぱいでございます。どうか、その点をご理解いただきまして、若い人たちとの親しいつきあいを、始めていただければありがたいと思って、彼らに壇上に立っていただくことにしました。

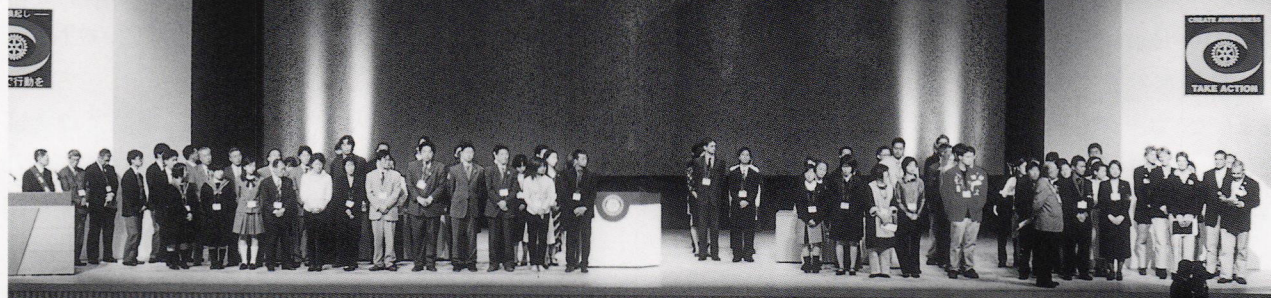
それではご紹介いたします。最初に、昨年がちょうどオランダとの修好400年ということで、おいでいただきましたGSEのオランダチームの団長さん、ヘンク・ウェンベルゲンさんです。一言お願いします。

ヘンク（オランダGSEチーム団長） 国際ロータリー第2660地区ガバナー近藤雅臣様、第2660地区役員の皆様、そして地区大会に御参加の皆様、第1560地区より参りましたオランダGSEチームは、色々な人達の歓迎を受けな

がら5週間以上の間、大阪に滞在させて頂きました。皆様も我々の体験にご興味があることでしょうか、その最終報告をさせて頂きたいと思えます。最終報告と言いますと、簡単に聞こえるかもしれませんが、ひとつの答えを出すというのは非常に難しいものです。我々は、皆様方にはとても特別な春の時期に招かれました。いわゆる桜の季節です。最初は、この桜の季節が皆様にとってどう特別なのか、我々には見当もつきませんでした。貴地区で色々経験するにつれ次第に解ってまいりました。それは新しい季節の始まり、新しい人生のスタート、そして田植えをはじめる季節であり、人々にもう一度幸福をもたらす時期なのだと思います。我々は、大阪に到着した最初の週に市庁を訪問し大阪市長にお目にかかることができました。そのとき私は、「日本人は幸運を願っておみくじを買い、お寺へ足を運び、健康を願って温泉につかる人達ですね」という、これまでの日本に対する印象を市長に申し上げました。しかし、今ではもっとよく日本を理解しているつもりです。我々は、皆様方の生活の大切な一部を担っている日本の伝統文化、高度なテクノロジー文化、そして人々の温かさに触れることができました。また、ホストファミリーの皆様の厚いおもてなし、GSE委員会の皆様のロータリー活動に対する確固たる信念と姿勢、毎日の新しい発見、そして忘れてはならないのが、我々が大阪に来た大きな理由の一つである職業研修、すべて心から楽しませて頂きました。

話は変わりますが、我々の食文化とは大きく異なる日本の食べ物についてですが、大変おいしく、チーム皆が日本食ファンとなりました。また、そのおかげで帰国した際に家族や友人にうまい箸の使い方を見せびらかせるほどになりました。

私自身、今回このチームを率いることができて大変幸せに感じております。私は毎日のように、色々なことに熱中し、夢中にもなりました。皆様の寛容なお心のおかげではありますが、今まで何の問題もなく無事にプログラムが運んで、とてもうれしく思っております。我々オランダ人は、新しいものを受け入れることが大好きで



す。その国民性が、色々な状況に対処できる大きな要因だと考えております。私自身と我々にとりまして、今回の来日体験はまさに桜、新しい始まりでした。おかげで、我々は自分達の人生にたくさんの知識と情報を身につけることができました。この経験は生涯にわたって役立つことだと確信しております。中国長と5人の若い男女からなる今年度の日本GSEチームも、我々のオランダで少なくとも同じくらいの収穫があることを願っております。本日、国際ロータリー第2660地区は最盛期にあります。ここにお二人のお名前を挙げ、私より感謝の意を捧げたいと思います。まずは、GSE委員長である野村浩司様、そして同じくGSEコーディネーターの松岡茂雄様です。また、他のGSE委員会メンバーと、今回のGSE活動に関わってくださった全ての皆様方、近藤ガバナー、そして会員の方々、本当に有難うございました。先日、我々が大阪ロータリークラブを訪問した際に、会合で卓話を耳にする機会がありました。ロシア語の教授による卓話で、現在の若者たちの新しい生き方についてのお話でした。教授はそのお話の中で、「若い男女はもっと自分の生まれを誇りに思うべきだ」と説いておられました。皆様方の伝統文化は、いつでも人生の大切な一部であり、そこが起点となって更なる発展に向かって伸びていくのだと思います。もちろん、日本経済がここ最近良くないことは承知しております。しかし、それでも日本は現在世界で第二番目の経済大国です。そのうちに、また良き日々は戻ってくると思います。それどころか、これからの日本の将来は、より多くの機会と新しい挑戦に恵まれていくでしょう。これはロータリーにとっても同様のことだと考えます。最後に近藤ガバナーへ、私よりチームを代表いたしまして、今度は日本語でお礼を申し上げます。「1560地区のGSEはとても楽しくすごすことができ、あたにかいかなげいを、うれしくおもいます。ありがとうございます」

近藤 それでは続きまして、ローテックスの伊藤みのり

さんですね。

伊藤(2001年度ROTEX会長) ただいまご紹介いただきました、本年度ローテックス会長の伊藤みのりです。ローテックスとは、ロータリー青少年交換プログラムで1年間外国へ派遣され、プログラムを終了し帰国した学生の集まりです。私たちローテックスは、青少年交換でロータリーにお世話になった恩返し的一端として、地区青少年交換委員会のお手伝いをしたり、毎月、例会を行い、スポーツ大会、クリスマスパーティ、歴史探訪、日本文化体験などの企画や実行するための話し合いをしています。また、年に2回、会報を発刊し、インターネットのホームページでも情報の発信をしています。今年は、来日学生による日本語でのスピーチコンテストを6月2日、大阪国際会議場の7階で午後1時30分から行いますので、本日、ご来場の皆さんの多数のご参加をお待ちしています。

私たちは、ローテックス活動を通じて人間形成のために切磋琢磨し、他地区のローテックスや地区内の諸団体との連携を保ちながら、新世代のリーダーとなれるよう努力いたしておりますので、ロータリーの皆さまのご指導、ご支援のほどをよろしくお願い申し上げます。

近藤 どうもありがとうございます。さっきから見ていると、後ろに隠れていますが、GSEの日本の本多智佳さん。

本多(第2660地区GSE団員) 昨年度、イギリスへ派遣していただきましたGSEのメンバーの本多と申します。GSEは、現地に赴きまして、職業研修ということで現地のvocational visitをさせていただくと同時に、ロータリーの方との国際親善を行っております。たいへん勉強になりまして、現在の仕事にも活かしております。皆さまのご理解とご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

近藤 ありがとうございます。次は、青少年交換、外国から日本へ来ている方です。

エリック(長期青少年交換来日学生) 近藤ガバナーさま、ボードの皆さまたち、ロータリーの皆さん、こんにちは。

僕はEric Romerilと申します。カナダから来ました。僕たちは日本ではすごく楽しかったし、いろんなことができました。ロータリーの皆さまからたくさん教えてもらいました。ありがとうございました。学校ではすごく楽しい。友達もすごく教えてくれます。早く勉強できました。ちょっとだけ日本語ができるようになりました。皆さん、聞いてくれてありがとうございました。おおきに!

近藤 おおきに。それでは米山学友会会長の陳麗華さんです。

陳(米山学友会会長) ご紹介にあずかりました米山学友会の会長をしております陳麗華でございます。いつもお世話になっております。ご承知のように米山学友会は、米山奨学財団から奨学金をいただいて修了された学友の集まりです。今までは主に学友内の先輩と後輩の交流とか、小さい輪に力を入れて交流してまいりましたけれども、21世紀は近藤ガバナーのおっしゃるように、この輪が大きくなって行って単に米山学友会の中だけではなくGSEとかローターアクト、いわゆる新世代の若い力をお借りしてこの輪を大きくしていただきたいと思います。今後ともよろしく願いいたします。

近藤 ありがとうございました。後ろが米山奨学生ですね。八尾RCの、トンガでしたか。トッポウさんですね。

トッポウ(米山奨学生・八尾) 2年目の米山奨学生のTupou Siaosi Koheletiと申します。トンガから6年前に日本に来て、いま近畿大学の4年生です。去年から皆さまのお蔭で米山奨学生になりました。米山奨学生を代表して、この場を借りてお礼を申し上げたいと思います。どうもありがとうございます。

近藤 ありがとう。今度は、青少年交換の日本側の学生さんたち。武市さん。

武市(青少年交換学生 大阪鶴見) 今年の派遣候補生の武市真依です。ベルギーに派遣させていただく予定です。

近藤 頑張ってきてください。次は、財団の学友委員会会長の山下さん。

山下(財団学友 会長) ただいまご紹介にあずかりました財団学友委員会、皆さんは、PSCという名前でご存じの方もいらっしゃると思いますが、その会長をしております山下大悟と申します。PSCの組織について説明させていただきますと、財団学友委員会のもとで、国際親善奨学生として留学したOB、OGで結成している団

体でございます。第1期生は1957年、そして、2000年度までに399名を数えております。

われわれは所帯が大きいものでして、電話では大変ですからいまはよりの電子メールを使って連絡しております。そのメール数は、本日の朝、残念ながら2,660を超してしましまして2,667通です。このメール交換は始まりまして4年目でございます。4で割りますと、ほとんど毎日のように皆さんから問い合わせのメールがあります。最近でも、海外に留学している学生からも現況報告がありまして、「いつでも力になりますので、何か困ったことがあればどんどんメールをください」と、向こうでもフォローしています。

活動内容は、国際親善奨学生委員会より推薦された候補者の20名弱の皆さんに対してオリエンテーションに呼んでいただき、その席でタイムリーにface to faceで質問を受け付けて、年に数回しかありませんので、先ほど申し上げた電子メールを毎日のように使って、他地区からも問い合わせが何件かまいっております、どこにしようが誰にでもすぐ即答できる体制を築いております。

しかし、その半面、ネットワーク社会の弱点ですが、どうしてもコンタクトが希薄になっているところがありまして、PSCの組織内、中身の充実が今期の課題ではなかろうかと思えます。会員数、399名おりますが、個々人、会員それぞれが、自分が、ロータリーの活動に対して何をお返しできるか、奉仕できるかを、現在、奨学生には言っております。ギブ・アンド・テイクです。ギブなくしてはテイクもありえない。奨学生の場合は、まずテイクがあります。それが奨学金です。しかし、帰ってきたら、あなたたちの体験したことをギブしなければいけないということを、私が会長になってからも毎回、申し上げています。ここに奨学生の候補者がいるので、「聞き飽きた」という顔をしておりますが、自分が今、何ができるのだろうかというのを問い、財団学友の会員の皆さんを指導中でございます。以上でございます。

近藤 どうもありがとうございました。国際親善奨学生ということで、後ろの方が今度、日本から行かれる方ですか、何か一言ありますか。

牧野(国際親善奨学生・茨木西) 今年の秋から奨学金をいただいてオランダのライデン大学に行くことになっています牧野直史と申します。よろしくお願いします。

現在、国際法を研究していきまして、その関係でオランダに行くことを考えています。オランダへは研究のために行くだけではなくて、親善奨学生ということでこの地区とオランダの地区との交流のために力になればと思っています。幸い、今日はオランダの方が来ていらっしゃるようなので、早速、今日から頑張りたいと思います。よろしくお願いします。

近藤 頑張ってください。

それでは、時間が迫ってまいりましたが、次はローターアクトです。ローターアクトは紺谷君ですね、地区代表です。

紺谷 (ローターアクト 地区代表) ロータリークラブの皆さん、こんにちは。ただいまご紹介にあずかりました国際ロータリー第2660地区ローターアクト代表をしております紺谷公二と申します。よろしくお願いします。後ろに並んでおりますのがローターアクトクラブのメンバーです。現在ロータリークラブに提唱を受けまして、地区内24クラブで会員数約450名の中で活動しております。

日頃は、指導力の開発、専門知識の開発、社会奉仕活動、国際奉仕活動などを通じまして、能力と指導力の開発に努めております。これからの社会を担っていくべき責任ある立場を認識して今後とも精いっぱい活動を推進していく所存でございます。ロータリークラブの皆さんにご迷惑をおかけしていることも多々ありますけれども、精いっぱい頑張っていきますので、今後ともどうぞよろしくお願いします。本日はどうもありがとうございました。

近藤 どうもありがとうございました。

続いては、ライラですか。どなたか、一言ありますか。

片岡 (大阪府青少年活動財団) ライラというのは主にキャンプを行っておりますが、青少年のリーダーシップ養成を目的としており、私も初級、上級と受けさせていただきました。5月のゴールデンウィークに春のキャンプがありまして、お手伝いをさせていただきます。ロータリアンの皆さま方をお手本にして、未来へ躍進していきたいと思っておりますので、ご協力どうぞよろしくお願いします。

近藤 ありがとうございます。あと、インターアクトはいちばん若いグループでございまして、顧問の先生方、日ごろからどうもありがとうございます。先生から。

金崎 (金光八尾高等学校 顧問教師) 失礼いたします。ただいまご紹介にあずかりましたインターアクトクラブ、そして私は今年度幹事校をしております金光八尾高

校の顧問、金崎桂悟でございます。インターアクトクラブと申しますのは、国際理解と奉仕という2つをテーマにいたしまして、若者を育成していくという学校活動におけるクラブの一環でございます。ロータリークラブのバックアップのもと、活動しております。現在、2660地区のインターアクトクラブは、私ども金光八尾高校をはじめとして壇上に上がっていただいております浪速高校、清風学園高校、明浄学院高校、四天王寺学園高校、大谷高校、大阪教育大平野高校の計8校が、ともに協力しあいながら活動しております。

奉仕という面に関しましては、各校独自に、たとえば地域の清掃活動をしたり、もしくは老人ホーム養護施設の慰問をしたりしております。

国際理解に関しましては、毎年、夏期に、ロータリークラブのご支援のもと海外研修を行っております。1993年度からは、特にアジア諸国に目を向けようということで、東南アジア、特に発展の著しいシンガポール、タイ、マレーシアという国々に研修に行かせていただいております。今後も決して目立つ活動とは言えないと思いますが、できるボランティアを目指しまして、努力していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

石山 (金光八尾高等学校 会長) 金光八尾高校会長の石山夏樹です。今年度は6月3日にユニバーサル・スタジオ・ジャパンで行われる新入生歓迎会や、8月に台湾へ訪れる海外研修などの行事があります。今年度もロータリーの皆さん、ご協力のほどよろしくお願いします。

近藤 ありがとうございます。コメントがあるんですか。

野村 (大阪そねざき) 飛び入りで恐縮ですが、私は当2660地区のGSE研究グループ交換委員会の委員長をしております。今日はローターアクトの皆さん方をお迎えだということで、来年、アメリカとGSEの交換をいたします。5月に当地区から出発する予定ですが、皆さま方から英語のできる方で4週間お休みが取れる人はぜひ応募してください。お待ちしております。よろしくお願いします。

近藤 ありがとうございます。この様に素晴らしい若人が私たちの後についてきて……くれるかな？ 子供は親の背中を見て育つと言いますが、私たち素晴らしい背中をつくるように頑張ろうではありませんか。ありがとうございます。

次年度ホストクラブ会長挨拶



次年度ホストクラブ会長
川島 康生 (大阪)

次年度地区大会ホストクラブ会長として一言、ご挨拶を申し上げます。本日、やむを得ない事情によりまして、私どもクラブからのガバナーエレクトであります寺田エレクトが出席できませんことをまことに申し訳なく残念に存じます。そして、本大会が古市大会委員長のもとに、かくも立派な大会が開かれましたことに、心からなる敬意を表したいと存じます。

ついでながら、昨日と本日の両日は、72年前にわが国で初めての地区大会が開かれた記念すべき日であります。その日に21世紀、最初の2660地区の大会が開かれましたことはまことに意義あることと思っております。私どもも来年度は文箭会長エレクトを中心にいたしまして、寺田ガバナーエレクトを支援してサポートしていきたいものと考えておりますが、この大会につきましても、今年と同じ場所で今年に負けないような立派な会を開催させていただきたいと考えております。

昨日の会議で、近藤ガバナーから模範的な大会を開いてくれと、いささかお手並み拝見という感じのお言葉をいただきましたが、私たちも今回、提出されましたいろいろな問題点、いろいろなど意見を取り入れまして、ご期待に添えるような会を開催させていただきたいと考えております。どうか、今回にも増して多数の皆さん方がご参会くださいますことをお願い申し上げまして、簡単ながら次年度ホストクラブ会長としてのご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

閉会挨拶



大会副委員長
鴻池 一季

「21世紀 日本のアイデンティティー」と題しまして、シンポジウムを開催し、そして日本人の心のふるさとの曲の数々を関西二期会の皆さん方の合唱により、皆さまにお聞きいただきました。

さて、ロータリアンの皆さま方、国際ロータリー第2660地区、2000～2001年度地区大会の閉会にあたり、一言ご挨拶を述べさせていただきます。まず、昨日より2日間にわたり開催されました地区大会に蔡熙秉国際ロータリー会長代理、令夫人洪喜子ご夫妻のご臨席のもと、海外を含む各地区のガバナー、パストガバナー、ガバナーノミニーのご出席を得、地区内外の多くのロータリアンにご参加をいただき、熱心にご討議をいただきましたこととお礼申し上げます。

本大会は、当地区における21世紀最初の地区大会であり、政治、経済、そして社会環境が目まぐるしく変動する新世紀の初頭において、ロータリーの原点に立ち返り、ロータリー活動のあり方についていかにあるべきか、どのように意識を喚起し、どのように進んで行動すればよいのか、そしてまた日本と日本人のアイデンティティーについて共に考えるよい機会であったと思います。

地区大会のホストを務めさせていただくのは大阪北ロータリークラブにとり9年ぶりであり、実行委員会では近藤ガバナーのご指導を得ながら古市大会委員長のもと、21世紀最初の地区大会をロータリーの大会らしい手作りの温かい、そして参加して意義のある大会にするべく準備を進めてまいりました。幸い、皆さまのご協力により諸事、滞りなく進行し、なおかつ蔡熙秉国際ロータリー会長代理よりも高いご評価をいただき、有意義な地区大会となりましたこととお礼申し上げます。

おわりに、ご来会の皆さま方のさらなるご発展をお祈りし、閉会の言葉にさせていただきます。どうもありがとうございました。

記念シンポジウム

テーマ 「21世紀 日本のアイデンティティー」



日本は、十分豊かになってしまっ、何も考えないでふわふわしている…。

大宅 どうも皆さん、こんにちは。大宅映子でございます。今日はすごい論客を揃えまして、「21世紀 日本のアイデンティティー」ということでシンポジウムを始めます。戦争に負けてからの日本は驚異の経済発展を遂げて、「ジャパン・アズ・ナンバーワン」と言っていたのはついこの間でしたが、ありとあらゆる変なことが日本に起きまして、すっかり自信がなくなってしまっています。いまでは、世界で一人負けということになっているわけです。

小泉さんが改革をやってくれそうかなと、希望の陽がちょっと見え出したところですけれども、アイデンティティーということが日本人にとってはいちばん不得意なん

出席者 (敬称略)

コーディネーター

大宅 映子(評論家)

パネリスト

イーデス・ハンソン(タレント)

呉 善花(作家)

金 美齢(評論家・JET日本語学校専務理事)

だと思うんです。つまり、的確な日本語訳がまだないんです。同一視するとか、自己確認とか言ってもまだはつきりしない。そういうところから日本および日本人のアイデンティティーが見つからないというところにあるのかもしれないと思います。

欧米に追いつけ、追い越せというのはアイデンティティーではないわけです。相対的なものであって、何かがあってそこにいく。追いついてしまった後の日本のゆく

えがわからない。どういう目標にしていいいかもわからない。十分、豊かになってしまったので、何にも考えなくても、とりあえず食っていけるという中で日本がふわふわしている状況なんだと思います。

なぜか、21世紀の主演は女性だそうだけれども、どうもそうとも思わないんです。別に女性、男性ではなくて個人だというふうに思っていますけど、そういう考えの方もおありになるということで、今回は女ばかり集まりました。実は私は女だけというのはあんまり好きじゃないんですけど、まあ、いいでしょうと。女、男関係なく、この方たちでしたらこのテーマにふさわしいと思いましたのでお引き受けをいたしました。

お三方はご出身の国がそれぞれ違うわけですが、お一方ずつ10分ぐらいでいまの日本が置かれている状態、なんで日本がこうなっちゃって、日本の何がおかしいのだろうか。日本人の意識とか行動は何を基準に動いているのかわからないとか、でも、そんなことを言うけれども、日本はこういうところがいいじゃないのとか、いろいろもっていらっしゃる方がおありだと思います。いままでもしょっちゅうそれを聞かれているだろうと思いますから、金さんから、10分ぐらいお話しいただきたいと思います。

日本は、常に自分の見本とする国を外に求めてきた。

金 皆さん、こんにちは。今日は実に面白いキャスティングだと思っています。パネリストの3人とも外国人なんですね。全員女性ということだけではなくて、このシンポジウムのパネリストが3人とも女性だということと外国人だということ、これは何か象徴的な出来事かなという気がします。

まず第一に、私自身、アイデンティティーという言葉にはかなり早くから向き合わざるを得ないような人生でした。つまり、私は日本に住んでいる外国人です。と同時に、私は台湾出身ですけれども、台湾においても自分が中国人なのか、台湾人なのかということを常に問われているような社会環境。もちろん、私ははっきり自分のアイデンティティーは台湾で、私は台湾人と常に答えておりますけれども。そして、日本にはもう42年、住んでおります。日本が大好きです。いろんな国に行きましたけれど

も、日常生活を送るのにたいへん快適なのは日本だと思っています。ですから、日本に42年も住んでおります。日本に42年もいて、普通の台湾の出身の人でしたら、とうに日本国籍を取っているところですけども、私はいまでも台湾人です。

しかし、私は日本も大好き、台湾も大好き。だから2つの祖国を持っていると思っています。だけど、なぜ日本の国籍を取らないのかといいますが、台湾がまだ難(うざ)しい状態にある、苦難の歴史の中にあるという状況なので、私自身としては苦難にある台湾を捨てて日本人になることはできない。そういう意味でアイデンティティーという問題をずっと考え続けてきた人間です。

いまここに座っている3人、皆さんはお気づきではないかもしれませんが、非常に面白い特徴があるんです。まず第一に、この4人の中では私が一番の年長者です。しかし、私がメディアの世界に登場したのは一番最後です。いちばん遅れてメディアに出てきた人間です。皆さんがよくご存じのイーデス・ハンソンさんは、大阪に長くいらして大阪弁を話す、とても魅力的なアメリカ人です。ハンソンさんはかなり早い時期からメディアの世界で活躍しておりました。

そして、私よりも数年も早く本を出して、東京で働いている韓国人の女性についての『スカートの風』という本を出してメディアに注目された呉善花さんは韓国の出身。そして、最後に台湾の出身である私がメディアに登場することになりました。59歳になって、この年で初めてまた新しい世界に出たという、ある意味では59歳の新人というとても面白い体験をしたわけです。

この順序を考えるということは、つまり日本人がいまこの21世紀になって、ロータリークラブの方々が「21世紀における日本人のアイデンティティーとはなんぞや」という大きなテーマを抱えて、今日ここに皆さんお集まりいただいているわけですが、実は、過去、数十年において、日本人は常に「山の彼方の空遠く 幸いすむと人のいう」という思いをずっと持っていたような気がします。

つまり、この3人の登場した順に日本人の目は向いていたんです。常に外国に目が向いていた。戦後間もなくは、もちろんアメリカです。続けてヨーロッパであったり、ハンソンさんはインドが長いのですけれども、ある時期はインドに理想郷を求めていた。時にはソ連であった



り、そしてアジアという近い朝鮮半島、それから中国。最後の最後まで台湾には目がいきませんでした。台湾が日本のメディアで話題になるのはつい最近のことです。私の登場がいちばん遅れたのもそういう日本の、特に日本の一般的な、またはメディアの目がどこに向いているのかということの順序だったような気がします。

戦後、憧れの地はもちろんアメリカでした。それから日本が範を求める国が転々と変わりました。あっちへいったり、こっちへいったり、先ほど言いましたように、時にはソ連であったり、インドであったり、スイスであったり、そして中国であったり。文化大革命華やかなりしころ、大変に中国を礼讃した学者が大勢いました。そして、日本は常に自分の見本とする国を外に求めてきたんです。外に。そのとき日本人は「自分たちのアイデンティティーはなんぞや」ということを全然、考えてなかったような気がします。

アメリカに追いつけ、追い越せ、ヨーロッパに追いつけ、追い越せ、インドは素晴らしい、ソ連は素晴らしい、中国は素晴らしい。そういうような、ある意味では実に無責任な言論がメディアを支配していた時期が長かったような気がします。ここにきて、日本はいやが応でも自分の足元を見ざるを得ない。

幸いに世紀が変わりました。もちろん、21世紀と言いましても20世紀の続きで、昨日の次が今日という、ただ日にちが1日ずつ変わっていくだけのことだという人もいます。何も変わらないじゃないかという人もいます。しかし、私はそうは思いません。人間はやっぱり、きりのいいところが好きなんです。毎年、お正月になると、今年は何をしよう、今年こそは何をしようと。私もかつて学生だ

ったころ、学年が改まるたびに、「今年こそは何しよう」といつも思ったものです。それが持続するかどうかは別として、やっぱり区切りのいいところで人が何か思い新たにきちっと覚悟して新しく出発するのは、とてもいいことだと思います。それがあるのが暦のいいところだと思っています。

日本人のすばらしい倫理観、メンタリティを基盤にして、何が足りないか考えて…。

金 そこで、いま日本人は自分たちの足元を見るということに気がつきました。青い鳥というのはどこにあるわけではない。すぐ自分の近くにあるんだということ。そして、私が日本に永住を決めたように、日本というのは日常生活の送りやすい、実に快適な国だと思っています。少なくともいろんな国との比較の上でとても暮らしやすい国だと思っています。最近、少々いろんなことが揺らいできました。問題が起こりました。でも、ここでもう一度、再出発、21世紀の日本はいかにあるべきかということをもみんなが真剣に考えて、日本がいままでよって立ってきた素晴らしい日本人の倫理観、メンタリティ、そういうものを思い起こして、それを基盤にして、さらに21世紀のグローバルな世界では日本人にとって何が足りないのかということをしっかり考えて前向きに生きていくとすれば、私はとても有意義なことだと思います。

少なくとも、今日、ロータリークラブが大きな命題を抱えてこれだけの人を集めてシンポジウムをやるということに大いに意義を感じるものでございます。(拍手)

大宅 ありがとうございます。日本人って、ほとんどアイデンティティーということを考えずにすんだというか、考えないほうが楽に生きられる社会だという気がするんです。何かやろうとすると、必ず「外国では」ですよ。外国ではこうやっています。外国は外国で、日本は日本なんだけれどといつも思いますけれど、制度改革でも何でもそうなんです。いまのシンポジウムもそうです。外国人で女性だから聞こうじゃないのと話をしても、きょうもそうなんですけど、それは悪いとは言いませんけれど。じゃあ自分たちは何なのということを考えないといけないのに、ずっとそれをしないできたというところがあると思います。

それではイーデス・ハンソンさん、インドとアメリカと日

本と3つありますから、その中から。

いろんな感覚、いろんな価値観から、 新しい日本人の形が生まれる…。

● ハンソン アイデンティティーという言葉は最近まで日本では聞いたことがなかったんです。あんまり言われないうですよね。初めはアメリカの話かなと思ったんです。アメリカはそれを言って悩むのがまた好きなんですね。色々ごちゃまぜだから、その中で自分の位置はどこへんにあるのかというところで、ああでもないこうでもないという習慣というか、あるいは趣味が、昔からあるんですけど、日本ではそういう悩みを聞いたことがなかったんです。

私自身は、アイデンティティーというのはあんまり考えたことはない。考えると結論が出ないということもあるんです。つまり、親はアメリカ人だけど、父はスウェーデンの二世になるわけですね。だけど、インドに30何年いて、私の兄弟のほとんどはインド生まれだし、私自身はアメリカに暮らしたのは12～13年ぐらいです。日本に来て、金さんが42年で、私が41年よね。日本の暮しがいちばん長いいし、私の生活の場という感覚があるけど、とても日本人だとは自分で思わないし、かといってアメリカ人とも思わないし、もち論インド人とも思わない。何人とも思わないといかんという必要性も感じない。「まあ、ええやん、私はこの個人です」というふうに、そこに自分で自分のアイデンティティーがあるといえはそのへんに落ち着いているんです。

人から見て「あんた何人？」とよく聞かれるわけ。「何人か？」と聞かれて、こういう事情で私もよくわからないという話をするんですけど、逆に「あんたのアイデンティティーは？」と聞くと、日本人はみな「自分は日本人やもん」となるわけよね。ごちゃまぜじゃないんですね、いままでは。確かに、いろんな国の人が来ているんですけど、あれは来て帰る人たち。この国の住民としては意識されていない。この国の住民＝国民＝日本人という、分けて考えるという習慣はあまりないんですね。

「41年もいたら日本人になる気はない？」と聞かれることもあるんですけど、そういう意味の日本人だったら、なり得ないわけですよ。戸籍を持つ、日本パスポートを持つ、日本国民には帰化すればなれるけれ

ども、日本人から見て国民になったからといって、日本人に見えるというところは、どうしたってこの顔ですから無理。

日本人のとらえ方は、全部ひっくるめて日本人。民族的日本人と心の文化的日本人と、法律的、たとえば帰化して日本国民になったという日本人といろんなタイプがあるんだけど、そういう多角的な認識がないんです。日本人と言えば、見るからに日本人じゃないと本物じゃないみたいな感じです。血が日本人。顔立ちが日本人。身のこなし方が日本人。文化的な部分は価値観も、こういうときには日本人なら笑うとか、こういうときは泣くとか、そういう文化的な精神的な、生まれてから周りから身につく諸々のものを含めてね。

場合によっては、民族的日本人と文化的、精神的日本人を分けられるんです。体は日本人だけれども、感覚はブラジル人とかアメリカ人とか。三世、四世になってくると、見るからに日本人だけど日本語がしゃべれないし、日本の食べ物や生ものはだめだとか、日本人だけれども身につけた習慣は全然別の国、別の世界のもののだという人はたくさんいるんだけど、そういう認識はあまりないんですね。全部、条件がそろっていないと本物じゃない。帰化した人だったら余計そうですね。

日本人に見えないし、しゃべるとちょっと訛があるとか、文化的な部分はかなり日本人と異なる部分もある。そういう感覚がある以上は、全部揃っていないと本物ではないとなってくると、それ自体がアイデンティティーの意識ですよ。意識しないアイデンティティー。日本人ってこうやねん。ずっとそれで来ているのに、なんでこのへんで日本人のアイデンティティーみたいなことを言い出すのかというと、それがちょっと崩れてきているからだと思います。

見るからに日本人じゃない日本人もこのごろいるわけですね。耳や鼻にいっぱい穴開けて、1～2cmぐらいは髪は黒いけど、その上は金髪だとか。昔の日本人が、死んでもしない格好をする。ガングロとか、目のこのへんに白いのを付けるとか、高下駄はあったけど、靴の底の厚いのは日本人のやることじゃないみたいな。そういう人たちが物すごく出てきて目立つようになってきて、そういうのはあんまり日本人として認められていないような言い方が多い。「あれでも日本人かしら」みたいな言葉も聞くし、新人類とも言うわけです。見るからに昔



からの日本人のイメージから言うと、新人類に見えるけれども、その新人類の両親はどちらも生粋の日本人ですね。だから、それもやっぱり日本人ですよ。

外国の人は、とにかく日本の国民やったら日本人だと考える。ああいう格好をしている人たちでも日本人というふうに見るんだけど、日本人同士はそういうふうに見ないという不安定な状態になってきている部分があるから、アイデンティティーがどうのこうのと言い出したのかしら。

だけど面白いことに、見た感じが周りとはすごく違う若者でも、あれは自分なりの仲間意識、アイデンティティーというものがあるんですね。日本の中で似たような感覚の子たちと群がるのがいちばん安心だし、強くなれる。だから、この人たち、この仲間とはアイデンティティーが一緒だから、ああいう格好も日本の中でもできるようになってきたと思うんです。だけどそういう極端な人たちばかりじゃなくて、野球のイチローも昔の日本人の感じとは違うんだけど、あれも日本人だし、少しずついろんな違うタイプの日本人、アイデンティティーはこうだと言い切れないようなのが出てきて、それはすごくいいことだと思います。みんな一緒というところでは楽は楽。それで何か決めていくのはすごく簡単でいいかもしれないけど、悪いほうに行きかけたときにブレーキをかける人がいないという状態なんです。

いろんな感覚、いろんな価値観がこれから出てきて、それがうまくまとまって、もっと大きな力になって、これからの日本人の新しい形になる。古い部分も新しい部分も一緒になって、それが前より大きな力となる状態を期待しています。とりあえず。(拍手)

大宅 いつものハンソンさんらしい、面白い理論展開でした。

最後になりましたけど、呉さん、お願いします。

日本人は“他力本願型”。

呉 私は来日して17年となっております。しかし、27歳になって来日しておりますので、既に考え方の基本、言葉の根本は完成されてから外国語として勉強しておりますので、理屈として日本のことはわかっているつもりでおりますけど、なかなか体についていけないところがたくさんあります。

その1つとして、韓国人が日本語を勉強するときにはちばん難しい発音、濁音ができません。意識すればできるかもしれませんが、たぐ音になったり濁音になったりしてしまいます。これは口で言えないだけではなくて耳で聞くこともできませんので、日本人が言うことを書き写そうとしたとき、いまでも点々があるのかないのかいつも困っていますから「点々がありますか」と聞いていますので、「点々病患者だ」と言われています。(笑)その点ちょっとお聞き苦しいかと思いますが、ご理解いただければと思います。

私を含めて多くの韓国人が日本に来て、日本を理解していくプロセスは、人によって多少の差はあるにしても大体、同じプロセスを踏んでいきます。まず1年目は、とってもいい印象を持ちます。というのは、韓国で戦後、強い反日教育を受けた世代の人にとっては、「日本人イコール野蛮人」と思っていたんですが、日本に来てみると日本人はとても親切でやさしいし、町並みはきれいですし治安はいいということなどでとてもいい印象を受けるようになるんです。

人間関係にしても、1年目のように表向きのつきあいをしていけばいい時期、段階では、いい印象をもつようになりますが、問題は2～3年ぐらいになってもう一步、踏み込んで日本人との人間関係を持とうとしていったときに、どうもほんとうのところがよくわからないということになっていきます。かつて「日本人イコール野蛮人」と思っていたことが、やはり日本人は人間じゃないということにまでなっていくんです。これも程度の問題はあるにしても、大体2～3年で落ち込んでいきます。私などは極端に落ち込みました。人間がこれほどおかしく



なっていくかと思えた時期でもあるんです。

それを何とか乗り越えて、3年越えて5年以上、日本にいる人は今度はだんだん日本が好きになっていきます。これは1年目に、何となく日本はいいなと言っていた本質がだんだん見えてくるからなんです。

私も2～3年の時期に日本人の理解に苦しみながらも、何となく日本に惹かれていったんです。日本を離れることができないすごい魅力を感じながらも、日本人が嫌いという矛盾に陥ったりしました。しかし、なんでこんな魅力のある国になるんだろうかということで、徹底的に日本人を知ってみようじゃないかと思ったのが、3年が過ぎて5年ぐらいたってからなんです。

そうしたときにいろいろ見えてくるものがあつたんです。それまでも文化の違い、習慣の違いはたくさん感じていました。たとえばご飯の食べ方にしても、日本人と韓国人は同じ顔の色をした人たちなのに、行儀の悪い食べ方をしています。日本人は茶碗を手を持って食べるんですが、韓国ではこれは最も行儀の悪い食べ方なんです。そのようなことなどがあるにしても、目に見える習慣の違いはそれほど大きな問題ではないです。これは、時間がたてば何とか乗り越えていくことができるんですが、問題は1年が過ぎて2～3年目の人間関係なんです。中身としての問題がそこで出てくるんです。つまり精神的な問題なんです。

そこでいろんなずれが生じてくるんですが、考え方の問題、価値観の違いなどが大きくなっていくんです。これが日本人と密着して深いつきあいになればなるほど最も高くなっていきます。それは何なのかということで、いろいろ分けて考えたりしました。今日はたくさんお話し

することができませんが、その中で1つのポイントをお話したいと思います。

日本人は「お蔭さまで」という言い方をよくするんです。「お蔭さまで」ということをただ口で言うだけではなくて、実際、社会生活の中で「お蔭さまで私はこういう仕事かできています」という気持ちがそこに込められています。たとえば会社の社長が社員を集めて挨拶をするときに、「皆さんのお蔭でこんな会社になりました」と言ったときに、そのお蔭さまでというのは社員のお蔭さまなのか、取引先のお客さんなのか、あるいは神様なのか、これがよくわからないんです。これは何なのかと言いますと、まさしく他力本願、他者の力を得てこそその自分、という姿勢で人と接するということだと思うんです。

韓国の社長でしたらこのような言い方をします。「私はかつてこのような苦勞を乗り越えて、こんな大きな会社をつくりあげました。そして皆さんの協力によって、このような大きな会社になりましたから、これから私も頑張りますので、皆さんもよろしく」という言い方になります。あくまでも私の力でこうなったということになるんです。これが1つのポイントです。

価値観の問題で、物を見るときに、人間関係でも、どの人がいい人なのか悪い人なのかという区別をするとき、あるいは物を見たときにAとBがあったときに、品があるのかないのか、きれいなのかきれいじゃないのかという判断基準。もちろん個人差は別で、あくまでも一般的なものとして韓国人と日本人の見方がまったく違ってくるわけなんです。そうになっていったときに、善と惡のあり方すら違ってきますから、これは深刻に悩んでいきます。

そこで美意識のあり方をお話したいと思います。日本人はまさに生き方そのものが美意識だと思うんです。つまり、どのような生き方が正しいかというよりは、どのような生き方のほうが美しいかというところにより重点を置くのが日本人だと思うんです。そういう意味で、美しさの基準となるものは、たとえば日本の「わび」とか「さび」があります。このようなことを言いますと、日本人は「私たちだって知らない」と言われるんですが、そんなことはありません。若い人でもこのセンスはちゃんと身についています。この「わびた美」というようなセンスが、多くの韓国人をはじめとする外国人にはなかなかわからないところなんです。

韓国人による理想的な美意識のあり方はどんなもの

かと言いますと、まず派手な色彩、ピカピカ輝いて満月のように均一に整った成形美を好むのが韓国人なんです。これは一般の多くの国がそうだと思います。アジアにも大体、共通しているものだと思います。つまり、左右対称的で、幾何学的で、人工的なもの、自然からいかに離れるかということが理想的な美意識なんです。

しかし、日本人とつきあっていると、どうもそれだけではわからないということになっていきます。たとえば、お花を見ようとしたときに、お花といえど何といっても満開の花こそが一番美しい花ではないかと思うんですが、日本人と話をしていると、「満開の花だけが美しいものじゃないですよ。蕾の花も美しいですね」と。それはわかりますけれども、「しおれて落ちる花にも風情があるんですよ」と。(笑)これはわからない、信じられない。そんなしおれて落ちる花に何の風情があるんですかと。その感覚は一部の知識人によるものじゃなくて、一般の庶民が全部もっている感覚、感性なんですね。一体、この人たちは何なのかなと思ったわけなんです。

もう1つ、お月さまを見たときです。韓国にも旧暦の8月15日、まん丸いお月さまを愛でる行事があるんです。どこから見ても完璧で隙間がない。この美しいものを見ようという月見があるんですが、日本人もそれは美しいものなんです、それだけではないです。ちょっとかけたお月さまにより風情を感じます。そして、言葉にも十三夜という言葉がありますし、十六夜という言葉もあるわけなんです。信じられないね。「いくら考えてもまん丸いのが美しいに決まっているでしょう」と。(笑)「いや、そうではないですよ、これが」。

それをいろんなところに当てはめて見ますと、韓国語には「八方美人」という言葉があります。日本にもあります。韓国では、相手をほめるときによく使います。これはどこから見ても美人だということです。これは男性にも女性にも使っているんです。そして、これを言われたらどんな人でもみんな嬉しいんです。それをあてはめて、私は日本人に向かって「いやあ、八方美人ですね」とほめていましたらものすごく怒られました。日本では浮気ものなんだそうです。

このように、どうしても左右非対称的にいきたくってしまうのが日本人なんです。韓国人などは、ついつい真っ直ぐ、まん丸く隙間のない成形美のところいきたり、立体感ではないものになっていきますし、色彩として

もいかに華やかにしていくのかということが理想なんです。日本の場合は、鈍色にしずんだ美、枯れた美、歪形の美、地肌の美などに風情を感じてしまうのが日本人なんです。

日本人特有の美意識や和の精神は、自然に対する受け身思想からきている。

呉 もう1つ例を加えますと、来日したばかりのころ、日本人によく言われたんです。「韓国に行きますと、焼肉とキムチはおいしいけど、あの茶碗と食器を何とかしてくれないか」と。どういうことかと言えば、韓国ではステンレスの食器を使うんです。お椀もステンレスの食器なんです。これは磨かなくてもピカピカ輝くものなんです。顔まで見えて美しくて品があるものだとずっと思っていたんですが、日本人は品がないから何とかしてくれないかと言われるんです。

それで、「日本人にとって品のあるものはどんなものですか」と言ってみせてくれたものに受けたショックをいまでも鮮明に覚えています。いまから思えば備前焼か信楽焼かと思うんですが、お茶碗でしたがどす黒くて分厚くてくねっと曲がっているわけなんです。(笑)信じられない。こんなものが品があるって。人間の品があるかないかはどんな国の人でも同じじゃないかと。そして、私の目にはいくら見ても犬の茶碗のようにしか見えません。(笑)これを韓国人に見せたら、やはり犬の茶碗にしか見えないうんです。日本人に見せると、若い人から年配の方まで、自分の趣味は別にして、「品のあるいいものだ」と言われたので、本当にわからないなと思ったんです。

そのようなことなどがたくさんありまして、同じ人間なのになんでこんなに感覚が違うんだろうかと思って、最近になって日本人の感覚をつくる根本にあるものは何なのかと考えるようになりました。これは、まさしく自然に対する絶対的な受け身志向が働いているんです。つまり、いかにして自然な形に戻ろうかということと、いかにして自然な色に戻っていくかと。つまり、どす黒い色は土色に近いものなんです。形がくねっと曲がったり分厚いものは非常に自然的なものなんです。

かつて縄文時代は、技術が足りないからそのようにしたかもしれませんが、いまは高度な技術をもって、いか

にそれを曲げるかということも一つの技術となっていくわけなんです。まさしく、これが日本の自然環境なんです。山あり谷あり海ありという環境の中で日本人が古くから生き続けてきているわけです。こんなことを言いますと、「韓国だって同じでしょう」と言われるんですけど、韓国も非常に似たような自然環境ですが、韓国は強大な文明国である中国大陆にくっついているために、常に大陸の影響を受けながら、圧倒され続けながら自然的な根本にあるものが文明化・近代化とともに薄れていったわけです。

しかし、日本の場合は島であるということと、半島から離れていたことなどが言えると思いますが、そのような自然環境の中に、外から海をへて上手に入ってきますから、文化・文明などをうまく、吸収しながら日本的な自然観や美意識も生き続けてこれたんじゃないかと思っています。そして、圧倒されることなく吸収、融合していったのがまさしく日本なんです。日本人は極めて対立を嫌って融合しようとする性格だと言われるんですが、まさしくそのような自然環境から生まれたものだと思います。日本の自然はやわらかで、そこにどんな強いものが入ってきてても全部、受けとめてしまう、融合してしまおうとする力が極めて強い。

日本は技術の大先端国となっているんですが、これはただ機能的なテクニックとしての技術とは言えないと思います。自然に極めて敏感です。季節に極めて敏感です。食べ物から、何から季節によってのバラエティーに富んでいます。そのような自然に対する敏感さが物をつくるときに力を発揮して、日本を技術大国につくりあげたということが言えると思います。

また、日本は極めて和を重んじる国民だと言われるんですが、その和を重んじる和の根本にあるものは、まさしく自然を受け入れて調和していこうという働きが和になったと思います。それが発展して集団主義、集団主義と言いますと非常に悪いイメージになりますが、集団のあり方なんです。日本人は2〜3人が集まると、何か物が生まれてしまいます。それは私は日本で生活しながら感じられます。日本では人が集まれば何かの成果になります。韓国では人が集まると喧嘩にしかないですね。(笑)

そのようなことが全然、韓国と違うので、このような結果として日本は戦後、1億総中間層社会をつくり上げた

ということなんです。かつて、社会主義国家が高い理想を掲げて平等な社会をつくり上げようとしたのに全部、失敗に終わりました。しかし、日本人は何となく働いていたらいつの間にかみんな平等な社会になってしまった。これはいくら誇っても誇り過ぎではないと思います。中間層が広いということは、まず治安がいい国になっていきます。いま日本ほど治安のいい国は世界のどこにもありません。日本はアメリカ、アメリカと言っていますが、アメリカの場合は経済上の数字はよかったかもしれませんが、非常に貧富の差が激しくなって治安が非常に悪い国になっています。このことは一体何なのかということを考えていくべきですし、日本的な和をより活かせる方向を探っていくことが大事ではないかなと考えております。(拍手)

日本人は「自分は何人としてどう生きるか」考えたことがない。

大宅 呉さん、なかなか面白かった。皆さんもたぶん備前焼や萩焼が犬のお椀だと言われたら、「そんな!」と思われると思うんですけど、私たちもステンレスの食器を見ると刑務所の食器かなと思うんです。なんか違和感があるんです。スプーンで食べるでしょう。カチカチ音がするとかね。顔はそっくりなのにもかかわらず対局にあるんですよ。韓国はものすごい個人主義だし、日本は今おっしゃったように集団主義だしということもあります。金さんもイーデス・ハンソンさんも異論がおりだと思うんですが、いかがですか。言葉のことがありましたが、金さんは英語の専門家家けど日本語を教えてらっしゃったでしょう。外国人が日本に来た場合に、言葉というのは文化の最たるものでしょう。そういう言葉がないということもあると思うんです。最初は発音できないというお話で入ったけれども、何かそういうことでお感じになることはありますか。

金 韓国語は実は日本語の文法とよく似ています。発音が難しいところがあるんですけども、文法的には非常によく似ているので韓国の学生が日本語を勉強するときには、どこの日本語学校でもそうなんですけれども、韓国の学生が一番成績がいいんです。ただ、最近、韓国は漢字をやらなくなっていますので、漢字を取り戻すというか、漢字を勉強するのが現在では苦勞のようです。

日本語が持っている最大の特徴は、3種類の文字があるということなんです。象形文字である漢字があることと、表音文字の平仮名とカタカナの2種類があるということ。これが日本語を非常に奥行き深いものにしてると同時に、新しいものを吸収するのに他の国よりもうんとたやすくしている。これがカタカナなんです。ただ、外国人にとって、漢字を勉強するのもしようがないと。平仮名も覚悟してやりましょうと。でも、カタカナが出てくると非常に大変だということと、外国人がいちばん苦労するのは外来語なんですよ、なぜか。「外来語は英語だと思うからわからないのであって、日本語だと思いなさい」とアドバイスしているんです。

ただ、日本語のもっている3種類の文字は、実は日本語を非常に豊かにしている。そしてまた新しい技術を輸入する、受け入れるのに非常に便利だということを、生まれ育って、その中で生きている日本人は気がつかないんじゃないかと思います。でも外から来た人にとっては3種類もやらなくてはいけないということは難しいんです。

いま呉さんから美意識の違いみたいな話が出ましたが、私は日本人ではない同じアジアの人間ですね。でも、私は三日月は非常に美しいと思いますし、私の家から御苑の桜が見えるんですけれども、いちばん素晴らしい眺めは少しずつ色づき始めた桜の木なんです。一本の木を眺めているわけではなくて、上から眺めておりますので、フワッと非常に穏やかに少しずつ色が変わってくる。霞がかかったような色合いがついてくるんです。その色合いが少しずつ濃くなって行って、ピンクの度合いを増やしていく。そして、ある日、咲き始めると。

私は、桜が咲き始めるとそわそわし始めるんです。つれあいに言わせると、「ああ、また病気が始まった」と言うんですけれども、上から色がついてくるものを眺めていると、これだけ素晴らしい眺めを自分で独占しているのは勿体ないな。一人でも多くの人に見せたいなという気分になっていくんですけれども、花見の日を決めるのがたいへん難しくてね。私は、満開になった桜は、後はもう衰えていくばかりだと。最高に美しいのは八分咲きだという気がしています。

素晴らしい眺めを楽しむということは、外国人とか日本人だという前に、たぶん年齢的なものもあるのではない

かなという気がするんです。先ほど大宅さんと話をしていて、大宅さんが「緑がこんなに美しいものだということは、若いころは気がつかなかったな」とおっしゃったんです。この素晴らしい、美しいものを愛でるという日本人のメンタリティーは素晴らしいものだと思います。

ただし、きょうのタイトルであるアイデンティティーというのは、また少々、問題が違ような気がするんです。アイデンティティーというのは、台湾語で「リントン」と言うんです。「認同」という漢字を書きます。自分が何人であるのか、どういうふうに生きるのか、そしてどこで運命を共にしたいのかという意識のことをアイデンティティーだと思っています。

先ほどハンソンさんが精神的なものだとか、形であるとかおっしゃいましたけれども、私はアイデンティティーは明らかに自分の選択の問題であって、精神的なものだと思っています。先ほど申し上げましたように、私は台湾がまだ苦難の歴史にあるから台湾人であるということをやめるわけにはいかない。常に難しいほうを選択しないといけないと自分に言い聞かせておりますので、自分のアイデンティティーは台湾人ですけれども、日本に生まれて日本に育った私たちの子供2人は、そういう枷がないんです。そういう精神的な枷がありません。ただ、私たちの子供であるがゆえに、日本では出生地主義ではなくて血縁主義ですので、あの子たちは自分たちが自立するまで親と同じステータス、つまり台湾人どころかパスポートも持たない、何人でもないような中途半端な年月を、生まれてから23歳、24歳まで過ごしました。

私たちが日本の国籍を取らない限り、あの子たちは日本の国籍が取れないというのが日本の法律なんです。ただ、あの人たちのメンタリティーは明らかに日本なんです。日本に生まれて日本に育って、そして日本語しかできないという状態の中で、私は意識して台湾語も中国語も教えませんでした。なぜならば、あの子たちは日本で生きていくという姿が私にはくっきり見えていましたので、言葉も母語である日本語を完璧にできるようにするのが私たちの役割だと思っておりました。

ただ、私たちのもとにいる間は、あの人たちは自分の意思がどうであれ法律的には違う国籍を取ることはできません。両親と同じでなくてはならない。就職して税金を払って完全に自立して、年子の2人ですので、上の子が下の子が税金を払うまで待って、2人で一緒に日本

の国籍を申請しました。私は、常日ごろから、あの2人に「あなた方は何人として生きていきたいのかということ」を自分で考えて、自分で選択しなさい。親が何人であるということに惑わされる必要はない。あなたたちが自由に自分の意思で決めなさい」とずっと言い聞かせてきましたので、2人が就職して税金を払ってきちっと自立ができるようになりましてから、2人で手続きをとって日本人になりました。

つまり、国籍と自分たちのアイデンティティーを一致させたわけです。あの2人には、まず日本人としてのアイデンティティーがありました。それから手続きをして日本の国籍を取って、国籍もアイデンティティーも同一ということになったわけです。つまり、あの2人は、「自分の母語は日本語であり、日本で生活して日本人として生きていきたい。この日本という国と運命を共にしていきたい。そして、できることならばささやかでも日本の役にたきたい」と思って選択した国籍です。これが本当の意味でのアイデンティティーの確立だと思っています。

出生が何であれ、血縁が何であれ、どういう姿、形をしていようが、自分の意思で自分の生きる姿、自分は何人として生きたい、どの文化のどの伝統のどういう国の中で、しっかり一人の個人として、その中でささやかな貢献もし、時には「日本は私である。私は日本である」と言い切れる人間、これがはっきりとした日本人としてのアイデンティティーをもった人間だと思っています。

グローバル化の中で 「自分の軸足をどこにおくか」 もう逃げは許されない。

● ————— ●
金 いままで日本人は、そういう選択を迫られたことがないと思っています。つまり、日本に生まれて日本に育って、そういう問題を突きつけられたことがない。「あなたは一体、何人として生きていきたいんですか」というようなことを聞かれたためしがない。突きつけられたことがない。そういう意味では幸せだったんだと思います。つまり、日々の生活に問題がなく、先ほど私が言いましたように、日常生活に何ら差し障りがないという状態の中で、突き詰めてそういう問題を考える必要がないということは、ある意味では幸せです。だから、今日まで、日本はずるずるとやってきたわけです。

ところが、グローバルな世の中になってきて、グローバルな世界の中で、日本がどういう姿勢で世界の各国とつきあっていかななくてはならないかという問題をいやが応でも考えざるを得ない日が来ました。国際化と言われ、グローバルと言われ、ボーダレスと言われている今日、日本はいやが応でも自分のよって立つところはどこかということを考えざるを得なくなったんです。つまり、個人であろうが団体であろうが役所であろうが国であろうが、自分の軸足をどこに置くべきかということを考えざるを得ないということになったんです。

日本はいままで曖昧に物事を糊塗してきました。今回の李登輝さんの来日においても、いろんな問題が起きました。ちゃんとした主権を持った国であるにもかかわらず、外国の雑音に悩まされて、本来は日本という国が発給する絶対的な権利を持っているビザの発給を散々、渋りました。それは、ある意味では日本という国が主体的な国というアイデンティティーをきっちり持っていないということにもつながります。右往左往してあっちを見、こっちを見、アジアの国々の思惑はどうなのか、アメリカの思惑はどうなのか、他の国の思惑はどうなのか。いろいろ悩みに悩んで、あの単純なビザの申請が大ごとになってメディアを騒がすあれだけの新聞報道があったわけです。

李登輝さんに対するビザの発行はもう4回も5回も拒否されてきたんです。しかし、今日ここへ来て、一般の人たちが「おかしいんじゃないか」という声をあげるようになった。つまり、日本という国はどうあるべきか。日本の国益はなんぞや。このグローバルな世界の中で日本はどうあるべきだということを日本人はいままで考えてもこなかった、考えずにずっとすんできた。ところが、そうやってあの大切な問題から逃げてきたばかりに、日本のいまの地位は非常に揺らいでおります。そこで初めて一般の人々が、それこそ「日本のアイデンティティーとはなんぞや、日本の国益とはなんぞや、日本が国際社会の中へ出て行くときには何を足がかりにするべきなのか」ということを真剣に考え始めたのが21世紀なんです。

今回の李登輝さんのビザの発給問題に関しても、それから小泉さんが予想に反して首相になったのも、これは民意の勝利だと思っています。実は私はだいぶ前から小泉さんを推薦しておりました。3月30日のサンケイ新聞をお読みになった方ならば、「私は、あえて小泉純一

郎を推薦する」という文章を書いたのをお読みになった方もいらっしゃると思います。サンケイ新聞が8人の人に8名の候補者を推薦させた連載記事です。最初は私は2番目に文章が出るはずだったんです。最初が誰だったかわかりません。でも急遽、私の締切が1日早くなりまして、「私は、あえて小泉純一郎を推薦する」という文章を書きました。

でも、そのときもまだ小泉さんが総裁に推挙されるとはほんとに思っていませんでした。この人を推薦するとは思っていたけれども当選するとは思っていなかったんです。そのあと4月10日に、名古屋のJC、青年会議所の広報誌に4月からコラムを書いておりますけれども、そのコラムにも「4月10日現在、橋本龍太郎が優勢だと言われているけれども、私の意中の人は小泉純一郎で、一度は首相をやらせたい人だ」と書いて原稿を出したんです。それが4月10日です。まだまだ目は橋本さんにあったんですね。

ところが数日たって、あっという間に形勢が変わったんです。それはやはり民意のなすところだったと思っております。日本はこれではいけない。日本人はもう少しきちっと自分のあるべき姿を考えなくてはいけない。日本人のアイデンティティーとはなんぞやということをしっかりと考えなくてはいけないということがじわじわと地下水の如く行き渡った。

この会合はかなり前から決まっておりました。何ヵ月も前から決まっておりました。このタイトルも随分、前から決まっておりました。ですから、ロータリークラブは先見の明があったと思います。

「沈黙は金なり」ではなくて、 発信することが大切。

● 金 さらに、ここで皆さんにお礼を申し上げたいことが1つあるんです。私のつれあいはドクターコースに在学中、ずっと米山奨学金をもらっておりました。彼は非常によく勉強する人間で、まず台湾大学を出て、日本に国費留学生として来ました。修士課程を終えて国費留学生の期間は終わりました。理工科の学生ですからアルバイトは絶対できないような非常にハードな時間の連続です。米山奨学金をいただいたお蔭で無事に学位を取ることもできて、その後、東京理科大学に奉職すること

もできました。これは、ひとえに国費の奨学金とその後続いた米山奨学金のお蔭です。

日本には、たとえばロータリークラブの奉仕という精神に基づいて黙々と奉仕をしている人がたくさんいます。米山奨学金というのは素晴らしい奨学金なんです。日本一の奨学金、言うならば世界一の奨学金なんです。だけど日本の社会ではあまり知られておりません、残念なことですけれども。ロータリークラブが米山奨学金を発給していて、どれだけの留学生がその恩恵にあずかっているかということを知らない人がいっぱいいます。これは日本人の奥ゆかしいところでもあるし、恐らくロータリークラブは自己宣伝することは、それこそ美意識に反すると思っていられるのかもしれませんが、でも、これからは発信をする世紀です。

21世紀というのはグローバルな世の中、言葉が大いに役割を果たす世紀なんです。日本人に欠けているのは、つまり日本人がかつて持っていた美德の数々は実に素晴らしいものです。大切にしてください。宝物です。これを見失うことによって、日本は崩壊しかかっていきます。もう一度それを取り戻してください。そして、それに則って、さらに日本人に足りないものは何なのか。「男は黙ってサッポロビール」じゃないんです。(笑)「沈黙は金なり」でもないんです。グローバルな世界においては、発信することがとっても大切なことなんです。言葉が、ある意味では今度の民意の勝利を招き寄せました。発信をしなくてははいけません。そして発信する技術、能力、交渉力、自己主張。もちろん滅多やたらと自己主張すると嫌われます。いつ、いかなる時に適切な自己主張をするべきなのか。そのためにはどういう言葉を駆使しなくてはいけないのか。そして、しっかりとした交渉力を身に付けていく訓練はどうすべきなのか。これが今後、21世紀、これから世界の先進国として国際社会で活躍するために、日本人に課せられている問題点だと思っております。(拍手)

「なあなあ」「あうんの呼吸」「以心伝心」 は通用しない。

● 大宅 金さんに伺いたいと思っていたことを全部言っていたいただきました。本当に自分で選択したか与えられたかというのは大きな違いなんですよ。憲法にしろ婦人



参政権にしろ、いろんな政策決定が、われわれ国民一人ひとりのまとめで決断されてきていないわけです。お上が全部決めてきた。それがいま全部われわれのところに弾が飛んできているのが状況だと思うんですけど、それを私たちは選択しないから自己責任も取らないと。このほうが楽なんですもの。東大法学部を出た人が並べたのを、「わしらに任せない」と言われているから、そうかなと。あの人たちもその力がなくなっているわけですから、こちらに決断を任せますよ、情報公開もみんなそういう話で流れがきているわけです。ところが、考えて自分で選択することをやってきていない。だから、つまりアイデンティティーもないというのがいまの状況だろうと思っています。ハンソンさん、いまの金さんの大演説に。

ハンソン 言わなきゃいけないということですよ。言わないでもわかってもらえるという状態でずっとやってきているわけです。

大宅 特に日本の旦那さんはそうですね。「そんなことは言わなくてもわかるだろう」みたいなね。あれがダメですね。

ハンソン そうそう。うちのは違うけど。(笑)でも、ちゃんと言うという必要性をあまり感じてこなかったと思うんですよ。

大宅 言わないほうがいいんだもの。言うとか叩かれる。

ハンソン だって、みんな仲間だと思うから、仲間である以上は、私が日本人としてこう思うんだったらあの日本人も同じ感覚に違いないという、そういうなあなあの状態。

金 あうんの呼吸というの。

大宅 以心伝心ね。

ハンソン そうなんですよ。だから、逆に言うのが格好悪い。よく聞きますよね、「いちいち言わなきゃいけないようじゃだめだよ、あいつは」みたいなことを言うのね。なんでだめなのかなと思うんですよ。それは仲間だから、同じ感覚をもっているという思い込みがあるからそういう認識がない。「とろいんですよ、彼は」ということになるわけですよ。だから、わからないほうが悪いとされてしまう。

私の考えだと、言わないでわかってもらおうなんて、これほど贅沢なものはないと思うんですよ。言わなきゃわかりませんよ。わかる部分もあるけど、それはずっと一緒に暮らしていてという状況もあるんですけど、社会全体がそれで成り立つとなったら怖いですよ。言わなくてもみんな同じことをするというのはもっと不気味よ。

仲間以外にキチンと説明する技術も必要。

大宅 怖いですよ。

ハンソン いまは、さっき言ったように、日本人は完璧にこういう範囲内のものだと言えなくなったし、いろんな感覚、いろんな時代を生きてきた人が一緒にいるわけです。昔のことを知らない子たちがいるし、それなりに発言権はあるし、お金もあるわけです。言っただけで“打てば響く”ということは約束されてないんですね。打っているんだけど、打ちっ放しで何も返ってこないということも、これからもっと増えると思うんです。

同じ経験をしていない人たちに、その経験から生まれた感覚、発言はそのままわかるわけないんです。戦争に関係したことのない若い子には、戦争の状態はこうだったんですよと言っても、肌でわかるとか感じるというのは無理な話ですね。逆に、若い人たちがいま感じている不安とかそういうものもなかなか年上の人たちにもわかってもらえない。「何が不安やねん。将来は約束されているし、食べることに困るわけでもないし、お金はいっぱいあるし、贅沢よ、いまの若い子たち」。贅沢かもしれないけれども、なかなか思うようにいろんなことができないという、制限されている部分が物すごくあるように感じるわけですね。

「私たちの若い時と比べたらまったく自由じゃないの」というけれども、違う制限を受けているわけです。いろんな怖いものがあるんです。環境がどんどん悪くなると

いう心配もある。年とった人たちは一切、考えてこなかったんだけど、若い人たちにはそういう心配もあるし、「温暖化はどうなるの」「水位が上がったら海岸の町はどうなるの」とか、考えなきゃいけないところが全然違ってきている。違うのに、「日本人だからわかるはずや」とくるわけですね。説明する必要がないと。でも、説明する必要はある。いま特にその必要が出てきていると思うんです。

日本人という仲間の中でも、年がちょっとでも違っていたら感覚が大きくずれる世の中になってきているわけだから、説明しないと「何でこんなことをした」「何でこんなことを心配しているのか」というのはわからないんですね。説明する習慣があまりないから、日本人同士でしないし、外に対しても説明しない。これがいちばん困るんですね。自民党の派閥で争って、自民党の中のお互いの目しか意識していない。外国から見て、「日本のこれからはどうなるの。あの人たちはどう考えているの」と心配しているんだけど、「実は、私たちはこういう政策をもって、こうしようとしているんだ。だからアメリカは心配しないで、台湾は心配しないで」と一切、言わないんです。

自分の仲間の範囲内のことしか見えていないし、それ以外のことだったらどうでもいい。仲間の意識の強いのは、大きな力となる場合もあるんだけど、他のものを見えなくするものでもあるんですね。このへんの仲間意識を捨ててしまってくださいというわけじゃない。ただ、いい部分もあるんだけど、それのみで世の中が転がっていくんだという感覚はもう変えたほうがいいと思うんです。外に対して筋道を立てた説明が必要です。

いまの李登輝さんの話は全くそうなんですね。中国がぎゃあぎゃあ「そんなのは認めてはだめです」みたいなことを言うけど、逆に中国に対してそういうことを言ったらどう言われるかという、「内政干渉だ。それはこっちの問題だ。こっちの都合で決めます」と言われるはず。なんで日本はそこでそう言わなかったのか。「人道的な立場からビザを出します」と言えばいいわけ。これは李登輝さんだけじゃなくて、他の国の誰に対しても同じように、「これはこの国の姿勢です」と、なんでそのとき言わへんかったと、うちでよう言ってたわ。(笑)テレビに向かってわあわあ言ってる、これは年とった証拠だけだね。(笑)このごろはよくテレビに向かっていろんなことを言

う。

仲間意識というのを考え直してほしいと思うんです。仲間を大事にするということはいいいんだけど、仲間のみを大事にするというふうにならないように。仲間以外の人たちによって私たちは生かされているし、どうしたってつき合わないとかやっていけないということは基本的な話なんですね。説明する必要がある。キチンと説明する技術を身につけなきゃいけないんです。してこなかったから方法がわからない。頭からストンと言って、「言ったら従え」というのは、これは説明でも何でもありません。なぜこうしなきゃいけないのか、なぜこう生きていったほうがいいのかという、「なぜなのか」という問いかけは会社でも必要だし、自分の家庭の中でも必要だし、学校でもどこでもこれは大事なことだと思う。もう説明せずにわかってもらうという世の中ではなくなっています。そのつもりでいったら、21世紀どころじゃない19世紀に止まったままという感じになってしまうと思うんです。勿体ないよ。日本人は頭いいのに。(笑)

大宅 日本人って、よく言えばやさしいわけですよ。だから相手と喧嘩になりそうなことは避けよう、対立するのはよろしくない。わかったら事前に根回しをして対立しないようにするという術でずっとやってきたわけですよ。

ハンソン それはよくわかるんだけど、対立しかないとそこで思うわけよ。

大宅 そうそう対立があるのは前提でやればいいいわけ。

ハンソン 対立にならない感じで物を言うという技術もあるんですよ、世の中に。

大宅 技術なんですね。本当にそうなんです。それこそ財政再建と回復じゃないけれども、やささとちゃんと相手を説得する言語技術は両立するはずなんです。ところが、自己主張という、「アメリカみたいなギスギスした社会にしたいのか」と必ずこうなるわけです。日本のいいところは残した上で、世界がそういうシステムで動いているんなら言いたいことはちゃんとと言いましょと、当たり前なことだと思うんですけどね。

ハンソン アメリカはどちらかと言えば、説明する技術はまだあるんですよ。みんな感覚がばらばらやからね。説明しないと、場合によっては誤解があって喧嘩になって危ないということもあり得るわけです。日本は、まずそれができないから大丈夫と思っているんだけど、向こうは信

用がないから説明するんじゃなくて誤解のないように、お互いに喧嘩にならないための説明、そういう技術はすごく大事ですね。

まず自分のこと、 日本と日本人のことを知らなければ…。

大宅 呉さん、どうですか。

呉 私は地域性を大切にしない国際化、グローバル化というのはもうだめだと思います。これを同時にやっていかなければならないと思います。いまはグローバル化の時代だから、「大きな流れについていかなければ、日本は取り残されてしまうよ」という言い方が、いま圧倒的に多いんですが、本当にそれでいいのかどうかということなんですね。もちろん、その流れでいくことはとても大事なんですけど、まずその地域性を大切にすること、しっかりともっと強くもっていかなければならない。そして、外国人に向かって、これが日本ですよということを体系的に説明していくことが大事かと思っています。とにかく外国人に自己主張しなさい、説明しなさいといくら言われても、日本人はそんなみっともないことはできないと思います。

もし、その線でいきますと、アメリカ人とディベートして勝つ日本人はほとんどいないと思います。アメリカ人は生まれてからディベートのために生きているというか、自己主張してきた歴史をもって生きてきていますが、日本人の場合は言わなくてもいいというところで生きてきたので、それが本当に悪いのかということだと思います。ただ、これが日本ですよということを説明してあげるために、日本の特徴は何、どこにあるのかということをもっと日本人が知らなければならぬ。知ることより体系的にそれを考えていかなきゃならない時期だと思っています。

先ほど金さんからアイデンティティーの問題は外れていると言われているんですが、ここに最も大事なポイントがあると思います。日本がわかるようでわからないと思っているところを、外国人がずっとわかることができれば入りやすいかと思えます。そういう意味で、先ほどの私の美意識のお花の話を受けて、金さんは「私はちょっと霞んだものと八分がいいね」と言われて、ああ、なるほどと思いました。金さんも日本的な感覚、感性をもっ

ていらっしゃるなど。私も17年もいれば、それがいいなと思うようになるんですね。

それは何なのかということを考えてんですが、たとえば蕾の花がいいということとか、しおれて落ちる花がいいということは、常に揺れ動くことが好きなんです。完成されたときに日本人はいちばんいらいます。先ほど、茶碗の話をしましたが、韓国人は完璧になったときに一番やすらぎを感じるものなんです。どこから見てもすきのないものにやすらぎを感じるんですが、日本人はどこかでずらしたくなっていくわけなんです。それは何かと言いますと、完成されてなくて常に未来を感じるものなんです。このヒントを得たときに、日本人の考え方、すべての日本人の文化の根本が見えたような気がしました。それからまわりの日本人と話をしても怖くなくなっていったんです。個人差は別にして、どんな日本人と話をしても大体、通じるようになっていったということです。

揺れ動くもの、つまり止まらない文化が日本の文化の特徴だということがわかりました。そうしますと、日本の文化のあり方を見ますと、日本の神道など物すごく古臭い自然信仰であるかのようなものが、文化の中央に生きていますでしょうか？その他にも日本の文化のあり方は、他の国の文化のあり方と全然違うものがたくさんあるんです。それは縄文時代からと言ってもいいぐらい古いもので、いま延々と生きているものがたくさんあるわけなんです。

そこで、完成されたときにどれほどいらいらするかということを具体的に言いますと、日本の学校でとても不思議に思ったのは、なぜかみんな100点を取りたくないと言われるんです。成績も全体で1番になるのがいちばん不安なんだそうです。2番ぐらいがちょうどいいと。90点ぐらいがちょうどいいということなんです。これらも理解できなくて困っていたんですが、それも大体、理解できるようになったんです。なぜかと言いますと、100点を取ってしまったら1番になってしまったらしますと、後は落ちるしかないということなんです。

先ほど、金さんもそのようなことを言われたんですが、どこかで揺れ動く。蕾は明日を期待できるわけですが、でも、何でしおれて落ちる花に未来を感じるかと言いますと、来年に春になりますと再び咲いてくるからという気持ちがあるからなんです。それは日本人がどこかで隙間をつくって相手を受け入れようという感覚が常に働こう

とすると。

これは一体、何なのかということ、いまの日本を大きく3つに分けてわかりやすく考えているところです。3つの世界があると考えております。その1つは、欧米化された日本。これも今の日本なんです。そして農耕アジア的な日本。これも今の日本なんです。そしてもう1つ、それこそ自然と一体化して生きていた、日本で言えば縄文時代までさかのぼった時代の感覚、感性が強生き残った日本。この3つの世界が対等に混在しているのが今の日本だと思うんです。

普通、この3つ目の世界は、近代化とともに薄れて負けていくはずなんです、日本人の中ではそれが負けるどころか、対等にみんなミックスされているために、外国から日本に入ってきて日本人とつきあったときに、わかるようでわからない。わかるというのは欧米化された日本。それともう1つ、アジア的な日本はわかるけど、もう1つ、わからないところがこの3つ目の世界だと思います。そして、それが先ほど言いましたような、古くから引きずられているものですし、それが日本人の感覚、感性の基盤をつくり上げているものですし、そこには日本人の調和をつくりあげ、集団をつくっているものなどが全部、含まれているように考えております。

いま日本は限界だとか言われていますが、日本の中で限界があるとするならば欧米化された日本。もう1つはアジア的な日本に大きな限界があるんじゃないかと思います。しかし、日本の中ではもう1つの世界が大きく存在しているということ、これをいかに活かしていくかということがこれから大きなテーマであるかのように思います。(拍手)

文化や環境を大切にしながら、 世界の中での調和を…。

大宅 残された時間があと10分ぐらいになってしまいました。最後なんですけど、日本国憲法にも「名誉ある地位を占めたい」と書いてあるんですが、いまどう考えても名誉ある地位ではないんですが、21世紀はそれこそ日本が世界の中で尊敬されるかどうか、望みがないような気もしなくはないですけど尊敬されたほうがいいことはいいわけで、少なくとも今よりはいい位置づけがあってしかるべきだと。そういう日本になるためにどうし

たらいいかということをお三方に、短めに提言をしていただけたらと思うんですけど、金さんからお願いします。

金 日本には素晴らしいものがあります。それに日本人は自分のよって立つところを見出すべきだと思います。かつて日本人が育ててきた倫理観、美徳の数々も、まずルールを守ること、向上心があるということ、勤勉であるということ、物を大切にすること、物づくりを大切にすること。これは日本人が大切にしなければならぬ美徳の数々です。それを少しずつ失ってきたがために、今の日本の問題点があるような気がします。

さらに、先ほど私が言ったような、これからの世界に出て行くために日本人の足りないものは何かということに身に付けていけば、日本はまだ夢と希望のある国だと思っています。まだまだどころか、この前、西アフリカの子供の奴隷制の話が新聞を賑わしておりましたけれども、そういう状態に比べれば日本は実に幸せな国なんです。ただ、その幸せを忘れているということだけなんです。まわりの人に、次の世代に、後輩に、日本がまだどれだけの力を持っているのか、そして夢と希望は自分が見出して自分が追求するものだということを自覚するように伝えていってほしいんです。

皆さんはまっとうに生活をしていらっしゃる方々だと思います。社会の中核をなしている方々だと思います。そういう方々がまず声をあげて、夢と希望は自分が見出して持つべきなのであって、よそから与えられるものではないんだということをしっかりと伝えていってほしいと思います。それで間違いなく、日本は今世紀においても世界の先進国として立派に生き残ると私は信じております。(拍手)

大宅 ありがとうございます。ハンソンさん、お願いします。

ハンソン 単純な言い方をすると、もう少し、「まあ、いろいろあるわ」(笑)というゆったりとしたところがあればいいかなと思うんです。今日、アイデンティティーとかそういうものは自分でつくるものだという話になっています。私もそうだと思うんですけど、自分でつくったら、それがみんなとあまりにも違うとなかなか許してもらえない。「それは、だけど、ちょっと困る」「なんで?」と聞いたら、「だって、みんなと違うもん」と、こうなるわけです。だから、違いのプラス面をもう少し評価して認識して、「ま

あ、いろいろあるわ」と言えるようなゆとり、いろんな形、いろんな可能性、いろんな方向を認める、評価できる。これは非常に抽象的な話だけど、そういうゆとりというかね。すぐにランクづけをするわけよね。八分咲きがええのか、満開がええのか、散った後がええのか、どっちのほうを評価する人が上等で、普通、だめとか、そんなのどうでもいいわけよね。いろんな見方、いろんな評価の仕方があっていい、それだけ豊かになっていく。ややこしい場合もあるんだけど、ややこしさの中に豊かさもあるという可能性を忘れないで、「まあ、いろいろあるわ」というおおらかさをお願いします。

大宅 呉さん、お願いします。

呉 最近、日本の経済が好ましくないということで、能力主義へいくしかない。あるいは、グローバルスタンダード、これはイコール、アメリカンスタンダードとなっているんですが、この道へ行くしかないという声が圧倒的に強いんですが、その道へ行きますと、いくら頑張っても日本は欧米を超えることはできないと思います。そして、それは日本人には向いていないと思います。そこに絶対、振り回されることはないと考えております。

そして日本は日本的なものをもって、これを「脱亜超欧」という言葉を使っていますが、つまりアジアを脱して欧米を超えるようなもの、これは世界的な課題の問題だと思んですが、そのようなヒントは日本の中にたくさんあるかと思います。そう言いますと、国家ということになるとあまりにも抽象的すぎるので、民間はどのようにしたらいいかということなんですね。そもそも日本は政治はいつもだめなんです。しかし、日本の社会はいつもしっかりしてきたので、民間がいつも強い。その民間が国家をつくっていくという意識、私の足元で何をしたらいいのかと。あまり国家というのではなく、自分の地域、自分の団体で、自分の足を置いたところで何をすべきかということを考えていただきたいと思います。

そういう意味で、これからは目先の金儲け主義、経済のあり方、つまり近代合理主義はもう終わっていると思うんです。そこから脱して、これからは文化、環境こそが大きな財産だと思います。これらに民間企業が投資をしながら、国家のためなら民間研究機関などもたくさんつくればいいかと思います。そのようなことをしながら、日本のいいところをより磨きながら、それを守りながら、そして多くの外国人にそれを説明していきながら、特に日

本人は今まで他人といかに調和をしていこうかという歴史ができたわけなんです。そういう意味で、これからグローバル化の時代だと言われるときに、いろんな国の人がいます。そしていろんな文化の持ち主の人たち、考え方の違う人たちとどのように調和をしていけばいいのかというヒントはまさしく日本の中にあると確信しておりますし、そのように民間で自分の足元で具体的にいろいろやっていただきたいと考えております。私もこれから具体的なところで探していきたいと思っておりますので、今後とも皆さんよろしくお願いします。ありがとうございます。(拍手)

一人ひとりが意識して行動すれば、 新しい日本人の顔が見えてくる。

大宅 いろいろな話題で幅広く、いろんな方がいろいろおっしゃいました。青い鳥は外にはいない、私たちのところにいる。日本ってどうもいいところ取りをしてきた、それがうまくいったからこそまできたわけなんですけど、何となくアメーバみたいにあちらの国にも合わせて、こちらの国にも合わせてやっていた時代は終わりで、日本というのはこういうものです。それでよそを説得しなきゃいけない、よそと違うことであっても私たちが信じるところであればそれがアイデンティティーなわけですよ。

金さんがおっしゃったように、一人ひとりが考えることなんです。個の確立はなきゃいけない。今まであんまり個の主張をすると、日本ではいい目に遭わなかったから、みんながずっとといって、7割方の人かこうだなどというところへひょっと乗っかるというのがいちばんうまい生き方だったわけなんですけど、それは生きていくのにとっても楽だけどそれをやっている限りはうまくやる人に牛耳られてしまうということだと思います。

さっきハンソンさんが「いろいろある」と言われましたが、私も「いろいろあらあな」というエッセーを書いたことがあるんです。「日本人は」というのも日本人の悪いところなんですけど、「We Japanese」と外人に言うと、「そんなものは何だ。あんたの意見だろ」とよく言われてます。そういうことがおありになると思うんです。「そうやって日本人を十把一からげにするな。あなたの意見ならあなたの意見だと言え」とよく言われるんです。つまり、日本って7割方ぐらいの人がそうだと思うのがよい意見で、そ

うじゃないと「変」と排除されてしまいます。生き方にしても、小学校から中学、高校へ行って、18歳で大学へ行って大学を出て、会社へ勤めるというのはみんな普通だと思ってませんか。途中でおりるとか、どっかへ行ってまた戻ってくるというのを、本当はやればいいのに、「あの人、ちょっと落ちこぼれた」みたいな話になるから、無理やりその中にいなきゃいけないということが、物すごく私たちを縛っている。「そういう生き方があってもいいじゃない。いろいろある」とみんなが思ったら、随分と生き方が楽になるんだろうなと思います。

呉さんには日本と韓国の美意識の違いというか、そういう違いはなかなか難しいとは思いますが、違うということを前提に物事を考える。「違って当たり前なのよ」とって考え出したら随分いろんなことが見えてくるのではないかなと思います。

今日、地区大会のパンフレットをいただきました「意識を喚起し一進んで行動を」と書いてありました。自民党の一般党員が行動したお蔭で小泉さんになりました。李登輝さんのことも、われわれがサポートして、山本七平さんが言うところの空気ができて、やっと変わったというところがありますが、個人が一人ひとり行動し始めたと思います。それをどんどん推し進めていけば、日本人の顔が見えてきたよというふうに世界からもわかってもらえる日がそう遠くはないのではないかと私自身は感じました。皆さんもぜひ中核にいらっしゃる方々だと思いますので、一歩ずつ足を出していただけたらなと思います。

ちょうど時間になりました。きょうはお三方、ありがとうございました。会場の皆さまもどうもありがとうございました。(拍手)

来 賓

R I 会長代理・元 R I 理事

第2810地区元 R I 理事

第2650地区元 R I 理事

第2560地区ガバナー

第2640地区ガバナー

第2650地区ガバナー

第2680地区ガバナー

第2670地区ガバナー

R I 理事ノミニー

第3640地区パストガバナー

第3480地区パストガバナー

第2640地区パストガバナー

第2640地区パストガバナー

第2530地区パストガバナー

第2550地区パストガバナー

第2750地区パストガバナー

第2630地区パストガバナーロータリー文庫運営委員会監査委員

第2640地区パストガバナー

第2680地区パストガバナー

第2690地区パストガバナー

第2700地区パストガバナー

第2730地区パストガバナー

第2640地区パストガバナー

第2640地区ガバナーエレクト

第2660地区パストガバナー

第2660地区パストガバナー

第2660地区パストガバナー

第2660地区パストガバナー

第2660地区パストガバナー

第2660地区パストガバナー

第2660地区パストガバナー

第2660地区パストガバナー

第2660地区パストガバナー

第2660地区パストガバナー

第2660地区ガバナーエレクト

ガバナー夫人

台北北会長

台北北次期会長

台北北副会長

ロータリーの友

蔡 熙秉 洪 喜子 (ソウル西)

菅野多利雄 (塩 釜)

小谷 隆一 小谷 貞子 (京 都)

吉田 昭平 (村 上)

水田 博史 水田 澄子 (岸和田東)

山崎 時雄 山崎テルミ (彦 根)

中嶋 邦明 (西宮甲子園)

太田 英章 太田 淳 (高 松 南)

菅生 浩三 菅生 和代 (大 阪 北)

朴 鉉奎 李 花淑 (ソウル南)

張 吉雄 張 林麗恵 (台 北 北)

中島治一郎 中島 隆子 (泉 大 津)

大澤 徳平 (堺)

鈴木 喬二 (いわき平中央)

吉澤 兵左 (葛 生)

岩井 敏 (東京京浜)

福井 隆男 福井 章子 (鈴 鹿 西)

堤 啓治 堤 千草 (和 歌 山)

松下 克己 (三 田)

橋本 譲 橋本 玉樹 (倉 敷)

大屋麗之助 大屋 絹子 (福 岡 南)

凶師 鎮雄 (西 都)

亀岡 弘 (泉 南)

前田 孝道 前田 武子 (和歌山東南)

戸田 孝 戸田 操 (八 尾)

坂東 宏 坂東 翠子 (吹 田)

松本 良諄 松本史都代 (大 阪 東)

古田 敬三 古田 昌子 (大 阪)

廣瀬勘一郎 廣瀬ヨシ子 (大阪西南)

大森 慈祥 大森 保延 (茨 木)

熊澤 忠躬 熊澤巴津子 (守 口)

中川 章三 中川 桂子 (大阪城南)

吉川 謹司 吉川 房恵 (東大阪東)

柏木 尚 柏木日出子 (豊 中)

寺田 和之 寺田 初子 (大 阪)

近藤 淑子

馬 長生 (台 北 北)

陳 俊鋒 (台 北 北)

呉 昆民 (台 北 北)

郭 百逸 郭 李明玉 (台 北 北)

熊谷 直樹

招待者

青少年交換学生

(東大阪みどり)
(大阪本町)
(大阪住之江)
(大阪天王寺)
(大阪東南)
(大阪鶴見)
(高槻西)
(東大阪東)
(交野)
(箕面中央)
(寝屋川)
(大阪東淀)
(大阪イブニング)
(大阪リバーサイド)
(大阪中之島)
(大阪大手前)
(大阪天満橋)
(大阪東南)
(大阪鶴見)
(吹田)
(高槻西)
(高槻西)

Henrik Habermann
Alex Brown
Roland Reyes
Peter Maenpaa
Sahil Gambhir
Yves Denis
Aki Korom
石田 朋也
清水 亮子
村田 早織
後路 志帆
裏口 真也
藤本 敏之
乾 裕紀子
菊井 翼
岡田 祥英
池内 真希
堀口奈緒美
武市 真依
平野 杏奈
堀部 寛子
山口 祐子

ROTEX

(会長)
(総務)

伊藤みのり
佐藤 嘉晃
久保 絢子
村上 正晃
松井 圭子
緒方 愛
武市 尚大
濱野 雄一

ロータリー財団国際親善奨学生

(茨木西)
(箕面)
(大阪阿倍野)
(大阪中央)
(大阪城東)
(豊中)
(八尾)

牧野 直史
富田みづ穂
阿南 順子
塩田 康博
西村由記子
山内 美奈
坂上 政美

財団学友

(会長)
(書記)

山下 大悟
弓庭 育子
西村 元延
金 恵子

米山学友会 (関西)

(会長)
(幹事長)

陳 麗華
権 貴玉

米山奨学生

(茨 木 東)
(茨 木 西)
(大 阪)
(高 槻)
(豊 中 千 里)
(大阪大手前)
(八 尾)

金 世姫
文 鍾賢
朴 雄蓮
穆 秀麗
李 世揚
林 南均

Tupou Siaoosi Koheleti

ローターアクト

地 区 役 員

(地 区 代 表)
(地 区 幹 事)
(地区副幹事)
(地 区 会 計)

大 阪 中
ソ ー ン 代 理
大 阪 南
ソ ー ン 代 理
地 区 代 表
ミ ニ

(茨 木)
(池 田)
(大 阪)
(大 阪)
(大 阪 北)
(大 阪 北)
(大阪御堂筋)
(大 阪 西)
(大 阪 南)
(大阪住吉)
(大阪住吉)

紺谷 公二
南 裕一
松本 善弘
泉 富弓
鳥居あすみ
沢田 英士
今井 康二

長友さやか
青井 紀恵
高橋 冬扇
大森 輝一
荻田 英爾
藤本 千晶
丁 啓宇
川間 衛
岩波 啓昭
中登 友紀
飯田 晶代

インターアクト

清風学園高等学校

〈顧問教師〉

小林 三磨

〈インターアクト学生〉

北田 充 加納 秀樹

大阪桐蔭高等学校

〈顧問教師〉

仲谷 浩一

〈インターアクト学生〉

梶田 雅人 喜多村 一

浪速高等学校

〈顧問教師〉

本間 靖彦

〈インターアクト学生〉

山本 尚孝 富尾 聖二

四天王寺学園高等学校

〈顧問教師〉

岡 宏治

〈インターアクト学生〉

佃 美希 橋本 早紀

金光八尾高等学校

〈顧問教師〉

金崎 桂悟

〈インターアクト学生〉

石山 夏樹 元野 浩志

明浄学院高等学校

〈顧問教師〉

山川 義昭

〈インターアクト学生〉

大杉 梨沙 松尾 佳子

RYLA

〈財団法人大阪府青少年活動財団〉

片岡 弘尚

〈大阪府立総合青少年野外活動センター〉

松尾 博之

第2660地区GSE(1999~2000年度)

(団 員)

本多 智佳

第1560地区オランダGSEチーム

(団 長)

Henk Veenbergen

Renate Bergman

Marco Elout

Marjo Evers

Ronald van Lienden

Martina Molendyk

表彰

ロータリー財団功勞表彰

柏木 尚（直前ガバナー・豊 中）

意義ある業績賞（1999～2000年度）

大阪天満橋

R I 会長賞（1999～2000年度）

大 阪 南

大 阪 南 西

大阪うつぼ

摂 津

会員増強と拡大賞（1999～2000年度）

高 槻

（最も高い会員増加率を達成したクラブ）

大 阪

（最も多くの新会員を入会させたクラブ）

大 阪 難 波

（最も高い退会防止率を示したクラブ）

ロータリー財団地区特別奉仕賞

（1万ドル寄付）

池田 正（大阪本町）

ロータリー財団地区奉仕賞

（寄付累計6,000ドル以上のマルチプル・ポール・ハリス・フェロー）

湯谷登來男（東大阪中央）

岡倉 三郎（大阪城南）

瀧川彌州男（大阪なにわ）

服部 良治（高 槻）

ロータリー財団寄付優秀クラブ

（会員一人当たりの年間寄付上位3クラブ）

（1999～2000年度）

第1位 千里メイプル 272.24ドル

第2位 大阪阪南 260.71ドル

第3位 大阪城南 223.51ドル

米山奨学会寄付6千万円達成クラブ

（2000年6月30日現在）

大 阪 東

米山奨学会寄付3千万円達成クラブ

（2000年6月30日現在）

大 東

米山奨学会寄付2千万円達成クラブ

（2000年6月30日現在）

大阪本町

大阪イブニング

大阪城北

大阪東南

米山奨学会寄付1千万円達成クラブ

（2000年6月30日現在）

大阪御堂筋

米山特別功勞賞

（寄付累計1千万円達成）

松浦 純男（大阪イブニング）

ポール・ハリス・フェロー

(*印はマルチプル・ポール・ハリス・フェロー ⑧はベネファクター)

大 東	上田 正義	高島 登	*橋本喜八郎
	*中道 弘美	*米沢 三吾	*上野山昌秀
	*北村 正汎	*奥田 保幸	*中村 隆一
	*河村 孝正	⑧吉田 昭己	
大東中央	市川 貴一	⑧橋本 康夫	⑧伊泊 規子
東 大 阪	渋谷 亨	*川添 堯彬	*松田 重夫
	*山中 政夫	*安田 嘉雄	⑧安田 嘉雄
東大阪中央	*西川 毅		
東 大 阪 東	朝田 全紀	水守 俊明	白谷 和幸
	赤松 慶亮	*前田 昇治	*吉川 謹司
	*城戸 義雄	*小林 一成	*島 顕侑
	⑧島 顕侑		
東大阪みどり	⑧山本 崇雄		
東大阪西	石崎 義公	*谷村 佳昭	*角井 勝美
枚 方	小林 尚美	安積 曜夫	門前 武彦
	井上 良典	*越智 幸雄	⑧津田 公男
茨 木 東	*野田 征夫	*島津 禮次	*中西 勝
茨 木	国里宏一郎	北尾 哲	*若林 三雄
	*岡田 隆夫		
池 田	吉田 昌弘	*荒木久太郎	
池田くれは	表 寛治	⑧溝口 正孝	
門 真	西岡 昭彦	山中喜代治	興津 成実
交 野	*青野 明	*奥 嘉隆	*富田 利一
	*谷島 淳郎	*中西 尚	
箕 面	芝野弘三郎	⑧片山 三郎	
箕面中央	*石田 博和		
守 口	河中 昭秀	菅野 忠彰	江端 将哲
	石山 芳和	平井 秀興	井上 正男
	佐谷戸安好	⑧池永 道彦	
大 阪	今里 英三	*川淵 秀夫	*上田 隆三
	*大多 一雄	*若山 繁	*羽間 平安
	⑧四方 修		
大阪阿倍野	寺本 俊一	大柳 欣也	山口 善治
	辻川 圭乃	小西 節子	*石黒 為三
	*左海 潤一	⑧大浦 浩暢	⑧星野 政弘
大阪ちゃやまち	別所 克美	山下 達雄	⑧木岡 良郎
大阪中央	*北尾 郁二	*益田 照夫	*麦谷 実
	*新田 久治	*高橋 昭男	
大阪堂島	*福光 道太	*川本 幹治	*桑田 圭司
	*増山 博	*西野 公庸	*滝井 鎮
	*梅本 弘	*横山 利夫	
大阪阪南	笠井 勝巳	金澤 広一	河野 利紘
	谷野 清考	*和泉 俊治	*南部 高志
	*大野 定俊	*山本研二郎	*服部 四郎
大 阪 東	小西 幸雄	中平 雄造	*中井 梅雄

	*藤井 邦夫	⑧若林 紀男	⑧川村 貞行
	⑧小坂 憲司		
大阪平野	喜多 敏明	三野 久光	*又吉 宗治
	*島田喜代司	*米田 元雄	
平野本町	*石橋 正紀	*長澤 亨	*岡野啓治郎
	⑧田 晴重		
大阪イブニング	*三木 優	*庄野 昇	*宇野 能史
大 阪 城	和田 眞実	*田中 俊男	*加藤 勉
大阪城南	三木 敏裕	仙田 良行	*津和 章雅
	*泉 吉次郎	*片山 勝彦	*岡本克持郎
	*佐伯 爲次	*杉原 茂	*砂田 純男
	*鈴木 良造	*遠田 義昭	*赤澤 肇一
	*八尾 嘉之	*藤澤 省三	*野中 一彦
	*有光 幸郎		
大阪城東	福山 信也	中原 昭市	廣田 允義
	中村 和子	⑧木村 昌民	⑧桂 知良
	⑧吉田 長三		
大阪柏原	町野 勝康	*田中 義男	*西尾 寛一
	*岩崎 泰一	*杉原 久史	*隅谷 尚典
	⑧植田 勤		
大 阪 北	松平 佳敬	藤田 毅	河村 禧郎
	緒方 満	島田誠次郎	岩田 和夫
	池田喜八郎	上山 清治	山下 健一
	浜田 晋	杉原 徳一	*平川 恵一
	*吉田 譲次	*松本 進也	*伴 昭秀
	*和中 裕	*渋谷 敏郎	⑧武田 佳次
大阪北梅田	細田喜代司	白石 章	*平澤 久夫
	*出口 敏朗	*門脇 義房	*水野 哲次
	⑧山田 崇雄		
大阪北淀	新田 義信	菅本憲市郎	更井 啓介
	⑧新田 義信		
大阪御堂筋	安部 潤一	衣笠 哲雄	斎藤 嘉朗
	高橋 勝彦	大西 健路	近藤 建司
	坂田 哲男	西辻 毅	*岩津 陽介
	*近藤 貞彦	*山下 治源	*山田 和義
	*吉田 次郎	*祖父江一郎	⑧祖父江一郎
大 阪 南	岡村 純	錦織 達郎	最上 裕昭
	米田 幹郎	土井 廣	原田 稔
	*高木 慶一	*更家 章太	*樋口 學
	*平岡 英信	*中川 清	*左藤 孜
	*菅生清左衛門	⑧國分 紀一	
大阪リバーサイド	松井 素子	古田 和穂	藤田 正昭
	*神崎 友次	⑧藤井 武治	
大阪中之島	⑧中道 正伸		
大阪難波	井上 吉雄	千賀 莞尔	桑田日出男
	小谷 賢	新堂 衛	*入江 実
	*中澤 正和	*藪嶋 哲夫	⑧土屋 正
大阪なにわ	*時枝 博司		

大阪南西 河合 公子 城内 悦代 田中 謙吉
大 阪 西 山口 義人 大塚 道夫 高士 雅次
山本 貴士 漆山 清 池田 裕彦
*三浦 智明 ③三浦 智明
大阪大手前 *西尾 昌也
大阪大淀 宮城 昭 持田千寿子 山本 誼
*橋本 尚三 *井原 悦司 *岩本 潤三
*丸山 良一 *中川 韶造 *矢野 巖
大阪咲洲 荒石義一郎
大阪西北 藤岡 靖夫 平野 誠治 上田 宏二
三村 恵造 *肥田 昭 *細川 信義
*川上 伸一 *藤井 宏一 *美馬 大道
③美馬 大道
大阪西南 阿部 恭三 中山登美子 大石 和夫
沖中 栄子 佐野 吉延 *露口 佳彦
穴穂 育男 林 怡久雄 岩本 浩平
松谷 廣信 西村 文延 *浅川 幸保
*平山 明彦 *井上 明 *井澤 武尚
*北野 勝己 *村木 正明 *斧原 秀夫
*ト 仁 泗 斉藤 憲司 *武田 實
*谷口 隆義 *若原 一之 *山本 雅之
*俣野富美雄 *岡田 富二 *富本 亨
*渡辺 幹男 *井戸 公夫 *カノ外レドメコ
*甚田 隆康 澤田 宗久 *斉藤 満
*清水 明
大阪心斎橋 田中 等 脇田 貞二 *福西 幸夫
*大前利太郎 *上野 好清
大阪城北 松本 良造 *川本 晴男 *川本 達雄
*加藤 昭男 ③川本 達雄 ③服部 貢
大阪そねざき 辰巳 敦子 *井田 保子 *森本 和代
*井上サエ子 ③竹之内 勲
大阪住之江 田邊 千尋 辻本 泰直 松井 信博
大阪住吉 山本 嘉治 吉田 鎮雄 *小室 甲
*川上 富清 *泉 博朗 *河添佳洋子
*土居 進 *片山 淑子 *西尾 良一
*内田利恵子
大阪天満橋 成松 正和 *重里 國麿 *貝塚 讓
*小寺 一矢 *鍛田 充生 *二宮 秀造
*小澤 満 鈴木 富治 *辻 一郎
*山口 雄康 *安田 義治 *保倉 賢造
*吉野 正史 ③吉澤 秀夫 ③二宮 秀造
大阪天王寺 土居原 作郎 笠原 道夫 川端 一价
津留 正孝
大阪東南 下宮 義弘 *山路 昌彦 *田中 敬一
*大塚 忠重 *大山 文雄 *寺野 弘徳
③田中 研一
大阪鶴見 ③浮舟 邦彦
大阪梅田 平山 博史 中西 藤和 高原 新一

小笹 太郎 ③川口 保
大阪梅田東 中島 英郎 広末 雅昭 梶本 憲史
小湊 收 ③市川 寛城 ③市川 久子
大阪うつぼ 堤 昌彦 *池田 周弘 *大川 篤美
*島野 秀行 *山田 和義
大阪淀川 ③下井 満
千里 西田 泰晤 畑崎 利明 *寺井 明納
千里メイプル 水谷 功 光岡 史富 *岡部 次郎
*岸上 億則
摂津 荒川 義郎 川西 靖裕 鶴見 芳令
*山内 久生 ③樫村 泰信 ③山内 久生
③門田孝三郎 ③鶴見 芳令
四条 木村 幸子 田村 房子 貝阿弥一郎
吹田 井波 静孝 井上 博 上本 博
上野 貞夫 *川上 浩邦 *羽間 勝昌
*柴田 仁 *田中和一郎 *山本 典
③佐藤 庄治
吹田江坂 木下 喜昭 西上 博幸 榎木 庄司
杉本 全司 *長澤 義雄
吹田西 石崎 克弘 吉田 一雄 玉城 明
*小川 勉 *西村 忠雄 *宮川藤一郎
高槻 神田 敏夫 *今堀 幸 *入野 敏夫
*服部 良治 丸山 俊郎 *前内 宏文
③倉本 進
高槻東 岩田 喜義 *浜田 実男 *藤田 圭吾
*樋口 道夫 *北田他実夫 *根岸 宏邦
③杉岡 宗雄 ③下岡 一廣
豊中 豊島 了雄 *森山 貞信 *米田 真
*馬場 一雄 *一瓢 利男
豊中南 國貞 眞司 松本 邦夫 *岩崎 博
*森田 治男 *辻 武司 *山中 久男
豊中一大阪国際空港 坂戸 照雄 *田中 竹二 *齊城 正之
*笹部 義平 ③渡邊 源治
豊中千里 西田 尚道 藤原 安雄 森田 正治
宇都宮 俊晴 星野 嘉男 河崎 守男
阪口 恵子 江上 清夫 ③熊澤 一郎
八尾 三宅 博 山田 寿三 横井 憲二
田中 義明 *板倉與兵衛 *森 慶太郎
*中谷 武男 *佐野 清 *岡田 禮一
*高橋 一郎 *高井 栄彌 *高木 優一
*戸田 孝 *山口 幸雄 *田中 昌之
八尾中央 玉井 利宏 小倉 郁夫 *野中 志郎
*廣瀬 信計
八尾東 岡田 徳一 金銅 宏親 *奥田 長二
*筒井 重之 原田 隆光 *福井 茂行
*藤田 勇 増田 靖博 *鈴木 洋
③鈴木 洋

ありし日のご活躍を偲び
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

横井河盛浅お大辻やま森た高なか中かさ笠はし橋こ小いけ池た田おか岡むら村ふじ藤にし西た田おお大こくり栗はやし林ひ樋ふじ藤おお大ど土	山出野むら村も本井ぜ関ざ崎しま島尾井もと本室田なかだ田井井ふ村なか中や矢か菓山ぐち口井塚い井	山治郎守治司郎磨お雄弘茂一宏雄昇樹郎忠敏一太郎雄人し史ぞう三お雄源つぐ次しよ正郎裕	真下秀治健孝芳道達光浩まさ正和いちまさ正かね兼太文育信尚照芳貴宗桑由太まさ正	(大 阪 北)	2000.	2.	2	清多岸川木村た田宇飯寺畑こ小井岡い伊西み三木山喜多阪小に西上	みず水田もと本村原岡なかの野尾伊左衛門廣章よし義晃吉お夫一お夫お郎廣市お雄か	だ貞昭たつ辰一ひ秀けい啓こう幸ざえ衛門ひろ廣きよし晃きち朗いち建とも知秋はる春幸ひろ弘	やす保ぞう二う三郎隆雄じ次収じ司門ひろ章よし義晃吉お夫一お夫お郎廣市お雄か	(大 阪 東)	2000.	9.	22
		(大 阪 西)		(大 阪 東 南)	2000.	10.	17				(大 阪 梅 田 東)	2000.	11.	1	
		(大 阪 大 手 前)		(大 阪 城 北)	2000.	11.	4				(高 槻 西)	2000.	11.	4	
		(大 阪 阿 倍 野)		(大 阪 北)	2000.	2.	21				(大 阪 東)	2000.	11.	9	
		(高 槻)		(大 阪 南)	2000.	3.	7				(豊 中)	2000.	11.	10	
		(大 阪 天 満 橋)		(大 阪 南)	2000.	3.	8				(大 阪)	2000.	11.	12	
		(池田くれは)		(大 阪 北)	2000.	3.	23				(大 阪 大 手 前)	2000.	11.	26	
		(大 阪 北)		(大 阪 阪 南)	2000.	4.	2				(大 阪 天 満 橋)	2000.	11.	28	
		(八 尾)		(大 阪 阪 南)	2000.	4.	18				(四 条 畷)	2000.	11.	28	
		(大 阪 阪 南)		(大 阪 阿 倍 野)	2000.	4.	21				(高 槻)	2000.	12.	5	
		(大 阪 阿 倍 野)		(大 阪 南)	2000.	4.	22				(大 阪 東)	2000.	12.	10	
		(大 阪 東 淀)		(大 阪 南)	2000.	4.	27				(大 阪 阪)	2000.	12.	16	
		(大 阪 南)		(豊 中 千 里)	2000.	5.	6				(池 田)	2000.	12.	22	
		(茨 木)		(大 阪 南)	2000.	5.	6				(池 田)	2000.	12.	22	
		(大 阪 天 満 橋)		(大 阪 住 吉)	2001.	1.	4				(大 阪 南)	2000.	12.	26	
		(吹 田)		(柏 原)	2001.	1.	5				(大 阪 住 吉)	2001.	1.	4	
		(枚 方)		(枚 方)	2001.	1.	16				(大 阪 阪 南)	2001.	1.	16	
		(交 野)		(大 阪 阪 南)	2001.	1.	16				(豊 中 南)	2001.	1.	24	
		(大 阪 東 淀)		(大 阪 住 吉)	2001.	1.	26				(大 阪 住 吉)	2001.	1.	26	
		(大 阪 ち や や ま ち)		(大 阪 中 之 島)	2001.	1.	30								
		(寝 屋 川)													
		(大 阪 北)													
		(大 阪 阪 南)													
		(大 阪 北)													

大会役員

ガバナー	近藤 雅臣
大会委員長	古市 実
大会副委員長	鴻池 一季
大会幹事	阪本 勝義
ホストクラブ会長	平川 恵一
大会SAA	木本 武雄
大会会計	國枝 幹司
ガバナー補佐	井上 暎夫(千里)
地区アドバイザー	永野啓之介(豊中-大阪国際空港)
地区代表幹事	飯田 正弥

大会委員会

プログラム委員会

委員長	森 輝彦(大阪北)
副委員長	山本 潤(大阪北)
委員	荒井敬一郎(大阪北) 片瀬 貴文(大阪北)
	小谷 泰造(大阪北) 小松 英二(大阪北)
	丹野 敏郎(大阪北) 中原 一朗(大阪北)
	林 博司(大阪北) 原 涼一(大阪北)
	安田 孝(大阪北) 山下 和彦(大阪北)

信任状委員会

委員長	中川 章三(パストガバナー)
委員	光信 昌明(大阪城南) 小山 隆三(大阪城南)
	森山 貞信(豊中) 海堀 寅一(大阪南)

決議委員会

委員長	吉川 謹司(パストガバナー)
委員	井上 暎夫(千里) 吉川 忠章(東大阪東)
	小西 豊和(守口)

選挙委員会

委員長	戸田 孝(パストガバナー)
委員	居相 英機(八尾) 西 正中(大阪城北)
	常楽寺善雄(東大阪東)

表彰委員会

委員長	柏木 尚(パストガバナー)
委員	宮田 宏章(大阪北) 山本 公平(大阪北)
	山田 和雄(大阪御堂筋) 青木禎一郎(豊中)

登録委員会

委員長	丸山 雅祥(大阪北)
委員	栗原 啓之(大阪北) 清水 裕之(大阪北)
	高原 進(大阪北) 橋口文四郎(大阪北)

大会実行委員会

大会委員長 古市 実
 大会副委員長 鴻池 一季
 大会幹事 阪本 勝義
 大会副幹事 田淵 宏政 浜田 晋
 廣田 元孝 米谷 伸行
 大会SAA 木本 武雄
 大会副SAA 緒方 満 阪口 善雄
 大会会計 國枝 幹司
 大会副会計 枡田 圭児
 地区代表幹事 飯田 正弥
 地区副代表幹事 松本 進也

総務委員会

委員長 阪本 勝義
 副委員長 田淵 宏政 浜田 晋 廣田 元孝
 米谷 伸行 樽谷 清孝
 委員 荒井敬一郎 井上 鉄石 井上 亮一
 小林林之助 小松 英二 森川 照光
 真鍋 昭三 吉田 讓次

プログラム委員会

委員長 森 輝彦
 副委員長 山本 潤
 委員 荒井敬一郎 片瀬 貴文 小谷 泰造
 小松 英二 丹野 敏郎 中原 一朗
 原 凉一 林 博司 宮田 宏章
 安田 孝 山下 和彦

登録・受付委員会

委員長 丸山 雅祥
 副委員長 栗原 啓之 清水 裕之 高原 進
 橋口文四郎
 委員 糸川 精一 内山 理 大西 宏史
 小西 和一 柴垣 博宣 菅 謙治
 杉森 恒武 田島 卓也 田中 一朗
 谷東 秀和 田伏 敬忠 千種 一成
 羽室 幸明 益田 哲生 松岡 忠幸
 松岡 憲生 村上 保代 中西 清一
 山本 雅昭 山下 健一 吉田 邦男
 吉倉 正博

会場・食事委員会

委員長 木本 武雄
 副委員長 緒方 満 河村 禧郎 古今堂 紘
 阪口 善雄 蓮尾 碩才 長谷川義幸
 三浦 康生
 委員 鶴飼 修 宇賀 良太 長部文治郎
 河田 一彦 神原 正樹 藏田 徹
 小林 豊 河野真一郎 島田誠次郎
 杉山 龍平 高月 璋介 高橋 徹
 竹内 猛 椿本 哲也 中嶋雄之助
 中西 憲治 中村 富也 浜田 晋
 原 凉一 松原 徳一 村上 満
 山下 鎮雄 山下 嘉治 八木 一雄
 和中 裕 和田 芳雄 北村修一郎
 古武 敏彦 合田 昭男

シンキング 窪田 讓

サブシンキング 原 凉一

部門別懇談会委員会

委員長 吉治 仁義
 副委員長 原 眞一
 委員 足立 一郎 池田喜八郎 池田 道夫
 上田 耕造 上山 清治 金辻 信弘
 加藤 一郎 川口 順弘 後藤 二郎
 笹田 泰秋 清水 英明 鈴木 智之
 仙田 恒夫 曾々木 勉 西村 脩
 伴 昭秀 古野 清賢 増井 公一
 森 禎良 後藤 凌司

接待委員会

委員長 佐藤 鉄雄
副委員長 小谷 泰造
委員 井上 鉄石 長部文治郎 河村洋二郎
木岡 良平 桐山 輝彦 小林林之助
笹岡 正治 武田 佳次 椿本 照夫
西田 文明 埜田 孝文 野村順一郎
早嶋 健 藤田 彬 前田 義里
松崎雄二郎 松田英三郎 南 賢兒
森川 照光 甕 哲司
栗本 友和 (R I 会長代理付)

広報委員会

委員長 荒井敬一郎
副委員長 浅井 隆 高崎 貞夫 山浦 莊平

記録委員会

委員長 安田 孝
副委員長 渋谷 敏郎
委員 赤澤 庄三 荒巻 恭士 道幸彦三郎
河原 秀樹 脇坂 悦男 山本 賢三

救護委員会

委員長 藤田 毅
副委員長 加納 繁照
委員 福井 健二 井上 欣也 白壁 武博
西村 博 三宅 侃 盛岡 清孝
吉矢 生人

表彰委員会

委員長 宮田 宏章
副委員長 山本 公平
委員 伊藤 俊夫 岩田 和夫 大堅 敢
奥村 正策 表 久守 黒田 恭年
本田 陽一 松平 佳敬 真野清以志
五十嵐久也 鹿浦 英毅

家族プログラム委員会

委員長 圓井 東一
副委員長 井上 亮一 木村 哲郎
委員 石田 豊司 魚本慶一郎 江崎 正道
緒方 卓二 小西池庸吉 薩摩 卯一
鳴海 欽一 藤井 徹 山川善一郎
山口 照雄

地区大会登録並びに本会議出席人数

クラブ名	(A)1月1日会員数	(B)登録人数	(C)本会議出席	(C) / (A)
大東	68	67	52	76%
大東中央	30	30	19	63%
東大阪	71	68	5	7%
東大阪中央	52	45	31	60%
東大阪東	79	68	51	65%
東大阪みどり	47	48	4	9%
東大阪西	55	54	22	40%
枚方	53	51	30	57%
枚方くずは	56	50	38	68%
茨木	45	44	27	60%
茨木東	41	39	22	54%
茨木西	41	38	17	41%
池田	44	41	16	36%
池田くれは	45	45	23	51%
門真	30	31	23	77%
交野	39	36	17	44%
箕面	33	30	19	58%
箕面中央	41	41	14	34%
守口	84	72	33	39%
守口イブニング	38	38	5	13%
寝屋川	48	45	38	79%
寝屋川東	30	29	12	40%
大阪	289	274	63	22%
大阪阿倍野	32	26	20	63%
大阪ちゃやまち	43	39	35	81%
大阪中央	67	67	21	31%
大阪堂島	49	49	7	14%
大阪阪南	69	68	33	48%
大阪東	136	136	28	21%
大阪東淀	55	55	36	65%
大阪平野	40	40	42	105%
大阪本町	48	44	17	35%
大阪イブニング	37	37	13	35%
大阪城	15	15	14	93%
大阪城南	73	70	43	59%
大阪城東	58	58	29	50%
大阪柏原	47	43	22	47%
大阪北	180	169	138	77%
大阪北梅田	45	43	23	51%
大阪北淀	48	48	26	54%
大阪御堂筋	69	68	14	20%
大阪南	176	141	27	15%
大阪リバーサイド	41	35	22	54%
大阪中之島	48	44	41	85%

(本会議出席人数には家族を含む)

クラブ名	(A)1月1日会員数	(B)登録人数	(C)本会議出席	(C) / (A)
大阪難波	71	69	31	44%
大阪なにわ	50	50	41	82%
大阪南西	67	64	46	69%
大阪西	90	82	19	21%
大阪大手前	57	47	19	33%
大阪大淀	62	62	29	47%
大阪咲洲	28	28	15	54%
大阪西北	72	72	45	63%
大阪西南	106	83	32	30%
大阪船場	56	54	28	50%
大阪心斎橋	66	64	35	53%
大阪城北	67	61	22	33%
大阪そねざき	61	60	39	64%
大阪住之江	38	33	19	50%
大阪住吉	63	59	59	94%
大阪天満橋	102	102	23	23%
大阪天王寺	34	34	16	47%
大阪東南	50	48	36	72%
大阪鶴見	48	47	38	79%
大阪梅田	62	62	13	21%
大阪梅田東	56	56	8	14%
大阪うつぼ	53	53	24	45%
大阪八尾フレンド	25	24	10	40%
大阪淀川	59	55	14	24%
千里	58	60	41	71%
千里メイプル	31	30	25	81%
摂津	48	45	32	67%
四条畷	21	19	7	33%
吹田	74	71	53	72%
吹田江坂	47	46	40	85%
吹田西	61	62	62	102%
高槻	67	65	11	16%
高槻東	49	49	30	61%
高槻西	43	40	20	47%
豊中	51	51	21	41%
豊中南	46	43	21	46%
豊中-大阪国際空港	35	35	30	86%
豊中千里	41	41	34	83%
八尾	85	85	43	51%
八尾中央	34	33	23	68%
八尾東	52	47	30	58%
大阪ユニバーサルシティ	27	27	18	67%
合 計	5,048	4,797	2,434	48%

※この他、西宮、台北北、ソウル南等地区外ロータリークラブのご出席をいただきました。

2000～2001年度 国際ロータリー第2660地区

地区大会収支報告書

大会会計 國枝 幹司
会計監査 國分 紀一

本会計 <収入の部>

(単位：円)

科 目	金 額	摘 要
大会登録料	38,832,000	会員 8,000×4,804名 家族 5,000× 80名
大会分担金	15,109,000	前期 7,528,500 後期 7,580,500
地区補助金	990,000	地区会計より RI会長代理記念品、歓迎費ほか
雑 収 入	811,387	お祝金、出展料、利息
合 計	55,742,387	

本会計 <支出の部>

(単位：円)

科 目	金 額
印刷費	4,485,600
交通費・通信費	256,770
会合費	1,257,851
登録費	1,371,720
記録誌費	8,674,953
人件費	3,382,273
事務用品費	140,706
事務所費	900,000
記念品代	410,000
雑費	482,917
小 計	21,362,790
プログラム	家族プログラム補助 1,447,770
	シンポジウム 4,158,000
	余興費 2,486,925
	舞台進行費 2,021,250
小 計	10,113,945
会 場	第1日目 4,961,365
	第2日目 10,436,777
小 計	15,398,142
接 待	一般接待 1,029,708
	来賓接待 3,274,747
	食事・弁当 1,060,883
小 計	5,365,338
晩餐会補助	1,433,279
事後処理費	68,893
合 計	53,742,387
差引余剰金	2,000,000

※上記差引剰余金2,000,000円は02/7～03/6期
新ガバナー事務所設置準備金に充当する。

別会計 家族プログラム(ユニバーサル・スタジオ・ジャパン) (単位：円)

収入の部		支出の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
チケット代 (7,651名分)	33,762,000	入 場 料	35,053,770
本会計補助	1,447,770	案内書印刷費	84,000
		人件費(係員待機)	72,000
合 計	35,209,770	合 計	35,209,770

別会計 RI会長代理ご夫妻歓迎晩餐会

(単位：円)

収入の部		支出の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
登録料 20,000×329名	6,580,000	宴 会 費	6,858,279
本会計補助	1,433,279	余 興 費	1,155,000
合 計	8,013,279	合 計	8,013,279

編 集 後 記

地区大会の記録書が出来上がりましたので、ここにお届けします。これは例年になく早い時期の完成で、近藤ガバナー、古市大会委員長、阪本大会幹事をはじめみなさんのご協力のおかげと感謝しております。

本年度の地区大会は、RIテーマ「意識を喚起し、進んで行動を」に基づき、「21世紀、われわれは如何にあるべきか」と「21世紀・日本および日本人のアイデンティティー」を大会テーマとして、新世紀の新しいロータリーの位置づけを創造することが、開催意義であるとの考えのもとに、いろいろなユニークなプログラムが組まれました。

その結果、1日目のロータリアンによる討論、2日目のそれぞれ国籍の異なる女性評論家による記念シンポジウムとも、充実した内容でたいへん好評でした。この記録書ではできるだけ発言を忠実に伝えたいとおもいから、とくに2日目のシンポジウムは十分なページをさいて、そのすべてを収録しました。

とくに心がけたことは、誤字・脱字などの校正ミスを犯さない、ということでした。またページによって活字の大きさに大小があるのも編集の基本として考えられないことなので、細心の注意をはらいました。少なくとも、来年創立50周年を迎える大阪北ロータリークラブとしての矜持は保つことができたと思っております。

最後に、地区大会事務局、ガバナー事務所、そして大阪北ロータリークラブ事務局の皆さま、いろいろご協力くださり、まことにありがとうございました。心より感謝申し上げます。

2001・8・31

記録委員長 安田 孝(大阪北)

平成13年8月31日発行（非売品）

発 行 大阪北ロータリークラブ
〒530-8350 大阪市北区角田町8-7
阪急百貨店5階
TEL 06(6361)2681
FAX 06(6577)1608

編 集 地区大会記録委員会

